



HP Device Manager 4.6

管理者ガイド

© Copyright 2014 Hewlett-Packard
Development Company, L.P.

Pentium は、米国 Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。
Microsoft および Windows は、米国 Microsoft Corporation およびその関連会社の商標です。Java は Oracle およびその関連会社の商標または登録商標です。

本書で取り扱っているコンピューター ソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、HP から使用許諾を得る必要があります。FAR 12.211 および 12.212 に従って、商業用コンピューター ソフトウェア、コンピューター ソフトウェア資料、および商業用製品の技術データは、ベンダー標準の商業用ライセンスの下で米国政府に使用許諾が付与されます。

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。HP 製品およびサービスに対する保証は、当該製品およびサービスに付属の保証規定に明示的に記載されているものに限られます。本書のいかなる内容も、当該保証に新たに保証を追加するものではありません。本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。本書に記載されている製品情報は、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対しては、責任を負いかねますのでご了承ください。

初版：2014 年 2 月

製品番号：762788-291

目次

1 はじめに	1
HP Device Manager とは	1
概要	2
HP Device Management Console	3
HP Device Management Server	3
HP Device Management Gateway	3
HP Device Management Agent	3
リポジトリ	4
用語および定義	5
最新の更新プログラムの参照先	5
2 HP Device Manager (HPDM) をお使いになる前に	6
システム要件	6
HP Device Management Server の要件	6
HP Device Management Gateway の要件	7
HP Device Management Console の要件	7
HP Device Management Agent の要件	7
マスター リポジトリ コントローラーの要件	9
ネットワークに関する要件	9
ポートの要件	10
HP Device Manager (HPDM) のインストール	10
HP Device Manager (HPDM) 4.6 Service Pack のインストール	11
HP Device Management Console の使用	12
HP Device Management Console へのログイン	12
HP Device Management Console の概要	12
オペレーティング システムのタブ	13
[HPDM Gateway] (HPDM ゲートウェイ) タブ	14
デバイス システムの検出	15
デバイスのプロパティの表示	15
基本資産情報	15
完全な資産情報の収集	16
完全なデバイス資産情報の表示	17
デバイス システムの HP Device Management Agent を最新に保つ	17

3 デバイスの検出	18
自動登録（標準的な Thin Client）	18
自動登録（PCoIP Zero Client）	19
DNS サービス レコードの使用	19
DHCP ベンダー クラス オプションの使用	19
デバイスの検索	20
[Walking With IP Range]（IP 範囲によるウォーキング）方式の使用	21
IP スコープの設定	21
[Walking With IP List]（IP 一覧によるウォーキング）方式の使用	21
手動でのデバイスの登録	22
複数デバイスの手動登録	23
 4 タスクの使用	 24
タスク テンプレート	24
タスク テンプレートの作成および編集	25
テンプレートのお気に入りへの追加	25
タスク テンプレートのインポートおよびエクスポート	25
テンプレート シーケンスの使用	28
_Template Sequence	28
基本テンプレート シーケンス	28
詳細テンプレート シーケンス	29
タスク	29
タスクの実行	29
タスクの状態アイコン	30
タスク パラメーター	31
手動タスク	31
[Valid Time, Timeout & WOL]（有効な時刻、タイムアウト、およびウェイクオン LAN）	31
[Target Device List]（対象のデバイスイ覧）	31
[Schedule & Batch Control]（スケジュールおよびバッチ制御）	31
タスクの延期	32
タスクのプロパティの表示	32
タスク パラメーターの設定	32
タスクの一時停止	33
タスクの続行	33
タスクの再送信	34
タスクのキャンセル	34
タスクの削除	34

タスク ログの表示	34
タスクの成功率の表示	34
シャドウイングのために VNC Viewer を開く	35
結果のテンプレートを開く	35
すべてのユーザーからのタスクの表示	35
タスク ルール	35
新しいルールの追加	35

5 デバイスの管理 37

デバイスの表示	37
デバイスの削除	38
デバイスのグループ化	38
DHCP タグを使用したグループ情報の設定	38
手動グループ化への切り替え	39
新しい手動グループの追加	39
動的グループ化	39
新しい動的グループ化スキーマの作成	39
動的グループへの切り替え	40
デバイスのフィルター処理	40
新しいデバイス フィルターの作成	40
デバイス フィルターの編集	40
フィルターのセキュリティ	41
ネットワーク接続状態の確認	41
デバイスに関する情報の印刷	42
デバイス情報の印刷	42
デバイスのシャドウイング	42
電源の管理	43
標準的な Thin Client の管理	43
デバイスのホスト名の変更	43
接続のキャプチャおよび展開	43
設定のクローン作成および展開	44
カスタム設定の適用	44
ファイルおよびレジストリ設定の管理	45
ファイルのキャプチャ	46
ファイルの展開	47
ファイルの削除	47
デバイスのレジストリ設定の管理	48
レジストリ設定のクローン作成	48

レジストリ設定の追加、編集、および削除	48
リモートでのコマンド実行	49
リモートでの Windows スクリプトの実行	50
[_File and Registry]タスクの一時停止	50
プログラム レコードの追加または削除	50
スクリプトの実行	51
SCEP での証明書の登録	51
PCoIP Zero Client の管理	51
接続のキャプチャ	51
接続の展開	52
ファームウェアのアップデート	52

6 イメージング操作 53

イメージングのサポート マトリックス	53
PXE を使用しないイメージング	54
PXE を使用しないでイメージをキャプチャする	55
PXE を使用しないでイメージをキャプチャした場合に保持される設定	56
PXE を使用しないでイメージを展開する	56
PXE を使用しないでイメージを展開した場合に保持される設定	57
PXE を使用したイメージング	57
PXE を使用してイメージをキャプチャする	57
PXE を使用してイメージを展開する	58
PXE イメージングのための環境設定	58
PXE イメージング用の DHCP サーバーの設定	58
DHCP サーバーが HP Device Management Server とは別のコン ピューターにインストールされている場合	58
DHCP サーバーが HP Device Management Server と同じコン ピューターにインストールされている場合	59
PXE イメージング用の Linux DHCP サーバーの設定	60
PXE イメージング用のルーターの設定	60
PXE イメージング用に従来の Neoware デバイスの BIOS を設定する	61

7 リポジトリの管理 62

ウィザードからの初期化	62
使用するファイル プロトコルの選択	62
マスター リポジトリの設定	62
チャイルド リポジトリの設定	63
チャイルド リポジトリの削除	63

リポジトリのエクスポート	63
リポジトリのインポート	64
リポジトリの同期	64
内容の管理	64
ペイロードの詳細情報の表示	65
マスター リポジトリの内容の削除	65
[File Captured] (キャプチャしたファイル) カテゴリからの内容のダウンロード	65
リポジトリのマッピング	65
バッチ マッピング	65
デバイスごとのマッピング	66
8 セキュリティ管理	67
ユーザーの管理	67
ユーザーの追加	67
ユーザーの削除	67
ユーザーのグループへの割り当て	67
ユーザーのパスワードの変更	68
ユーザーへのセキュリティ フィルターの割り当て	68
グループの追加	68
グループへのアクセス権の割り当て	68
ユーザーのグループへの割り当て	68
グループへのセキュリティ フィルターの割り当て	69
グループの削除	69
LDAP および Active Directory でのユーザー認証	69
構成	69
ユーザーおよびグループのインポート	70
認証の管理	72
キーの管理	73
HP Device Management Gateway のアクセス制御	74
9 レポートの管理	75
レポート テンプレートの追加	75
レポート プラグイン ファイルのインポート	75
レポート テンプレートを使用したレポートの作成	76
レポートの生成	76
HP Device Management Gateway レポート	76
デバイス情報レポート	76
デバイス タスク レポート	76

タスク レポート	77
タスク状態レポート	77
タスク ログ レポート	77
10 Status Walker (状態ウォーカー)	78
Status Walker (状態ウォーカー)	78
Status Walker (状態ウォーカー) の作成	78
Status Walker (状態ウォーカー) の設定	79
Status Snapshot (状態スナップショット)	79
11 HP FTP Software Component Browser (HP FTP ソフトウェア コンポーネント ブラウザー)	80
タスク テンプレートの生成	80
HP FTP プロキシ設定の構成	81
12 HPDM Server Backup and Restore Tool (HPDM Server バックアップおよび復元ツール)	82
HP Device Management Server のバックアップ	83
HP Device Management Server の復元	83
13 HPDM Port Check Tool (HPDM のポート チェック ツール)	85
14 HP Device Management Agent ポーリングおよびエラー ログ	86
HP Device Management Agent ポーリング	86
エラー ログ	86
HP Device Management Agent ログ	86
HP Device Management Gateway ログ	87
HP Device Management Server および HP Device Management Console ログ	87
マスター リポジトリ コントローラー ログ	88
付録 A テンプレート リファレンス	89
[File and Registry] (ファイルおよびレジストリ)	89
[Agent] (エージェント)	89
[Connections] (接続)	90
[Imaging] (イメージ)	90
[Operations] (操作)	90
[Settings] (設定)	91
[Template Sequence] (テンプレート シーケンス)	92

付録 B ポート リファレンス	93
HP Device Management Console のポート	93
HP Device Management Server のポート	94
HP Device Management Gateway のポート	95
HP Device Management Agent のポート	97
リポジトリのポート	99
索引	102

1 はじめに

HP Device Manager とは

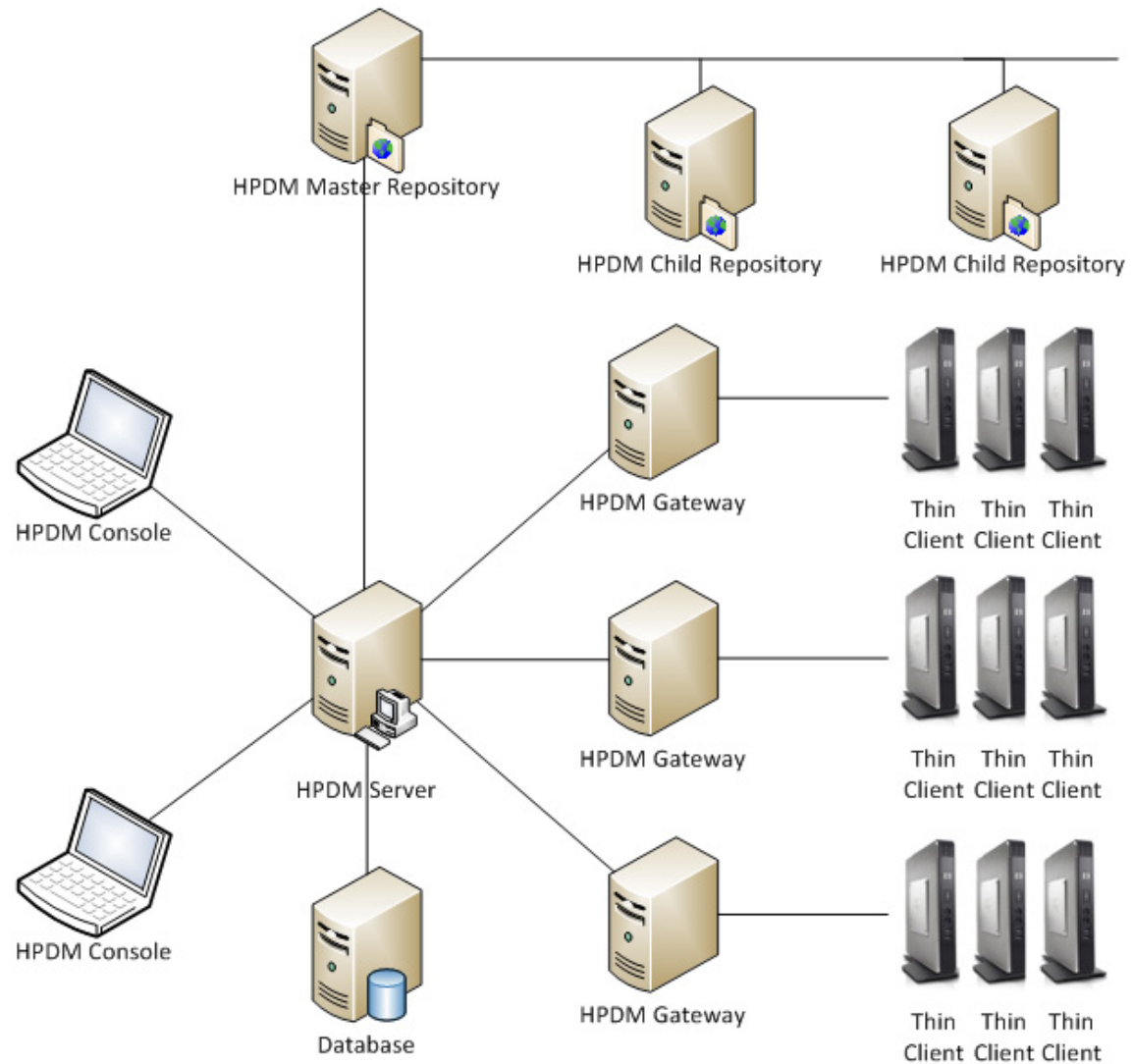
HP Device Manager（HPDM と呼びます）はサーバーベースの強力なアプリケーションで、HP ソフトウェアを実行する Thin Client デバイスの管理機能を一元化します。HPDM には、以下のような機能があります。


- 集中管理ツール
- タスクによって処理される Thin Client 管理
- HP Thin Client のすべてのオペレーティング システムのサポート
- データ暗号化機能を備えた安全な通信チャネル
- WAN 環境のサポート

概要

HP Device Manager (HPDM) は、コンソール、サーバー、ゲートウェイから構成されるシステムです。

図 1-1 HPDM の概要



 **注記：** HPDM システムはとても柔軟に展開できます。詳しくは、<ftp://ftp.hp.com/pub/hpdm/Documentation/WhitePapers/>（英語サイト）から、展開についてのホワイトペーパーを参照してください。

HP Device Management Console

HP Device Management Console は、HP Device Manager (HPDM) のユーザー インターフェイスであり、任意の数のコンピューターにインストールできます。複数の HP Device Management Console から、HP Device Management Server を操作できます。

HP Device Management Console を使用すると、システム管理者は以下を行うことができます。

- 制御されている各デバイスの詳細の表示
- デバイス ツリーの構成
- リモート ジョブ定義の作成およびメンテナンス
- デバイスに送信されたタスクの監視

HP Device Management Server

HP Device Management Server は、HP Device Management Gateway を通して HP Device Management Agent を制御します。


HP Device Management Server 上にタスク テンプレートとして保存されているタスクは、各 HP Device Management Agent のそれぞれの HP Device Management Gateway を介して各 HP Device Management Agent に送信されて、必要に応じてコマンドを実行できます。

 **重要：** 使用できる HP Device Management Server はシステム内に 1 台のみです。

HP Device Management Gateway

HP Device Management Gateway は、HP Device Management Agent と HP Device Management Server の間のリンクとして機能します。HP Device Management Agent は、起動時に HP Device Management Gateway に登録されます。

特定のネットワーク アーキテクチャまたは負荷分散には複数の HP Device Management Gateway が必要な場合もありますが、必須というわけではありません。多くの場合、HP Device Management Gateway を 1 つインストールして異なるサブネット上にある数千台のデバイスを管理するという方法も展開戦略として妥当です。単純な単一のネットワーク環境では、同じコンピューターで HP Device Management Gateway と HP Device Management Server をホストできます。

 **ヒント：** HP Device Management Gateway に設定されたコンピューターには、通常、HP Device Manager (HPDM) によって PXE サーバーもインストールされています。

HP Device Management Agent

HP Device Management Agent はデバイスにインストールされているソフトウェア コンポーネントで、これによって HP Device Manager (HPDM) は各デバイスとやり取りできます。HP Device Management Agent はオペレーティング システムに組み込まれているため、デバイスを設置したらずぐに HPDM で管理できます (古いデバイスの HP Device Management Agent はアップグレードが必要な場合があります)。

HP Device Management Agent は HP Device Management Gateway からタスク コマンドを受け取り、コマンドを実行して、結果を HP Device Management Gateway に報告します。

リポジトリ

リポジトリは、タスク ペイロード ファイルが保存されている場所です。HP Device Management Server からのタスクに応じて、HP Device Management Agent はリポジトリからファイルをダウンロードしたり、リポジトリにファイルをアップロードしたりします。ファイルの種類には以下が含まれますが、これらに限られません。


- デバイス イメージ
- イメージング ツール
- HP Device Management Gateway および HP Device Management Agent ファイル
- ソフトウェア コンポーネント（アドオン）

リポジトリ システムのコンポーネントは以下のとおりです。

- **マスター リポジトリ**：すべてのペイロード ファイルが保存されます。使用できるマスター リポジトリはシステム内に 1 つのみです。
- **チャイルド リポジトリ**：すべてまたは一部のペイロード ファイルが保存されます。チャイルド リポジトリは複数作成できます。
- **マスター リポジトリ コントローラー**：マスター リポジトリのペイロード ファイルを管理し、HP Device Management Server の要求に応じてファイルをチャイルド リポジトリと同期させます。マスター リポジトリ コントローラーは、マスター リポジトリと同じコンピューター上にインストールする必要があります。


リポジトリは標準のファイル サーバーであり、以下のプロトコルをサポートします。

- FTP（File Transfer Protocol）
- FTPS（FTP Secure）
- SFTP（Secure FTP）
- SMB（Server Message Block）

 **ヒント**： SMB プロトコルはネットワーク ファイル共有プロトコルです。Windows に実装され、共有フォルダー機能として知られています。Linux では Samba として知られています。CIFS（Common Internet File System）プロトコルは SMB から派生したものです。

以下のとおり、リポジトリには 1 つまたは 2 つのプロトコルを使用できます。

- プロトコルを 1 つだけ使用する場合は、上記の 4 つのプロトコルから選択できます。
- 2 つのプロトコルを使用する場合は、一方を SMB にする必要があります。SMB は Windows Embedded Standard（WES）でのキャッシュなしのイメージング操作に必要です。もう一方のプロトコルとして、HP ThinPro および HP Smart Zero Core でのイメージング操作には他の 3 つ（FTP、FTPS、SFTP）のどれかをおすすめします。SMB はこれらのオペレーティング システムでは十分にサポートされていないからです。その他のタスクには任意のプロトコルを使用できます。

 **ヒント**： 1 つのリポジトリに 2 つのプロトコルを設定するときは、キャッシュなしの WES イメージ タスクの場合を除き、先に FTP、FTPS、または SFTP を試してください。

用語および定義

表 1-1 用語および定義

用語	定義
デバイス	デバイスとは、HP Device Manager (HPDM) によって管理されている Thin Client などのデバイスを意味します
パッケージ	<p>パッケージは、記述ファイル、およびペイロード ファイルが格納されたフォルダーで構成されます。パッケージの名前はフォルダーの名前と同じです。有効な文字列をフォルダー名に使用できます</p> <p>記述ファイルには「パッケージ名-チェックサム文字列.desc」という形式の名前が付けられます。チェックサムは、すべてのペイロード ファイルのファイル名またはフォルダー名をアルファベット順に並べ替え、深さ優先トラバースを実行して計算されます</p>
PXE	<p>PXE (Preboot eXecution Environment) は、データ記憶装置またはインストールされているオペレーティング システムに関係なく、ネットワーク インターフェイスを使用してコンピューターを起動するためのネットワーク プロトコルです。</p> <p>HPDM は、PXE を利用してデバイス イメージの抽出および配布を実行します。PXE は、リモートでのシステムの復元に最適なオプションのイメージング方式です</p>
ルール	<p>ルールを使用すると、タスクの実行を自動化できます。各ルールには、以下の 3 つの部分が含まれます</p> <ul style="list-style-type: none">• フィルター：どのデバイスにどのルールを適用するかを定義• トリガー：いつルールを実行するかを定義• テンプレート：デバイス上で実行する操作を定義
タスク	タスクとは、デバイスまたはデバイスのグループに対してタスク テンプレートを実行するようにスケジュールされた処理です。タスクはテンプレート、実行スケジュール、および対象のデバイス一覧の組み合わせです
タスク テンプレート	<p>タスク テンプレート (またはテンプレート) は XML ファイルであり、管理者がデバイス上で実行させる設定変更やソフトウェア更新が定義されています。HPDM には、デバイスを管理するための各種の組み込みタスク テンプレートが用意されています</p> <p>タスク テンプレートは、HP Device Management Console のツールを使用してインポートまたはエクスポートできます。新しいタスク テンプレートは、HP の FTP サイトからダウンロードして、HP Device Management Server にインポートできます</p>
テンプレート シーケンス	テンプレート シーケンス (またはシーケンス) は、複数のテンプレートを 1 つのタスクにまとめて送信し実行できる特殊なタスク テンプレートです
書き込みフィルター	書き込みフィルターには、ランタイム イメージを書き込み禁止にする機能があります。すべての書き込み要求を別のディスク パーティションまたは RAM にリダイレクトすることによって、ランタイム イメージが書き込み可能であるように見せます

最新の更新プログラムの参照先

最新のドキュメントおよびソフトウェア アップデートを確認するには、以下の操作を行います。

▲ <ftp://ftp.hp.com/pub/hpdm/> (英語サイト) にアクセスします。

または

HP のサポート Web サイト、<http://www.hp.com/jp/support/> にアクセスして、「HP Device Manager」を検索してください。

2 HP Device Manager（HPDM）をお使いになる前に

この章では、以下の項目について説明します。

- [システム要件](#)
- [HP Device Manager（HPDM）のインストール](#)
- [HP Device Management Console の使用](#)
- [デバイス システムの検出](#)
- [デバイスのプロパティの表示](#)
- [デバイス システムの HP Device Management Agent を最新に保つ](#)

システム要件

ここでは、HP Device Manager（HPDM）の最低限のシステム要件について説明します。

HP Device Management Server の要件

表 2-1 HP Device Management Server の要件

コンポーネント	要件
オペレーティング システム	Windows Server 2003 Service Pack 2（64 ビット）
	Windows Server 2003 R2 Service Pack 2（32 ビットおよび 64 ビット）
	Windows Server 2008 Service Pack 2（32 ビット）
	Windows Server 2008 R2 Service Pack 1（64 ビット）
	Windows Server 2012（64 ビット）
他社のソフトウェア	Java Runtime Environment バージョン 6 アップデート 45（インストーラーに付属）
	以下の DBMS（データベース管理システム）のどれかが必要です
	<ul style="list-style-type: none">• Microsoft SQL Server 2005 以降• PostgreSQL 8.3 以降（インストーラーに付属）
ハードウェア	Pentium® IV 以上
	1 GB の RAM
	2 GB のディスクの空き領域

HP Device Management Gateway の要件

表 2-2 HP Device Management Gateway の要件

コンポーネント	要件
オペレーティング システム	Windows Server 2003 Service Pack 2 (64 ビット)
	Windows Server 2003 R2 Service Pack 2 (32 ビットおよび 64 ビット)
	Windows Server 2008 Service Pack 2 (32 ビット)
	Windows Server 2008 R2 Service Pack 1 (64 ビット)
	Windows Server 2012 (64 ビット)
ハードウェア	Pentium IV 以上
	1 GB の RAM
	2 GB のディスクの空き領域

HP Device Management Console の要件

表 2-3 HP Device Management Console の要件

コンポーネント	要件
オペレーティング システム	Windows Server 2003 Service Pack 2 (64 ビット)
	Windows Server 2003 R2 Service Pack 2 (32 ビットおよび 64 ビット)
	Windows Server 2008 Service Pack 2 (32 ビット)
	Windows Server 2008 R2 Service Pack 1 (64 ビット)
	Windows Server 2012 (64 ビット)
	Windows XP Professional Service Pack 3 (32 ビット)
	Windows 7 Enterprise Service Pack 1 (64 ビット)
他社のソフトウェア	Java Runtime Environment バージョン 6 アップデート 45 (インストーラーに付属)
ハードウェア	Pentium IV 以上
	1 GB の RAM
	1 GB のディスクの空き領域

HP Device Management Agent の要件

HP Device Manager (HPDM) は、製造終了から 3 年以内のすべての HP Thin Client を完全にサポートします。また、それ以外のすべての HP Thin Client を部分的にサポートします。サポート範囲については、以下の表を参照してください。

以下の表に、HPDM 4.6 でサポートされるデバイスの種類およびオペレーティング システムを示します。完全サポート (F) は、HPDM 4.6 の既存の機能および新機能がすべてサポートされることを意味します。部分サポート (P) は、設定および接続を除く既存の機能と新機能がすべてサポートされることを意味します。

デバイスの種類	Win XPe	WES 2009	WES 7E (32 ビット)	WES 7P (32 ビット)	WES 8 (64 ビット)	Win CE 6.0	HP ThinPro 4	HP ThinPro 3	HP Smart Zero Core	Teradici
4320t		F	F							
6360t		F	F							
gt7720		P								
gt7725								P		
mt40			F							
mt41			F							
t310										F
t410									F	
t410 AiO									F	
t505		F	F				F			
t510		F	F			F	F		F	
t5145								P		
t5325								P		
t5335									F	
t5400		F								
t5530						P				
t5540						P				
t5545								P		
t5550						F				
t5565							F	F		
t5565z									F	
t5570		F								
t5570e			F							
t5630	P									
t5730	P									
t5735								P		
t5740	F	F								
t5740e			F							
t5745							F	F		
t610		F	F	F	F		F		F	
t620			F	F	F		F		F	

デバイス の種類	Win XPe	WES 2009	WES 7E (32 ビット)	WES 7P (32 ビット)	WES 8 (64 ビット)	Win CE 6.0	HP ThinPro 4	HP ThinPro 3	HP Smart Zero Core	Teradici
t820			F	F	F					
注記： クライアント デバイスには 10 MB 以上の空きディスク領域が必要です。										

マスター リポジトリ コントローラーの要件

表 2-4 マスター リポジトリ コントローラーの要件

コンポーネント	要件
オペレーティング システム	Windows Server 2003 R2 Service Pack 2 (64 ビット) Windows Server 2008 R2 Service Pack 1 (64 ビット) Windows Server 2012 (64 ビット)
ハードウェア	Pentium III 以上 512 MB の RAM 2 GB のディスクの空き領域 注記： 上記はマスター リポジトリの最低限のハードウェア要件です。大量のファイルのイメージング操作またはコピー操作を行う場合は、よりディスクの空き領域が多く、より強力なシステムを使用することをおすすめします
プロトコル	FTP、FTPS、SFTP、または SMB
推奨される他社の FTP サーバー	FileZilla Microsoft Internet Information Server (IIS) 6.0 以降 freeSSHd

ネットワークに関する要件

表 2-5 ネットワークに関する要件

コンポーネント	要件
ネットワーク	HP Device Manager (HPDM) は、IPv4 ネットワークのみをサポートします HPDM は、PXE または PXE なしの方法 (推奨) を使用してデバイスのイメージを取得できます。PXE のイメージングが必要な場合は、ネットワーク上で他に動作している PXE サービスがないことを確認してください ISC DHCP サーバーを使用している場合は、バージョン 3.0 以上を実行している必要があります

ポートの要件


ファイアウォールの後方でサーバーを使用している場合は、ファイアウォール設定の例外ポートにポート 1099 および 40002 を追加してください。

デバイス/サーバー通信には、その他のさまざまな UDP および TCP ポートが必要です。標準ポートおよびカスタム ポートの要件の一覧については、[93 ページの「ポートリファレンス」](#)を参照してください。

HP Device Manager (HPDM) のインストール

HPDM をインストールするには、以下の操作を行います。


- ▲ HPDM の InstallShield ウィザードを実行し、画面の説明に沿って操作します。

 **注記：** 前バージョンの HPDM コンポーネントがローカル コンピューターにすでにインストールされている場合は、インストール プログラムがそのソフトウェアを検出してアップデートの実行を試みます。


詳しくは、[ftp://ftp.hp.com/pub/hpdm/Documentation/WhitePapers/](http://ftp.hp.com/pub/hpdm/Documentation/WhitePapers/)（英語サイト）から、インストールについてのホワイトペーパーを参照してください。

インストール時に[Custom Setup]（カスタム セットアップ）を選択すると、[HPDM Configuration Wizard]（HPDM 設定ウィザード）が起動し、主な設定の手順がユーザーに提示されます。

- [Language setting]（言語の設定）：HPDM の UI に希望する言語を選択します。
- [Ports Checking]（ポートのチェック）：この画面では、システムのポートが正しく設定されているか、およびシステムが HPDM をサポート可能かどうかを検証します。

 **ヒント：** ファイアウォールの後ろに HP Device Management Server をインストールする場合は、ファイアウォール設定の例外ポートにポート 1099 および 40002 を追加してください。

ポートの情報について詳しくは、[93 ページの「ポートリファレンス」](#)を参照してください。

 **注記：** ポートの問題を解決するためにインストール作業を中止して再起動する必要はありません。

- [DHCP Settings for PXE]（PXE のための DHCP 設定）：ローカル マシンに DHCP サーバーが設置されているかどうかを選択します。DHCP サーバーがローカルに設置されていない場合は、ウィザード画面の説明に沿って DHCP サーバーにオプションを設定する必要があります。
- [HPDM Gateway configuration]（HPDM ゲートウェイの設定）：この画面では以下のオプションを設定してください。
 - [Server Address]（サーバー アドレス）：HP Device Management Gateway から HP Device Management Server へのレポートの送信先アドレスを設定します。HP Device Management Server と HP Device Management Gateway がともに同じシステム上にある場合、「localhost」を使用しても動作しますが、実際のアドレスを使用するほうが望ましいです。
 - [Local NIC]（ローカル NIC）：HP Device Management Gateway がエージェント レポートの受信に経由する NIC を設定します。システムに NIC が 1 つしかない場合、このフィールドは空白でもかまいません。
 - [Start PXE service when gateway is started]（ゲートウェイの起動時に PXE サービスを起動します）：大抵の状況では[Yes]（はい）に設定し、HP Device Management Gateway の起動/停止時に PXE サービスが起動/停止するようにしてください。

[Complete Setup] (完全セットアップ) および [Custom Setup] のどちらの場合も、新しい HPDM データベースを作成するか既存の HPDM データベースを使用するかを指定する必要があります。画面の説明に沿って操作し、このプロセスを完了します。

インストールが正常に終了すると、HP Device Management Server および HP Device Management Gateway のアイコンが、以下に示すようにシステムトレイに表示されます。

図 2-1 HP Device Management Server および HP Device Management Gateway のシステムトレイアイコン



緑色のアイコンはサービスが実行中であること、黄色のアイコンはサービスが起動中または停止中であること、赤色のアイコンはサービスが停止していることを示します。

 **注記：** システムトレイアイコンを右クリックして表示されるメニューオプションを使用すると、サービスの起動/停止や HP Device Management Gateway の再設定を行えます。

HP Device Management Console のアイコンは、デスクトップに表示されます。

HP Device Manager (HPDM) 4.6 Service Pack のインストール

HPDM 4.6 Service Pack は、HPDM 4.6 のベース インストールを備えたシステムか、以前のバージョンの HPDM 4.6 Service Pack がインストールされているシステムにのみインストールできます。システムに HPDM コンポーネント (HP Device Management Console など) が 1 つしかインストールされていない場合、インストールされているコンポーネントのみが HPDM 4.6 Service Pack によって更新されます。

HPDM Service Pack は累積的なプログラムです。各サービス パックには、最新の更新プログラムに加え、それ以前の Service Pack からのすべての更新内容が含まれています。たとえば、HPDM 4.6 のベース インストールが存在する場合、SP2 を適用するだけで SP1 および SP2 の両方の更新プログラムを入手できます。

HPDM Service Pack をインストールするには、以下の操作を行います。

▲ セットアップファイルをダブルクリックし、画面の説明に沿って操作します。


HPDM Service Pack が正常にインストールされると、[コントロールパネル] の [プログラムと機能] リストの製品名が更新され、新しいサービス パックのバージョンが反映されます。

HP Device Management Console の使用

HP Device Management Console へのログイン

HP Device Management Console を起動するには、以下の操作を行います。

1. Windows デスクトップの[HP Device Management Console] (HP デバイス管理コンソール) アイコンをダブルクリックするか、または[Start] (スタート) メニューで[Programs] (プログラム) → [Hewlett-Packard] → [HP Device Manager] → [HP Device Management Console]の順に選択します。
[Log in] (ログイン) ダイアログ ボックスが表示されます。
2. ネットワークの HP Device Management Server のサーバー アドレスを入力します。サーバー アドレスには、IP アドレスまたはコンピューター名を入力できます。HP Device Management Console が HP Device Management Server と同じシステム上に存在する場合は、「localhost」と入力します。
3. [Username] (ユーザー名) と [Password] (パスワード) を入力し、[OK] をクリックして HP Device Management Console にログインします。

 **注記：** HPDM Console のバージョンが HPDM Server のバージョンと異なっている場合、HPDM Console を起動すると警告ダイアログが表示されます。

HP Device Management Console の概要

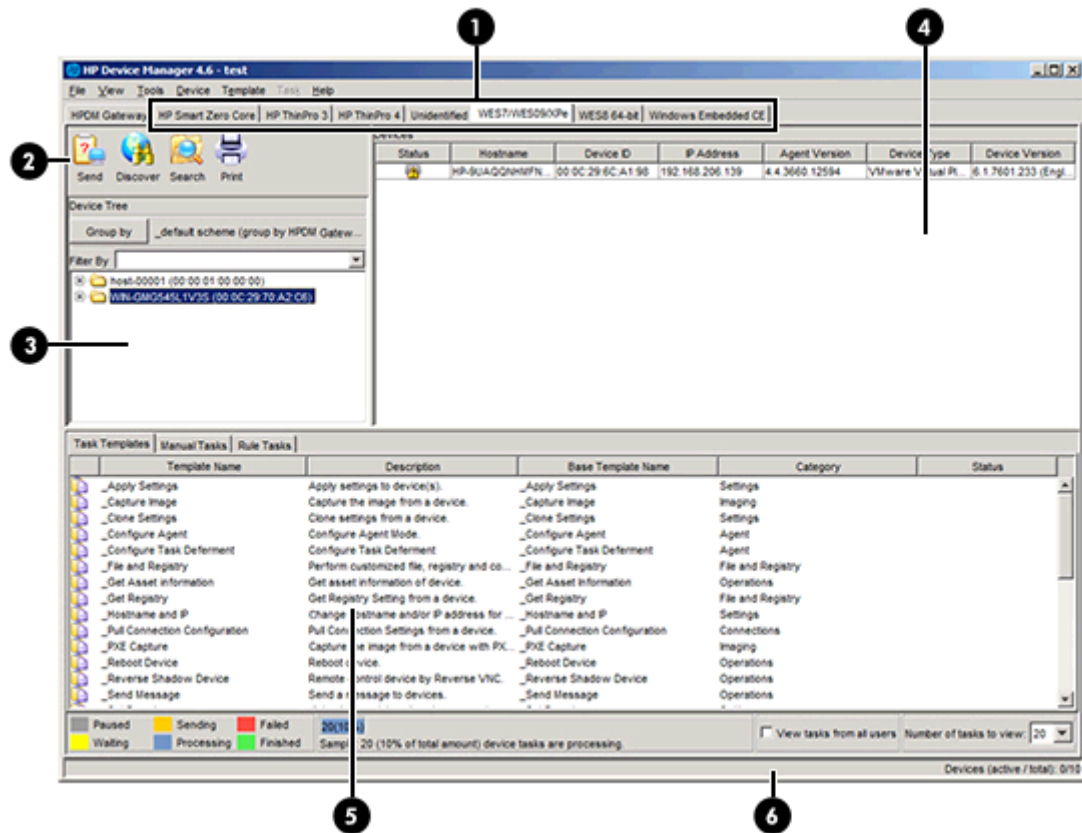
HP Device Management Console のウィンドウは、3 つのパネルと現在のビューを決定するタブのセットで構成されています。タブの正確な数は、デバイス システムで識別されているオペレーティング システムの種類の数によって決まります。

タブは、デバイスのオペレーティング システムごとに 1 つ、識別されていないオペレーティング システムに 1 つ、そして HP Device Management Gateway ビューに 1 つ用意されています。

オペレーティング システムのタブ

オペレーティング システムの個々のタブでは、以下のビューが生成されます。

図 2-2 HPDM コンソール：オペレーティング システムのタブ

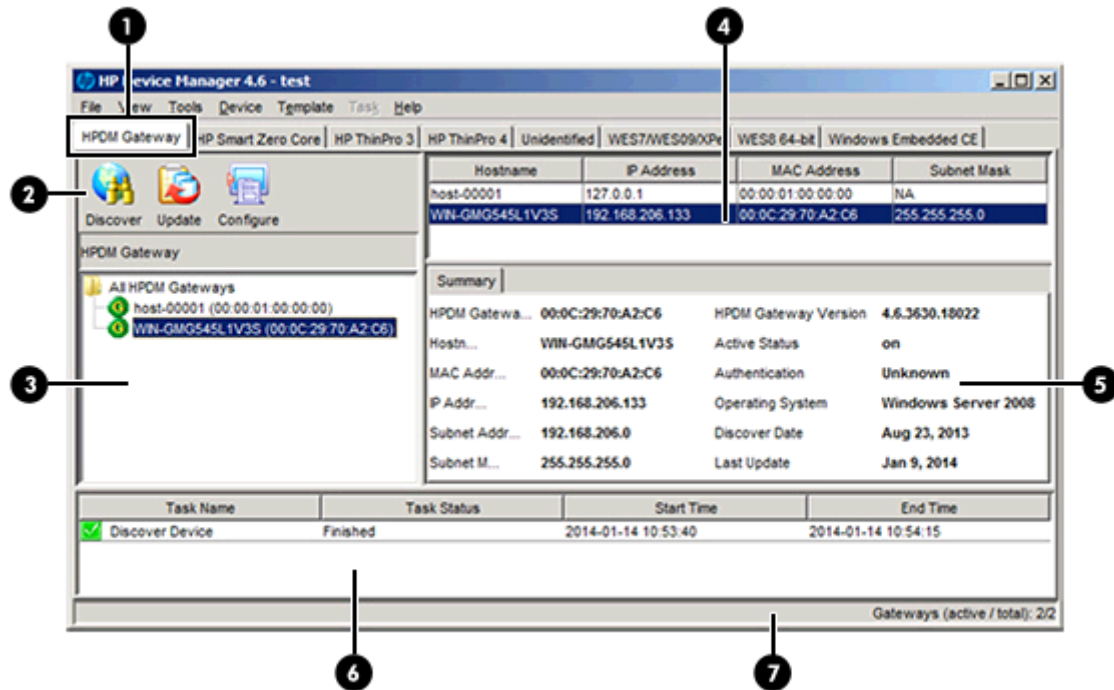


- 1 **オペレーティング システム タブ**：これらのタブは、オペレーティング システムごとにデバイスをグループ化します。現在 HP Device Manager (HPDM) によって管理されているオペレーティング システムのタブのみが表示されます
- 2 **デバイス ツールバー**：以下の機能にすばやくアクセスできます
 - タスクの送信
 - デバイスまたは HP Device Management Gateway の検出
 - デバイスの検索
 - デバイス情報の印刷
- 3 **デバイス ツリー**：選択したオペレーティング システムを実行しているすべてのデバイスを階層表示した一覧で、グループ化のスキームをカスタマイズして分類することができます
- 4 **デバイス パネル**：デバイス ツリーで選択したグループ（フォルダー）のデバイスを表示します
- 5 **タスク パネル**：以下の内容を表示します
 - デバイス パネルに一覧表示されているデバイスに適用できるタスク テンプレート
 - 手動タスクおよびルール タスクの実行状態
- 6 **ステータス バー**：アクティブなデバイスの総数およびその他の状況に応じた情報を表示します

[HPDM Gateway] (HPDM ゲートウェイ) タブ

[HPDM Gateway] (HPDM ゲートウェイ) タブをクリックすると、現在選択されている HP Device Management Gateway に固有の情報が表示されます。

図 2-3 HP Device Management Console : ゲートウェイのタブ



- | | |
|---|---|
| 1 | [HPDM Gateway] タブ : このタブを選択すると、HPDM Gateway に関する情報を管理または検索できます |
| 2 | ゲートウェイ ツールバー : 以下の機能にすばやくアクセスできます <ul style="list-style-type: none">• デバイスまたは HPDM Gateway の検出• HPDM Gateway の更新• HPDM Gateway の設定 |
| 3 | ゲートウェイ ツリー : すべての HPDM Gateway を階層表示した一覧です |
| 4 | ゲートウェイ パネル : HPDM Gateway を一覧表示します |
| 5 | 概要パネル : 現在選択されている HPDM Gateway に関する詳細情報を表示します |
| 6 | タスク パネル : 現在選択されている HPDM Gateway に固有のタスクの状態を一覧表示します |
| 7 | ステータス バー : アクティブな HPDM Gateway の総数を表示します |

デバイス システムの検出

通常、HP Device Management Gateway は、デバイスの起動時に送信されるネットワーク ブロードキャスト メッセージをリッスンすることにより、ほとんどのデバイスを検出できます。このソリューションでは、デバイスの起動前に HP Device Management Gateway が動作している必要があります。この方法や HP Device Manager (HPDM) 資産データベースにデバイスを追加するその他の方法について詳しくは、[18 ページの「デバイスの検出」](#)を参照してください。

デバイスのプロパティの表示

HP Device Manager (HPDM) は、管理下の各デバイスについての資産情報を保存します。デバイスは HP Device Management Server に登録する場合、HPDM がそのデバイスを一意に識別して通信できるようにするために必要な基本資産情報のみを渡します。この情報は、表示およびエクスポートできます。

基本資産情報

デバイスの基本資産情報を表示するには、以下の操作を行います。

- ▲ デバイス パネルでデバイスをダブルクリックして、**[Device Properties]** (デバイスのプロパティ) ウィンドウを表示します。

このウィンドウには、さまざまな資産情報カテゴリを含む複数のページがあります。基本資産情報しか利用できない場合は、**[General]** (全般)、**[Agent]** (エージェント)、および**[Grouping]** (グループ) ページにのみ内容が表示されます。

基本資産情報は、デバイスのフィルタリングやグループ化に使用できます。グループ化情報は、**[General]** ページでカスタマイズできます。

以下の表に、**[General]** ページおよび**[Agent]** ページで利用できる基本資産情報を示します。

表 2-6 基本資産情報 ([General])

項目	説明
[Device ID] (デバイス ID)	HP Device Manager (HPDM) がデバイスに割り当てる一意の ID。デバイス ID は、デバイス上で検出された最初の Mac アドレスです
[Hostname] (ホスト名)	デバイスのホスト名
[Device Type] (デバイスの種類)	デバイスのモデル名
[Device Serial Number] (デバイス シリアル番号)	デバイスのハードウェア シリアル番号
[OS Type] (OS の種類)	デバイスのオペレーティング システム名
[Device Version] (デバイスのバージョン)	デバイスのオペレーティング システムのイメージ バージョン
[BIOS Version] (BIOS のバージョン)	デバイスの BIOS バージョン
[Asset Tag] (アセット タグ)	デバイスのアセット タグ

表 2-6 基本資産情報 ([General]) (続き)

項目	説明
[Have TPM Module] (TPM モジュールの搭載)	デバイスに TPM (Trusted Platform Module) が搭載されているかどうかを示します。TPM は安全な暗号プロセッサです。このプロセッサは一般に TPM チップまたは TPM セキュリティ デバイスと呼ばれ、情報を保護するための暗号キーをここに保存できます。ソフトウェアがハードウェア デバイスを認証するときに TPM を使用できます。最近では、t610 などの一部の HP Thin Client モデルに TPM チップが搭載されています
[TPM Owned] (TPM 所有権)	TPM が所有されているかどうかを示します。TPM を使用してコンピューターを保護するには、TPM が所有されている必要があります。TPM にパスワードを割り当てると TPM 所有権が設定されます。これによって、認証された TPM 所有者のみが TPM にアクセスしたり TPM を管理したりできるようになります。1 つの TPM に割り当てられているパスワードは 1 つのみであるため、このパスワードを知っている人物が TPM の事実上の所有者となります。所有者が設定されると、他のユーザーまたはソフトウェアはその TPM の所有権を主張できなくなります

表 2-7 基本資産情報 ([Agent])

[Agent Version] (Agent のバージョン)	デバイス上の HP Device Manager Agent のバージョン
[HPDM Gateway ID] (HPDM ゲートウェイ ID)	デバイスとの通信に使用される HP Device Management Gateway の MAC アドレス
[Agent Working Mode] (エージェントの動作モード)	HPDM Gateway がデバイスにタスクをプッシュすることが可能か、または、HPDM Agent が HPDM Gateway からタスクをプルするまで待機する必要があるかを示します。たとえば NAT によってデバイスが HPDM Gateway から切り離されている場合など、一部の環境では、HPDM Gateway がデバイスにアクセスできず、HPDM Agent がタスクをプルする必要があります
[Agent Pull Interval] (エージェントのプル間隔)	HPDM Agent が HPDM Gateway からタスクのプルを試みる回数を示します
[First Contact Time] (最初の接続時刻)	デバイスが HPDM に登録された日時
[Last Time Online] (最後にオンラインだった時間)	HPDM がデバイス上の HPDM Agent と最後に通信した日時

完全な資産情報の収集

デバイスに関する詳しい情報を収集するには、[Get Asset Information] (資産情報の取得) タスクを実行する必要があります。

[Get Asset Information] タスクを実行するには、以下の操作を行います。

1. 情報を収集したいデバイスを右クリックし、[Get Device Asset Information] (デバイス資産情報の取得) を選択します。
2. タスク作成ウィンドウが表示されたら、[OK] をクリックします。
3. タスクの完了後、そのデバイスの [Properties] (プロパティ) ウィンドウで追加資産情報を確認できます。

完全なデバイス資産情報の表示


[Get Asset Information] (資産情報の取得) タスクが完了すると、[Device Properties] (デバイスのプロパティ) ウィンドウのすべてのページに以下の内容が表示されます。

- [Software] (ソフトウェア): デバイスにインストールされたソフトウェア パッケージが一覧表示されます。
- [Hardware] (ハードウェア): CPU、メモリ、記憶領域の詳細が一覧表示されます。
- [Network] (ネットワーク): デバイス上に存在する各ネットワーク アダプターの設定情報が一覧表示されます。
- [Configuration] (設定): タイム ゾーンおよび表示設定が一覧表示されます。
- [Microsoft Hotfix] (Microsoft のホットフィックス): Microsoft Hotfix 情報が一覧表示されます (このページはオペレーティング システムが WES/XPe である場合のみ使用可能です)。
- [Extended Properties] (拡張プロパティ): デバイスの拡張プロパティが一覧表示されます。

デバイス システムの HP Device Management Agent を最新に保つ

HP Device Management Server には、デバイス システムの HPDM Agent を自動的に最新バージョンに更新する組み込みルールが含まれています。

オペレーティング システムの種類ごとに、起動トリガーを含むシステム ルールがあります。デバイスが起動して HPDM Server にレポートすると、このルールによって、デバイスの HPDM Agent のバージョンとマスター リポジトリの HPDM Agent のバージョンが比較されます。デバイスの HPDM Agent のバージョンの方が古い場合、HPDM Server はデバイスにタスクを送信して HPDM Agent を更新します。

 **注記:** このルールは、初期設定では無効になっています。

3 デバイスの検出

デバイスを管理するには、まず HP Device Manager (HPDM) を使用してそれらを検出する (HPDM 資産データベースに追加する) 必要があります。デバイスを検出するさまざまな方法については、以下のセクションを参照してください。

- [自動登録 \(標準的な Thin Client\)](#)
- [自動登録 \(PCoIP Zero Client\)](#)
- [デバイスの検索](#)
- [手動でのデバイスの登録](#)
- [複数デバイスの手動登録](#)

自動登録 (標準的な Thin Client)

デバイスがネットワークに接続される場合、HP Device Management Agent は Thin Client を HP Device Management Server に自動的に登録するために以下の方法を試行します。以下の方法をこの順番で実行し、どれかが成功した時点で停止します。

HPDM Agent がその現在の HP Device Management Gateway との接続を損失した場合、またはデバイスが再起動された場合、自動登録プロセスが再起動し、成功するまで定期的に行われます。

1. デバイスはそれ自身のローカル設定をチェックし、使用するプリセット プライマリ HPDM Gateway またはバックアップ HPDM Gateway について調べます。これらは以下の操作を行って設定できます。
 - a. 管理者モードに切り替えます (手順についてはデバイスのオペレーティング システムの説明書を参照してください)。
 - b. コントロール パネルの[HP Agent]アプレットを開きます。
 - c. [Current Gateway] (現在のゲートウェイ) フィールドに HP Device Management Gateway の IP アドレスを入力します。
 - d. [OK]をクリックします。

プライマリ HP Device Management Gateway が設定されている場合、HP Device Management Agent はプライマリ HP Device Management Gateway への接続を試みます。それが失敗し、バックアップ HP Device Management Gateway が設定されている場合、今後はバックアップ HP Device Management Gateway への接続を試みます。それも失敗した場合、HP Device Management Agent は次の方法に移ります。

2. HPDM Agent は、デバイスの DHCP リース ファイルを調べ、タグ 202 が定義されているかどうか確認します。タグ 202 は、サーバーの IP アドレス、スペース、HPDM Gateway の IP アドレスから成る文字列表現として解釈されます。

たとえば、以下の値がデバイスの DHCP リース ファイルでタグ 202 に関連付けられている場合、HPDM Agent は、HPDM Gateway 192.168.1.1 への接続を試みます。

192.168.1.5 192.168.1.1

3. DNS サーバーがデバイスのローカル ネットワークに存在する場合、DNS 名「**hpdm-gateway**」のルックアップを実行するようにデバイスに要求が送信されます。これによって、HPDM Gateway の IP アドレスを特定します。
4. HP Device Management Agent は、サブネットのブロードキャスト アドレスに要求を送信します。サブネットに HP Device Management Gateway が存在する場合、HP Device Management Gateway がブロードキャストに応答すると、HP Device Management Agent はそれに接続します。

自動登録 (PCoIP Zero Client)

DNS サービス レコードの使用

HP PCoIP Zero Client が DHCP オプション 15 または 12 でドメイン名を取得するには、静的ドメイン名を持っているか、または DHCP サーバーへのアクセスが可能になっている必要があります。

DHCP サーバーが DHCP オプション 12 のみをサポートしている場合は、ホスト名の文字列にそのドメイン名が含まれている必要があります。

DNS サービス レコードを作成するには、以下の操作を行います。

1. DNS コンソールを開き、PCoIP Zero Client が含まれているゾーンを選択します。
2. 右クリックしてメニューを表示し、[**Other New Records**] (その他の新しいレコード) を選択して、[Resource Record Type] (リソース レコードの種類) ダイアログを表示します。
3. [**Service Location (SRV)**] (サービス ロケーション (SRV)) を選択し、[**Create Record**] (レコードの作成) ボタンをクリックして、[New Resource Record] (新しいリソース レコード) ダイアログを表示します。
4. サービスの値を[_pcoip-broker] (推奨) または[_pcoip-tool] に設定します。プロトコルの値を[_tcp] に設定し、このサービスを提供するホストを HP Device Management Gateway の完全修飾ドメイン名 (FQDN) に設定して、[OK] をクリックします。[Done] (完了) をクリックします。
5. PCoIP Zero Client を再起動します。HP Device Manager (HPDM) へのレポートが自動的に行われます。

バックアップの HPDM Gateway を 1 つまたは複数設定する場合は、他の ([_pcoip-broker] または [_pcoip-tool]) サービス レコードを追加して異なる優先度の値を設定します。値が小さいほど優先度が高くなります。各レコードが 1 つの HPDM Gateway を示します。

1 つのサービスに複数の DNS サービス レコードを設定する方法については、http://en.wikipedia.org/wiki/SRV_record/ (英語サイト) を参照してください。

この方式のトラブルシューティングを行うには、以下の操作を行います。

1. PCoIP Zero Client のネットワーク情報 (IPv4 アドレスやドメインなど) を確認します。
2. PCoIP Zero Client には組み込みの診断ツールが搭載されています。このツールを使用して、DNS サービス レコードの HPDM Gateway アドレスに ping を送信します。

DHCP ベンダー クラス オプションの使用

ベンダー クラスを作成するには、以下の操作を行います。

1. DHCP コンソールを開き、PCoIP Zero Client がある DHCP サーバーを選択します。
2. 右クリックしてメニューを表示し、**[Define Vendor Classes]**（ベンダー クラスの定義）を選択して、**[DHCP Vendor Classes]**（DHCP ベンダー クラス）ダイアログを表示します。
3. **[Add]**（追加）ボタンをクリックして、**[New Class]**（新しいクラス）ダイアログを表示します。
4. **[Display Name]**（表示名）を**[PCoIP Endpoint]**（PCoIP エンドポイント）に設定し、その値を**[PCoIP Endpoint]**に設定して、**[OK]**をクリックします。

ベンダー クラス オプションを設定するには、以下の操作を行います。

1. DHCP サーバーを右クリックしてメニューを表示し、**[Set Predefined Options]**（既定のオプションの設定）を選択して、**[Predefined Options and Values]**（既定のオプションと値）ダイアログを表示します。
2. オプション クラスを**[PCoIP Endpoint]**に設定し、**[Add]**をクリックして**[Option Type]**（オプションの種類）ダイアログを表示します。
3. **[Name]**（名前）フィールドに**[MC Address]**と入力し、データ型を**[String]**（文字列）に、コードを**[1]**に設定して、**[OK]**をクリックします。
4. MC アドレスの値を HP Device Management Gateway の IP アドレスに設定して、**[OK]**をクリックします。

ベンダー クラス オプションを有効にするには、以下の操作を行います。

1. PCoIP Zero Client が含まれるスコープの**[Scope Options]**（スコープ オプション）を選択します。
2. 右クリックしてメニューを表示し、**[Configure Options]**（オプションを構成）を選択して、**[Scope Options]**ダイアログを表示します。
3. **[Advanced]**（詳細設定）タブを選択します。
4. ベンダー クラスを**[PCoIP Endpoint]**に設定し、**[MC Address]**オプションを有効にして、**[OK]**をクリックします。
5. PCoIP Zero Client を再起動します。HPDM へのレポートが自動的に行われます。

この方式のトラブルシューティングを行うには、以下の操作を行います。

1. PCoIP Zero Client のネットワーク情報（IPv4 アドレスやドメインなど）を確認します。
2. PCoIP Zero Client には組み込みの診断ツールが搭載されています。このツールを使用して、MC アドレスの HPDM Gateway アドレスに ping を送信します。

デバイスの検索

HP Device Manager（HPDM）は、ある範囲内の IP アドレスの HP Device Management Agent および HP Device Management Gateway を検索できます。検索方法には、**[Walking With IP Range]**（IP 範囲によるウォーキング）および**[Walking With IP List]**（IP 一覧によるウォーキング）の 2 つがあります。これらの方法は、どちらも同じ手順で開始します。

1. HP Device Management Console で、**[HPDM Gateway]**（HPDM ゲートウェイ）タブをクリックします。
2. 目的の HPDM Gateway を右クリックし、メニューで**[Discover Device]**（デバイスの検出）を選択します。

3. デバイスの種類（標準の Thin Client または PColP Zero Client）を選択します。
4. 使用する方式に応じて、[21 ページの\[Walking With IP Range\]（IP 範囲によるウォーキング）方式の使用](#)または[21 ページの\[Walking With IP List\]（IP 一覧によるウォーキング）方式の使用](#)を参照します。

[Walking With IP Range]（IP 範囲によるウォーキング）方式の使用

[Walking With IP Range]（IP 範囲によるウォーキング）方式を使用して検索するには、以下の操作を行います。

1. [Walking With IP Range]を選択し、[Next]（次へ）をクリックします。
2. IP スコープを使用するか、または IP 範囲を手動で指定することにより、検索する IP アドレスの範囲を指定できます。IP スコープとは、将来のスキャンのために作成して保存した IP アドレスの範囲です。

IP スコープを使用して検索するには、以下の操作を行います。

- ▲ [Use Preset IP Scope]（プリセット IP スコープを使用）チェック ボックスを選択して、[IP Search Scope]（IP の検索スコープ）を選択し、[OK]をクリックします。

手動で指定した IP 範囲を検索するには、以下の操作を行います。

- ▲ [Use Preset IP Scope]（プリセット IP スコープを使用）チェック ボックスからチェックを外して、[Starting IP Address]（開始 IP アドレス）および[Ending IP Address]（終了 IP アドレス）を入力し、[OK]をクリックします。

[HPDM Gateways]（HPDM ゲートウェイ）タブを表示して HP Device Management Gateway の名前を選択することにより、検出の進捗状況を確認できます。検出の進捗状況は、HP Device Management Console ウィンドウ下部のタスク パネルに表示されます。

IP スコープの設定

IP スコープを設定するには、以下の操作を行います。

1. [Discover by Range]（範囲で検出）ダイアログ ボックスで、[Use Preset IP Scope]チェックボックスを選択し、[IP Search Scope]一覧の[Edit]（編集）オプションを選択して[Edit IP Walking Scope]（IP ウォーキング スコープの編集）ダイアログ ボックスを表示します。
2. [IP Walking Scopes]（IP ウォーキング スコープ）一覧から既存の IP スコープを選択するか、または[Add]（追加）をクリックして新しい IP スコープを作成します。
3. 新しい検索スコープを参照するときに HP Device Manager（HPDM）で使用されるスコープ名を入力して[OK]をクリックします。
4. [Starting IP Address]（開始 IP アドレス）および[Ending IP Address]（終了 IP アドレス）を入力して、HPDM でデバイスを検索する IP アドレスの範囲を定義します。[Apply]（適用）をクリックして設定を保存し、[OK]をクリックして終了します。

[Walking With IP List]（IP 一覧によるウォーキング）方式の使用

[Walking With IP List]（IP 一覧によるウォーキング）方式を使用して検索するには、以下の操作を行います。

1. [Walking With IP Range]を選択し、[Next]（次へ）をクリックします。
[Discover by List]（一覧で検出）ダイアログ ボックスが表示されます。

2. [IP List] (IP 一覧) の IP アドレスは、ニーズに合わせてカスタマイズできます。ダイアログボックスの各ボタンの説明は、以下の表を参照してください。

ボタン	機能
[Add] (追加)	新しい IP アドレスを IP 一覧に追加します
[Delete] (削除)	既存の IP アドレスを一覧から削除します
[Import] (インポート)	*.txt または *.csv ファイルを IP 一覧にインポートします
[Export] (エクスポート)	IP 一覧を *.txt ファイルとしてエクスポートします
[Copy] (コピー)	現在の IP 一覧をコピーします
[Paste] (ペースト)	コピーした IP アドレスをペーストします

3. [OK] をクリックして、HP Device Management Agent または HP Device Management Gateway を検索します。検索が終了したら、HP Device Manager (HPDM) によって検出されたデバイスを示すレポートが表示されます。デバイスが検出された場合は、HPDM 資産データベースに追加されます。

手動でのデバイスの登録

デバイスを手動で登録するには、以下の操作を行います。

1. HP Device Management Console で、[HPDM Gateway] (HPDM ゲートウェイ) タブをクリックします。
2. 目的の HP Device Management Gateway を右クリックし、メニューで [Device] (デバイス) → [Add] (追加) の順に選択します。
3. デバイスのデバイス ID、MAC アドレス、および IP アドレスを入力して、[OK] をクリックします。

手動で追加されたデバイスは [Unidentified] (不明) という名前のタブに追加されます。デバイスから HP Device Manager へのレポートが行われると、該当するオペレーティング システムのタブにデバイスが移動されます。

複数デバイスの手動登録

複数のデバイスを手動で登録するには、以下の操作を行います。

1. HP Device Management Console で、**[File]**（ファイル）→**[Import Devices]**（デバイスのインポート）の順に選択します。
2. **[Select]**（選択）をクリックし、インポートするデバイスが記述されたテキスト ファイルを含むフォルダーを選択します。



ヒント： これらのファイルの設定方法について詳しくは、ホワイト ペーパー『HP Device Manager 4.6 Automated Device Importer』（HP Device Manager 4.6 自動デバイス インポーター）を参照してください。

3. **[Import]**（インポート）をクリックして、そのフォルダーにあるすべてのテキスト ファイルからすべてのデバイスを登録します。

手動で追加したデバイスは、そのファイルで指定されたタブに追加されます。指定されていない場合は、**[Unidentified]**（不明）という名前のタブに追加されます。各デバイスから HP Device Manager へのレポートが行われると、該当するオペレーティング システムのタブにデバイスが移動されます。

4 タスクの使用

タスク テンプレート

タスク テンプレートは、タスク パネルの[Task Templates]（タスク テンプレート）タブに表示されます。テンプレート一覧は以下の 6 列から構成されています。これらの列は並べ替えができます。

- **[Icon]**（アイコン）：ベース テンプレート、カスタム タスク テンプレート、またはお気に入りのカスタム タスク テンプレートのうち、どのテンプレートに該当するかを示します。
- **[Template Name]**（テンプレート名）：テンプレートの名前を示します。
- **[Description]**（説明）：テンプレートの説明文です。
- **[Base Template Name]**（ベース テンプレート名）：そのテンプレートのベース テンプレートの名前を示します。
- **[Category]**（カテゴリ）：テンプレートが属するカテゴリを示します。

HP Device Manager には以下の 7 つのカテゴリがあります。

- **[File and Registry]**（ファイルおよびレジストリ）：デバイスのオペレーティング システムを管理するためのカスタマイズ可能なタスクの組み合わせからなる汎用テンプレートです（詳しくは、[45 ページのファイルおよびレジストリ設定の管理](#)を参照してください）。
- **[Connections]**（接続）：デバイスの接続設定を取得または設定するために使用します。
- **[Agent]**（エージェント）：HP Device Management Agent を設定および更新するために使用します。
- **[Imaging]**（イメージ）：デバイスのフラッシュ メモリ イメージをキャプチャまたは展開するために使用します。
- **[Operations]**（操作）：再起動、シャドウイング、シャットダウン、およびウェイクアップなど、デバイスの各種の操作を実行するために使用します。
- **[Settings]**（設定）：表示、ネットワーク、時刻および書き込みフィルターなどのデバイスの各種設定の変更に使用します。
- **[Template Sequence]**（テンプレート シーケンス）：タスクが実行されるシーケンスを定義するために使用します。
- **[Status]**（状態）：各テンプレートの状態を示します。

状態は以下のとおりに分類されます。

- 空白（テキストなし）：テンプレートが通常の状態であり、編集タスクや送信タスクに使用できることを示します。
- **[Transferring]**（転送中）：テンプレートの状態が一時的なものであることを示します。このテンプレートに必要なペイロードは転送中です。転送が完了すると、状態が通常または失敗に変化します。
- **[Failed]**（失敗）：テンプレートが無効の状態であることを示します。テンプレートに必要なペイロードの転送中にエラーが発生しました。テキストの上にマウス ポインターを合わせるとエラーの詳細が表示されます。

上記のカテゴリに基づくカスタム タスク テンプレートを作成、編集、削除、インポート、またはエクスポートして、デバイス固有のタスクを作成できます。

タスク テンプレートの作成および編集

各種カテゴリに属する標準の「空白」のタスク テンプレートのセットが、タスク パネルの[Task Templates]（タスク テンプレート）タブに一覧表示されます。標準テンプレートの名前はアンダースコア（_）で始まります。名前の例：[_File and Registry]


タスク テンプレートを作成または編集するには、以下の操作を行います。

1. タスク パネルの[Task Templates]タブから既存のテンプレートをダブルクリックするか、テンプレートを右クリックしてポップアップメニューから[Properties]（プロパティ）を選択します。
2. 利用可能なオプションを使用して、テンプレートの要件を指定します。対象のデバイスの値を消去するには、テンプレートでその値に対応するフィールドを空白のままにします。
3. 新しいテンプレートの定義が完了したら、[Save as]（名前を付けて保存）ボタンをクリックして新しいテンプレートの名前を入力します。
4. [OK]をクリックします。新しいテンプレートが作成され、タスク パネルの[Task Templates]タブにその名前が表示されます。

テンプレートのお気に入りへの追加

頻繁に使用するテンプレートを容易に見つけられるようにするために、以下の手順でそれらのテンプレートを[Favorites]（お気に入り）に追加できます。

1. タスク パネルの[Task Templates]（タスク テンプレート）タブでテンプレートの名前を右クリックします。
2. ポップアップメニューから[Add to Favorites]（お気に入りへ追加）を選択します。

選択したテンプレートのアイコンがお気に入りアイコン  に変わります。アイコンで列をソートすると、お気に入りのテンプレートを他のテンプレートの上に一覧表示できます。

タスク テンプレートのインポートおよびエクスポート


タスク テンプレートをインポートまたはエクスポートして、HP Device Manager（HPDM）システム間で共有できます。

タスク テンプレートをエクスポートするには、以下の操作を行います。

1. エクスポートするテンプレートを右クリックし、[Export]（エクスポート）を選択します。
2. 選択しているテンプレートの中に1つでもペイロードファイルを利用しているものがある場合、ペイロードファイルもエクスポートするかどうかを確認するメッセージが表示されます。ペイロードファイルのエクスポートを選択すると、HP Device Management Console はマスターリポジトリからペイロードファイルをダウンロードします。
3. テンプレートの名前を入力します。
4. エクスポートしたファイルのエクスポート先を選択します。
5. [Export]をクリックして、テンプレートをエクスポートします。ペイロードファイルを含むテンプレートはZIP ファイルとしてエクスポートされます。それ以外のテンプレートはXML ファイルとしてエクスポートされます。

タスク テンプレートをインポートするには、以下の操作を行います。

1. メニューから、[Template]（テンプレート）→[Import]（インポート）→[Exported Templates]（エクスポートされたテンプレート）の順に選択します。
2. インポートする XML ファイル、ZIP ファイル、またはその両方を選択します。HPDM からエクスポートされた XML ファイルおよび ZIP ファイルのみが受け付けられます。HPDM 4.4 および 4.5 のテンプレートをインポートできます。4.4 よりも前のバージョンのテンプレートは認識されないか対応していない可能性があります。
3. [Import]（インポート）をクリックします。新しいテンプレートとして、ファイルが追加されます。ZIP ファイルに含まれているペイロード ファイルは、自動的にマスター リポジトリにアップロードされます。

 **注記：** HPDM 4.5 Service Pack 1 以降では、タスク テンプレートのインポートにいくつかの変更点と制限があります。

- a. [Update Agent]（エージェントの更新）テンプレートのインポート
 - i. [Update Agent]テンプレートをテンプレート シーケンスに含めてインポートできます。[Update Agent]に属するペイロードはインポートできないため、テンプレートのインポートの続行を確認するダイアログ ボックスが表示されます。
 - ii. HPDM 4.5 Service Pack 1 以降、単体の[Update Agent]テンプレートはインポートできません。確認を求めるダイアログ ボックスが表示されます。
- b. [Take TPM Ownership]（TPM 所有権の取得）テンプレートのインポート
 - i. データベースに[Take TPM Ownership]のパスワードが設定されていない場合、エクスポートされた[Take TPM Ownership]テンプレートはインポートできます。
 - ii. データベースに設定されている[Take TPM Ownership]のパスワードが、エクスポートされた[Take TPM Ownership]のパスワードと同じである場合は、後者はインポートできます。
 - iii. データベースに設定されている[Take TPM Ownership]のパスワードが、エクスポートされたテンプレートのパスワードと異なる場合は、テンプレートのパスワードの置き換えの確認を求めるダイアログ ボックスが表示されます。
- c. 以下のどれかの単体テンプレートにペイロードがない場合、警告のダイアログ ボックスが表示されます。
 - i. [Copy Files]（ファイルのコピー）または[Deploy Files]（ファイルの展開）を含む[File and Registry]（ファイルおよびレジストリ）
 - ii. [Apply Easy Tools Configurations]（[HP Easy Tools]の構成の適用）
 - iii. [Apply Easy Tools Settings]（[HP Easy Tools]の設定の適用）
 - iv. [Push PXE image to device]（PXE イメージをデバイスにプッシュ）を含む[PXE Imaging]（PXE イメージ）
 - v. [Updating Imaging]（イメージの更新）
 - vi. [Deploy Image]（イメージの展開）
 - vii. [PXE Deploy]（PXE の展開）
- d. シーケンス テンプレート内の[Update Agent]以外の展開ファイルにペイロードがない場合、警告のダイアログ ボックスが表示されます。

- e. HPDM 4.4 からエクスポートされたテンプレートでは、サブタスクを新しいサブタスクに変換しなければならない場合があります。
 - i. [File and Registry] (ファイルおよびレジストリ) テンプレートの[Copy Files]は、方向に応じて[Capture Files] (ファイルのキャプチャ) または[Deploy Files]に変換されます。
 - ii. [PXE Image]は、操作に応じて[PXE Capture] (PXE キャプチャ) または[PXE Deploy]に変換されます。
 - iii. [Clone Image] (イメージのクローン) は[Capture Image] (イメージのキャプチャ) に変換されます。
 - iv. [Update Image] (イメージの更新) は[Deploy Image]に変換されます。
 - v. [Update Agent] (エージェントの更新)、[Apply ET Configurations]、および[Apply ET Settings]は変換されません。
- f. ペイロードが必要なテンプレートに対し、HP Device Management Console は以下のタスクを実行します。
 - i. 必要なペイロードの不足をチェックします ([Update Agent]以外)。
 - ii. 必要に応じて、サブタスクを新しいサブタスクに変換します。
 - iii. 新しいテンプレートにペイロードが含まれている場合に、パッケージの記述ファイルが生成されるよう操作方法を示します。
 - iv. 新しいテンプレートにペイロードが含まれている場合に、マスター リポジトリにペイロードをアップロードします。

ペイロードからテンプレートを生成するには、以下の操作を行います。

1. メニューで[Template]→[Import]の順に選択してから、以下のどれかのメニュー項目を選択します。
 - [Image Files] (イメージのファイル) (.ibr、.img、.hpimg、.dd、.dd.gz)
 - [PCoIP firmware] (PCoIP のファームウェア) (.all)
 - [Easy Tools Configuration] ([HP Easy Tools]の構成) (.hpcfg)
 - [Easy Tools Settings] ([HP Easy Tools]の設定) (.hpset)
2. インポートするファイルを選択します。
3. [Import]をクリックします。次に、[Package Description Editor] (パッケージの説明エディター) ダイアログでペイロードの情報を追加します。
4. [Generate] (生成する) をクリックします。新しいテンプレートとして、ファイルが追加されます。ペイロード ファイルは、自動的にマスター リポジトリにアップロードされます。

別の OS にイメージをコピーするには、以下の操作を行います。

1. タスク パネルの[Task Templates] (タスク テンプレート) タブで、[PXE Deploy Image] (PXE 展開イメージ) テンプレートまたは[Deploy Image] (展開イメージ) テンプレートを右クリックします。
2. メニューの[Copy to other OS] (他の OS にコピー) を選択します。




3. イメージのコピー先 OS の種類を選択し、新しいテンプレートの名前を入力します。
4. [OK]をクリックします。新しいテンプレートとして、ファイルが追加されます。

テンプレート シーケンスの使用

テンプレート シーケンスは、順序と条件を指定して一連のテンプレートを組み合わせ、1つのタスクとして実行するために使用します。テンプレート シーケンスのテンプレートには、最大 50 のタスクを含めることができます。

シーケンスの各テンプレートが実行される前に、条件が評価されます。この条件によって、テンプレートを実行するかどうかは制御されます。使用できる条件は以下のとおりです。

表 4-1 テンプレート シーケンスの条件

アイコン	条件	説明
	[anyway] (すべての場合)	前のテンプレート実行の成否にかかわらずテンプレートを実行します
	[success] (成功)	前のテンプレートが正常に完了した場合にのみテンプレートを実行します
	[failure] (失敗)	前のテンプレートが失敗して終了した場合にのみテンプレートを実行します

新しいテンプレート シーケンスを定義するには、以下の操作を行います。

- ▲ 標準の[_Template Sequence]テンプレートをダブルクリックして[Template Editor] (テンプレート エディター) を開きます。

_Template Sequence

HP Device Manager (HPDM) では基本および詳細の 2 種類のテンプレート シーケンスがサポートされます。基本テンプレート シーケンスは、実行される各テンプレートで同じ条件が使用されるテンプレート シーケンスです。詳細テンプレート シーケンスは、シーケンスの各テンプレートの実行を制御するために異なる条件を指定できるテンプレート シーケンスです。

基本テンプレート シーケンス

基本テンプレート シーケンスは、[Content] (コンテンツ) タブをクリックしてから[Basic] (基本) をクリックして定義します。

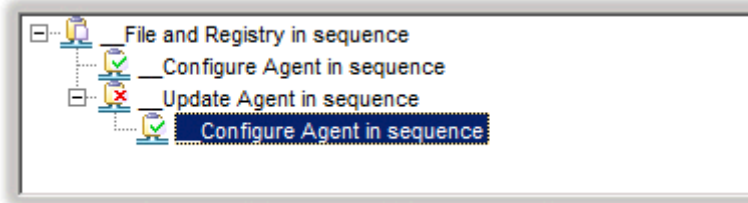
[Stop sequence on error] (エラー発生時にシーケンスを停止) チェックボックスは、テンプレートの実行条件を変更するために使用されます。このボックスにチェックを入れると、テンプレート シーケンスはすべてのテンプレートが成功の状態で完了した場合にのみ続行されます。このボックスのチェックを外すと、前の実行の状態にかかわらず、すべてのテンプレートが順に実行されます。

基本テンプレート シーケンスでは、テンプレートの最大数は 50 です。

詳細テンプレート シーケンス

詳細テンプレート シーケンスは、[Content]タブをクリックしてから[Advanced]（詳細）をクリックして定義します。

図 4-1 [Template Editor]（テンプレート エディター）：[Template Sequence]（[Advanced]）



この例では、次のように 4 つのテンプレートが実行対象として表示されます。

- テンプレート _File and Registry は無条件で実行されます。
- 前のテンプレートが正常に完了した場合は、最初の _Configure Agent テンプレートが実行されてシーケンスが終了します。
- 最初のテンプレートが失敗した場合は、_Update Agent テンプレートが実行されます。
- _Update Agent が正常に完了した場合は、最後の _Configure Agent テンプレートが実行されてシーケンスが終了します。

詳細テンプレート シーケンス内のテンプレートの各レベルを**依存レベル**といいます。詳細テンプレート シーケンスには、最大 50 の依存レベルの深度を設定できます。各依存レベルには、1 つの [anyway] テンプレート、または 1 つの [success] テンプレートと 1 つの [failure] テンプレートを含めることができます。

タスク

これまでに送信されたすべてのタスクは監視されていて、結果はタスク パネルに表示されます。タスク パネルには、デバイスに送信されたすべてのタスクが一覧表示されます。

タスク一覧は以下の列から構成されています。

- [Task Name]（タスク名）：このタスクの送信に使用されたタスク テンプレートの名前を示します。
- [Progress and Status]（進捗状況と状態）：タスクの進捗状況と状態を示します。
- [Target Device Number]（対象のデバイスの番号）：タスクが割り当てられているデバイスの番号を示します。
- [Create Time]（作成時刻）：タスクが作成された時刻を示します。
- [Sender]（送信者）：タスクの送信者を示します。この列を表示するには、[User Management]（ユーザーの管理）権限を持っている必要があります。

タスクの実行









リモート デバイス上のタスクを実行するには、まず、実行する手順または新しい設定を提供するテンプレートを定義してから、そのテンプレートをデバイスに適用する必要があります。

1. テンプレートを定義するには、タスク パネルの[Task Templates]（タスク テンプレート）タブから既存のテンプレートをダブルクリックするか、テンプレートを右クリックしてポップアップメニューから[Properties]（プロパティ）を選択します。
2. 利用可能なオプションを使用してテンプレートの要件を指定し、[Save as]（名前を付けて保存）ボタンをクリックして新しいテンプレートの名前を入力します。
3. デバイスまたはデバイスのグループにテンプレートを適用するには、タスク パネルの[Task Templates]タブからテンプレートをドラッグして、デバイスまたはグループにドロップします。
または
デバイス パネル内のデバイスまたはデバイス ツリー内のフォルダーを右クリックしてポップアップメニューから[Send Task]（タスクの送信）を選択し、[Template Chooser]（テンプレート選択）を表示します。カテゴリを選択し、テンプレート一覧からテンプレートを選択して、[Next]（次へ）をクリックします。
4. [Task Editor]（タスク エディター）ダイアログ ボックスが表示されます。[Schedule & Batch Control]（スケジュールおよびバッチ制御）タブを選択して、テンプレートで定義されているタスクの実行時刻および実行方法を指定します。[Schedule Task]（スケジュール タスク）オプションを選択せず、時刻を指定しない場合は、[OK]ボタンをクリックするとすぐにタスクがデバイスに適用されます。
5. [OK]をクリックすると、タスクがデバイスに適用されます。

タスクの状態アイコン

[Device Task View]（デバイスのタスクの表示）に表示されるアイコンの意味は、以下のとおりです。

表 4-2 タスクの状態アイコン

	成功 タスクがデバイスによって正常に実行されました
	送信 タスクが HP Device Management Server から HP Device Management Gateway を通じてデバイスに送信されて、応答を待っています
	障害/タイムアウト タスクに障害が発生したか、時間切れになりました（一定時間の後タスクが完了していない場合、タスクの状態は[Timeout]（タイムアウト）として表示されます。この状態のエラー コードは 0 です）
	準備完了 タスクが実行されて、ユーザーの操作を待っています
	一時停止中 タスクが一時停止されました
	キャンセル タスクがキャンセルされました
	待機中 タスクは後で送信されるようにスケジュール設定されていて、まだ送信されていません
	処理中 タスクはデバイスによって受け付けられて、処理されています

タスク パラメーター

HP Device Manager (HPDM) でのタスクとは、テンプレート、実行スケジュール、および対象のデバイス一覧の組み合わせです。HP Device Management Console では、タスクは[手動タスク]と[ルールタスク]の2つのグループに分かれて表示されます。手動タスクはHPDM Console で直接作成され、ルールタスクはルールによって非直接的に作成されます。

タスク パラメーターを設定するには、HP Device Management Console のメニュー バーで[Tools] (ツール) → [Configuration] (設定) の順に選択して[Configuration Management] (設定の管理) ダイアログ ボックスを表示し、左側のツリー枠の[Task Parameters] (タスク パラメーター) 項目を展開します。

[Task Parameters]項目は、以下の2つのサブ項目から構成されています。[Valid Time and Timeout] (有効な時刻およびタイムアウト) と[Write Filter, WOL & Task Deferment] (書き込みフィルター、WOL (Wake-On-LAN : ウェイクオン LAN)、およびタスクの延期) です。これらについては、以下のセクションで説明します。

手動タスク

テンプレートをデバイス セットに適用するたびに、[Task Editor] (タスク エディター) が表示され、タスクを作成できます。[Task Editor]には、[Template Editor] (テンプレート エディター) の[Contents] (内容) タブが含まれます。また、このほかに3つのタブ、[Valid Time, Timeout & WOL] (有効な時刻、タイムアウト、およびウェイクオン LAN)、[Target Device List] (対象のデバイス一覧)、および[Schedule & Batch Control] (スケジュールおよびバッチ制御) タブがあります。

[Valid Time, Timeout & WOL] (有効な時刻、タイムアウト、およびウェイクオン LAN)

Task Editor (タスク エディター) の[Valid Time, Timeout & WOL] (有効な時刻、タイムアウト、およびウェイクオン LAN) タブにある[Use Valid Sending Time] (有効な送信時刻を使用) を設定することで、タスクの有効期限の時刻を指定できます。指定した時刻までにタスクが開始していなければ、そのタスクは開始されなくなります。

[Exclude Working Hours] (業務時間を除外) を使用すると、対象のデバイスに対し、指定した業務時間を除いた時刻までタスクを遅延させることができます。

タスクの処理が[Execution Timeout] (実行タイムアウト) の時間を超えると、そのタスクはタイムアウト状態になり、HP Device Management Server はそのタスクが対象デバイス上で停止しているかどうかを確認しようとします。

[WOL before task] (タスク前に WOL) オプションを使用すると、タスクが対象デバイスに送信される前にそのデバイスを復帰させることができます。

[Target Device List] (対象のデバイス一覧)

タスクが適用されるデバイスが Target Device List (対象のデバイス一覧) タブに一覧表示されます。用意されているボタンを使用して、この一覧に対してデバイスの追加や削除を行うこともできます。

[Schedule & Batch Control] (スケジュールおよびバッチ制御)

Schedule & Batch Control (スケジュールおよびバッチ制御) タブには、以下のセクションがあります。

- **[Schedule]**（スケジュール）：このセクションでは、タスクを実行する日時を指定できます。
- **[Batch Control]**（バッチ制御）：このセクションでは、バッチ サイズを指定できます。タスクが多数のデバイスに送信されるときに使用されます。このバッチ設定によって、タスクを一度に送信するデバイスの数を制御できます。その結果、HP Device Management Agent（HPDM）が生成するネットワーク トラフィック量を多少制御できます。
- **[Write Filter Policy Setting]**（書き込みフィルター ポリシーの設定）：このセクションでは、Windows Embedded オペレーティング システムがインストールされたデバイス上での書き込みフィルターの処理方法を指定できます。
- **[Task Deferment]**（タスクの延期）：このセクションでは、デバイスが安全に作業を終了できるように、エンド ユーザーが対象デバイスで再起動またはシャットダウンを延期できます。詳しくは、[32 ページのタスクの延期](#)を参照してください。

タスクの延期

これはデバイス側で操作する機能で、デバイスの再起動/シャットダウン前に作業を保存する機会を作ることができます。HP Device Management Agent が正常にデバイスを再起動/シャットダウンする必要がある場合、**[Reboot Required]**（再起動が必要です）または**[Shutdown Required]**（シャットダウンが必要です）のどちらかのダイアログ ボックスが表示されます。

- スライダーをドラッグして時間を設定し、**[Postpone]**（延期）ボタンをクリックすることで、再起動/シャットダウンを延期できます。再起動またはシャットダウンは 3 回まで延期できます。
- 延期が必要ない場合には、**[Reboot now]**（今すぐ再起動）または**[Shutdown now]**（今すぐシャットダウン）をクリックします。
- HP Device Management Console の **_Configure TaskDeferment** タスクを使用すると再起動/シャットダウンのタイトルおよびメッセージ情報をカスタマイズできます。メッセージ情報には 255 文字まで使用できます。
- 通知の最長時間は 10 分、初期値は 1 分です。
- 延期の最長時間は 8 時間、初期値は 4 時間です。

HP Device Management Agent がデバイスを強制的に再起動する必要がある場合、タスクを延期するためのウィンドウは表示されません。

タスクのプロパティの表示

タスクのプロパティを表示するには、以下の操作を行います。タスクを右クリックして、ポップアップメニューで**[View Task Contents]**（タスクの内容を表示）を選択します。**[Task Contents]**（タスクの内容）ウィンドウが表示され、割り当てられたタスクに関する詳細情報が示されます。

タスク パラメーターの設定

HP Device Management Console のメニュー バーで**[Tools]**（ツール）→**[Configuration]**（設定）の順に選択して**[Configuration Management]**（設定の管理）ダイアログ ボックスを表示して、オプション ツリー枠の**[Task Parameters]**（タスク パラメーター）オプションをクリックして展開します。

[Task Parameters]オプションは、以下の 2 つのサブオプションから構成されています。**[Valid Time and Timeout]**（有効な時刻およびタイムアウト）と**[Write Filter Policy Setting]**（書き込みフィルターポリシーの設定）です。これらについては、以下のセクションで説明します。

[Valid Time and Timeout]（有効な時刻およびタイムアウト）

[Valid Time and Timeout]オプションを使用すると、HP Device Manager (HPDM) がタスクの実行を待機する時間を設定できます。また、HPDM がタスクを実行する時間を除いて、動作開始時刻と動作終了時刻を指定することもできます。あるオプション フィールドをクリックすると、[Description] (説明) ボックスにそのオプションの簡単な説明が表示されます。

1. [Configuration Management] (設定の管理) ダイアログ ボックスのオプション ツリー枠で[Valid Time and Timeout]を選択します。
2. 以下の各カテゴリに時間 (分) を設定します。[Valid Time] (有効な時刻)、[General Timeout] (全体のタイムアウト)、[General Batch Interval] (全体のバッチ間隔)、[PXE Batch Interval] (PXE のバッチ間隔)、および[FTP Batch Interval] (FTP のバッチ間隔)。

以下の各カテゴリに数量 (デバイス数) を設定します。[General Batch Amount] (全体のバッチ数)、[PXE]、[Batch Amount] (バッチ数)、および[FTP Batch Amount] (FTP のバッチ数)。

[Exclude Working Hours] (動作時間を除外) オプション ボックスにチェックを入れ、動作開始時刻と動作終了時刻を入力します。

[Restore defaults] (初期設定に戻す) をクリックすると、タイムアウト設定が初期設定にリセットされて、動作時間は[9:00]開始で[17:00]終了に設定されます。

3. [Apply] (適用) をクリックして新しい設定を保存します。
4. [OK]をクリックして終了します。

[Write Filter and WOL] (書き込みフィルターおよび WOL)

[Write Filter and WOL]オプションを使用すると、XPe デバイス上の[エンハンスド ライト フィルター] がタスクにどのような影響を与えるかを指定できます。

1. [Configuration Management] (設定の管理) ダイアログ ボックスのオプション ツリー枠で[Write Filter and WOL]を選択します。
2. 3 つのポリシー項目のどれか 1 つを選択します。
3. [Apply] (適用) をクリックして新しい設定を保存します。
4. [OK]をクリックして終了します。

タスクの一時停止

待機中のタスクを一時停止するには、以下の操作を行います。

1. タスク パネルから待機中のタスクを選択します。
2. 右クリックして、ポップアップ メニューから[Pause] (一時停止) を選択します。

待機中のタスクの状態が、[Paused] (一時停止中) に変わります。




注記： この操作は待機中のタスクでのみ使用可能です。

タスクの続行

一時停止中のタスクを続行するには、以下の操作を行います。

1. タスク パネルから一時停止中のタスクを選択します。
2. 右クリックして、ポップアップ メニューから[Continue] (続行) を選択します。

一時停止中のタスクの状態が、[Waiting] (待機中) に変わります。

 **注記：** 一時停止中のタスク（未送信のタスク）のみ、続行が可能です。


タスクの再送信

タスクが完了したら、タスクをデバイスに再送信できます。

1. タスク パネルから完了したタスクを選択します。
2. 右クリックして、ポップアップメニューから[Resend]（再送信）を選択します。


タスクのキャンセル

選択している実行中のタスクをキャンセルするには、タスクを右クリックしてポップアップメニューから[Cancel]（キャンセル）を選択します。システムはデバイスに対してタスクのキャンセルの通知を試み、一時停止中のタスクの状態が[Canceled]（キャンセル済み）に変わります。

 **注記：** 実行中のタスク（[Sending]（送信中）または[Processing]（処理中）の状態のタスク）のみキャンセルできます。デバイス側からは一部のタスクをキャンセルできません。システムからキャンセル要求が届く前にタスクが完了する場合があります。タスクが正常にキャンセルされなかった場合は、レポートが届いた後にタスクの状態が更新されます。

タスクの削除


選択しているタスクを削除するには、タスクを右クリックしてポップアップメニューから[Delete]（削除）を選択します。

 **警告！** 実行中のタスクを削除すると、OS イメージが破損するおそれがあります。たとえば、タスクの更新およびアップグレード、イメージ展開タスクなどがこれに当てはまります。

タスク ログの表示

タスクのログを表示するには、以下の操作を行います。

1. タスク パネルの1つのタスクを右クリックして、コンテキストメニューから[View device tasks and logs]（デバイスのタスクおよびログを表示）を選択するか、タスク パネルのタスクをダブルクリックします。[Device Task View]（デバイスのタスクの表示）ウィンドウが表示されます。
2. 対象のデバイスを選択して下の切り替えボタンをクリックすると、選択されているデバイスのタスク ログの表示/非表示を切り替えられます。[Device Task View]のデバイスをダブルクリックすると、切り替えボタンのクリックと同じ動作になります。

 **注記：** 選択されているデバイス タスクのタスク ログを最新の状態にするには、F5 を押します。

3. 完了したら、[Close]（閉じる）をクリックしてログ ビューアーを閉じます。
4. [OK]をクリックします。

タスクの成功率の表示

タスクの成功率を表示するには、以下の操作を行います。

- ▲ タスク パネルのタスクを右クリックし、情報の表示方法に応じて、[Success Rate]（成功率）→ [by Gateway]（ゲートウェイごと）または[Success Rate]→[by Subnet]（サブネットごと）の順に選択します。

シャドウイングのために VNC Viewer を開く

デバイスのシャドウイングのために VNC Viewer を開くには、待機中または完了しているシャドウイング タスクを右クリックして、ポップアップ メニューから **[Open VNC Viewer for Shadowing]**（シャドウイングのために VNC Viewer を開く）を選択します。

結果のテンプレートを開く

[Get Registry]（レジストリを取得）、**[Pull Connection Configuration]**（接続設定の要求）、**[Capture]**（キャプチャ）などの一部のタスクの結果を開くには、待機中のタスクを右クリックして、メニューから **[Open Results Template]**（結果のテンプレートを開く）を選択します。

すべてのユーザーからのタスクの表示

[User Management]（ユーザーの管理）権限がある場合は、タスク パネルの右下隅にある **[View tasks from all users]**（すべてのユーザーからのタスクを表示）チェックボックスにチェックを入れると、すべてのユーザーによって送信されたすべてのタスクを表示できます。また、任意のユーザーによって送信された任意のタスクを再送信、一時停止、続行、キャンセル、および削除できます。

タスク ルール

HP Device Manager（HPDM）では、**ルール**によってタスクの実行を自動化し、また、そのルールを順番に実行できます。各ルールには、以下の 3 つの部分が含まれます。ルールを適用するデバイスを定義するフィルター、いつルールを実行するかを定義するトリガー、およびルールによってデバイス上で実行する操作を定義するテンプレートです。

ルールは **[Rules Management]**（ルールの管理）ウィンドウで定義されます。このウィンドウは **[Tools]**（ツール）メニューからアクセスできます。


 **注記：** 順序を設定できるルールは、**[First Contact]**（最初の接続）ルールおよび **[Startup]**（スタートアップ）ルールのみです。

新しいルールの追加

1. **[Add ...]**（追加...）ボタンをクリックすると、**[Rule Editor]**（ルール エディター）ウィンドウが開きます。
2. 各ルールには、一意の名前を付ける必要があります。
3. また、各ルールにはフィルターを定義する必要があります。フィルターの右側にある **[Choose ...]**（選択...）ボタンをクリックすると、**[Filter Chooser]**（フィルター選択）ウィンドウが開きます。
4. 既存のフィルターを選択することも、**[Add ...]**（追加...）をクリックして新しいフィルターを作成することもできます。
5. 名前とフィルターを設定し終えたら、トリガーを選択できます。以下の 3 つのオプションがあります。

- **[First Contact]**（最初の接続）：このルールは、デバイスによるそれ自身の HP Device Management Server への初回登録時に一度、または[Factory Reset]（出荷時設定にリセット）タスクの完了後に、フィルター条件が一致する各デバイスに対して実行されます。
- **[Startup]**（スタートアップ）：このルールは、デバイスが再起動されるたびに、フィルター条件が一致する各デバイスに対して実行されます。
- **[Scheduled]**（スケジュール設定）：このオプションでは、[Rule Editor]（ルール エディター）ウィンドウが拡張され、ルールを実行する日時と繰り返しの頻度を指定できます。

6. 使用するテンプレートを指定します。

 **注記：** イメージまたはファイルのキャプチャ動作が含まれるテンプレートはタスク ルールに使用できません。

7. [OK]をクリックするとルールを作成できます。

8. 新しいルールは初期設定で有効になります。**[Rules Management]**（ルールの管理）ウィンドウでそのボックスのチェックを外すと、無効にできます。

5 デバイスの管理

- [デバイスの表示](#)
- [デバイスの削除](#)
- [デバイスのグループ化](#)
- [ネットワーク接続状態の確認](#)
- [デバイスに関する情報の印刷](#)
- [デバイスのシャドウイング](#)
- [電源の管理](#)
- [標準的な Thin Client の管理](#)
- [PCoIP Zero Client の管理](#)


デバイスの表示

現在管理されているデバイスをデバイス パネルに表示するには、以下の操作を行います。

- ▲ デバイス ツリーでフォルダーを選択します。

適用可能なコマンドのメニューを表示するには、以下の操作を行います。






- ▲ デバイス ツリー内の 1 つのフォルダーまたはデバイス パネル内の 1 つまたは複数のデバイスを
選択し、右クリックします。

 **ヒント:** これらのコマンドはすべて、HP Device Management Console の **[Device]** (デバイス) メニューでも使用できます。

HP Device Management Agent は、以下の 2 つの異なるモードで動作できます。

- プル モード : HP Device Management Agent は HP Device Management Gateway に対して定期的にタスクを要求 (プル) します。
- プッシュ モード : HP Device Management Gateway は HP Device Management Server からタスクを受信するとすぐに HP Device Management Agent にそのタスクを送信 (プッシュ) します。

HP Device Management Console のデバイス パネルでは、デバイスは以下のアイコンで表されます。

	グループ化されたデバイスの数を表します
	このデバイスを管理する HP Device Management Gateway が現在シャットダウンまたは切断されているために デバイスの状態が確認できないことを示します
	現在デバイスの電源がオフになっていることを示します
	現在デバイスがプル モードになっていることを示します
	現在デバイスがプルロック モード (ライト フィルターがオン) になっていることを示します



現在デバイスがプッシュ モードになっていることを示します



現在デバイスがプッシュロック モード（ライト フィルターがオン）になっていることを示します

以下のアイコンは HP Device Management Console の **[HPDM Gateway]**（HPDM ゲートウェイ）タブで使用されます。



現在アクティブな HP Device Management Gateway を表します



現在シャットダウンまたは切断されている HP Device Management Gateway を表します

デバイスの削除

デバイス ツリーからデバイスを削除するには、以下の操作を行います。

1. デバイス ツリー内のフォルダーを右クリックします。
2. メニューの **[Delete]**（削除）を選択します。

このフォルダー内のすべてのデバイスがデバイス ツリーから削除されます。

デバイス パネルからデバイスを削除するには、以下の操作を行います。

1. デバイス パネル内のデバイスを右クリックします。
2. メニューの **[Delete]**（削除）を選択します。

選択したデバイスがデバイス パネルから削除されます。

デバイスのグループ化

HP Device Manager（HPDM）では、デバイスを個別に管理することもグループで管理することもできます。デバイスは以下の 2 つの方法でグループ化できます。

- 手動（独自のグループ化定義を使用）
- 動的（デバイス資産情報を使用）

また、デバイス資産情報を使用してデバイスをフィルタリングすることもできます。これによって、デバイスをいくつかのセットに分割し、これらのセットを特定の管理者に割り当てることができます。

DHCP タグを使用したグループ情報の設定

DHCP タグ 203 を設定すると、新しいデバイスが使用するグループ化情報を指定できます。

タグ 203 では最大 6 のグループ化パラメーターをセットアップでき、これらは後に動的グループ化スキームの一部として利用できます。**P1-P6** というラベルが付けられています。この 6 つの中から任意のものを任意の順序で指定できます。このほかに、**MG** というラベルの特別なパラメーターを含め、これを手動グループ化に使用するパスに設定できます。このパスは、手動グループ化が選択された場合、HP Device Management Console のデバイス ツリーでのサブツリー作成に使用されます。

たとえば、パスが Company/Department/Group に設定されている場合、デバイス ツリーは次のようになります。

図 5-1 DHCP タグを使用したグループ情報の設定



HP Device Manager (HPDM) でタグ 203 に使用している形式は次のとおりです。すべてのパラメーターは任意ですが、指定されるパラメーターには値を割り当てる必要があります。

P1= “valor” ; P2= “valor” ; P3= “valor” ; P4= “valor” ; P5= “valor” ; P6= “valor” ; MG= “valor”

たとえば、以下のように指定します。

P1= “Asia” ; P2= “China” ; P3= “Shanghai” ; MG= “Empresa/Departamento/Grupo”

手動グループ化への切り替え

1. [Group by] (グループ化の方法) ボタンをクリックします。
2. [Manual Group] (手動グループ) → [_global (system)] (_global (システム)) の順に選択します。
3. DHCP タグが指定された[手動グループ]が自動的に表示されます。

新しい手動グループの追加

1. デバイス ツリーを右クリックし、[Manual Group] (手動グループ) → [Add Folder] (フォルダーの追加) の順に選択します。
2. 新しいフォルダーの名前を入力します。
3. [OK]をクリックします。

手動グループ間でデバイスをドラッグアンドドロップできます。また、手動グループの名前変更や削除も可能です。

動的グループ化

HP Device Manager (HPDM) では、1 つまたは複数の動的グループ化スキーマを作成できます。各スキーマは、選択された条件に基づいてツリー構造を作成します。

新しい動的グループ化スキーマの作成

1. [Group by] (グループ化の方法) ボタンをクリックします。
2. [Edit Scheme] (スキーマの編集) をクリックし、[Dynamic Scheme] (動的スキーマ) タブが選択されていることを確認します。
3. [Add] (追加) をクリックして、新しいスキーマに名前を付けます。[OK]をクリックして、新しい名前を承認します。
4. スキーマで定義する条件を選択し、順序付けをします。[Extension Properties 1-6] (拡張プロパティ 1-6) は、DHCP タグ 203 で設定できるグループ化項目 P1-P6 に対応しています。
5. [OK]をクリックして[Edit Grouping Scheme] (グループ化スキーマの編集) ウィンドウを終了します。

動的グループへの切り替え

1. [Group by]（グループ化の方法）ボタンをクリックします。
2. [Dynamic Group]（動的グループ）を選択します。
3. 使用するスキームを選択します。


デバイスのフィルター処理

フィルタリングによって、デバイスのサブセットに対する操作が可能になります。ユーザー特権と組み合わせることで管理者間でデバイスの管理を分割できます。

新しいデバイス フィルターの作成

1. メインメニューで[View]（表示）を選択し、[Device Filter ...]（デバイス フィルター...）を選択します。
2. [Device Filter Management]（デバイス フィルターの管理）ウィンドウで[Add]（追加）をクリックします。
3. 新しいフィルターに名前を付けます。[OK]をクリックして、名前を承認します。
4. [Edit Device Filter]（デバイス フィルターの編集）ダイアログ ボックスの[Add...]（追加...）をクリックして、[Choose Criteria Key]（条件キーの選択）ウィンドウを表示します。
5. [Choose Criteria Key]ダイアログ ボックスの一覧から、目的に適した条件を選択します。[OK]をクリックし、選択した条件の[Criterion Editor]（条件エディター）ダイアログ ボックスを表示します。
6. 新しい条件の演算子と値を定義します。
7. さらに条件を読み込むには、手順 4～6 を繰り返します。次に、[Save]（保存）→[Close]（閉じる）の順にクリックします。
8. [Filter]（フィルター）ドロップ ダウン リストから新しいフィルターを選択します。

フィルターをセキュリティ フィルターとして使用することにより、指定したユーザーまたはグループのアクセスを制限できます。フィルターは、どのデバイスにどのルールを適用するかを定義します。タスクを送信するときは、フィルターを使用してターゲット デバイスを選択できます。デバイスのツリー表示は、フィルターを使用して更新できます。

 **注記：** デバイス フィルターでは同じ名前の条件を複数追加できます。

デバイス フィルターの編集

デバイス フィルターを編集するには、以下の操作を行います。

1. [View]（表示）メニューで[Device Filter]（デバイス フィルター）を選択します。
2. 既存のフィルターをダブルクリックするかまたは既存のフィルターを選択して[Edit...]（編集...）をクリックし、[Edit Device Filter]（デバイス フィルターの編集）ダイアログ ボックスを表示します。
3. [Edit Device Filter]ダイアログ ボックスの[Add...]（追加...）をクリックして、[Choose Criteria Key]（条件キーの選択）ダイアログ ボックスを表示します。

4. **[Candidate Criteria Key List]** (条件キーの候補一覧) で、目的に適した条件を選択します。**[OK]** をクリックし、選択した条件の**[Criterion Editor]** (条件エディター) ダイアログ ボックスを表示します。
5. **[Edit Criteria]** (条件の編集) セクションの矢印ボタンをクリックして、ドロップダウンメニューから条件を選択します。例: **[OS Type = HP ThinPro]**
6. **[Criteria List]** に複数のフィルターが存在する場合は、**[Satisfy all criteria]** (すべての条件を満たす) または**[Satisfy any criteria]** (どれかの条件を満たす) を選択できます。次に、**[Save]** (保存) をクリックして、**[Device Filter Management]** (デバイス フィルターの管理) ダイアログ ボックスに戻ります。
7. **[Device Filter Management]** ダイアログ ボックスでは、選択したフィルターを必要に応じて編集または削除できます。
8. **[Generate Device List]** (デバイス一覧の生成) ボタンをクリックして、フィルタリングしたデバイスの一覧を作成します。

これで、管理者はデバイス フィルターを使用してネットワーク上のデバイスを管理できます。

フィルターのセキュリティ

ユーザーごとにセキュリティ フィルターとしてフィルターを割り当てることにより、表示されるデバイスを制限できます。以下の操作を行います。

1. **[Tools]** (ツール) メニューを表示して、**[User Management]** (ユーザーの管理) を選択します。
2. **[Users]** (ユーザー) タブでユーザー名を選択し、**[Edit]** (編集) をクリックします。
3. **[Filter]** (フィルター) タブを表示します。
4. **[Security Filter]** (セキュリティ フィルター) ドロップ ダウン リストで使用するフィルターを選択します。

このユーザーとしてログオンした場合、選択したフィルターで許可されているデバイスのみが表示されます。

ネットワーク接続状態の確認

デバイスのネットワーク接続状態 (ネットワークに接続しているかどうかなど) を確認できます。

1. デバイス パネルで、1 つまたは複数のデバイスを選択して右クリックし、コンテキストメニューから**[Check Connection Status]** (接続状態の確認) を選択します。
2. 使用するユーティリティを選択して、デバイスの接続状態を確認します。以下のどちらかを選択できます。
 - **[Ping]**: 特定のインターネット アドレスが存在していて要求を受け入れ可能であることを確認できる、基本的なインターネット プログラム。Ping 送信は、接続を試みているホストコンピュータが実際に動作していることを確認するために、診断の目的で使用されます。
 - **[Trace Route]** (トレース ルート): この診断ツールは、さまざまな TTL (Time to Live) 値を含む ICMP エコー要求メッセージを接続先に送信することにより、接続先までのパスを決定します。パス上にある各ルーターは、IP パケットの TTL 値を送信前に少なくとも 1 減らす必要があります。事実上、TTL はリンク数の上限です。パケット上の TTL 値が 0 になると、ルーターはソース コンピューターへ ICMP Time Exceeded メッセージを返します。

デバイスのネットワーク接続状態を示すウィンドウが表示されます。

3. [閉じる]をクリックします。

デバイスに関する情報の印刷

デバイス情報の印刷

HP Device Management Console に一覧表示されたデバイスに関する情報を印刷するには、以下の操作を行います。

1. デバイス パネルで、印刷するデバイスを選択します（複数のデバイスを選択する場合は、**Ctrl** キーまたは **Shift** キーを押しながらクリックします）。
2. ツールバーの[Print]（印刷）アイコンをクリックして、[Print Device]（デバイスの印刷）ウィンドウを表示します。[Print Device]ウィンドウに、選択したすべてのデバイスに関する情報が表示されます。
3. [Export]（エクスポート）をクリックして一覧を*.csv ファイルにエクスポートします。名前を入力して[Save]（保存）をクリックします。


または

[Print Preview]（印刷プレビュー）をクリックして、デバイス レポートを印刷します。[Print Preview]ウィンドウが表示されます。

4. プレビューが適切であれば、プリンターのアイコンをクリックするか、[File]（ファイル）メニューを表示して[Print]（印刷）を選択します。印刷設定を適用する場合は、[OK]をクリックします。

デバイスのシャドウイング

シャドウイングを使用すると、SSL トンネルによってリモートのデバイスに接続して、HP Device Management Console からそのデバイスを表示および制御できます。このためには、タスク パネルの[Task Templates]（タスク テンプレート）タブで使用可能な[Shadow Device]テンプレートを使用するか、または、デバイスを右クリックすると表示されるポップアップ メニューで以下の説明に沿って選択します。

 **注記：** デバイスをシャドウイングするには、事前に HP Device Management Agent を最新バージョンに更新しておいてください。[Apply Settings]（設定の適用）タスクを送信して VNC サーバーを有効にします。

デバイスをシャドウイングするには、以下の操作を行います。

1. デバイス パネルからデバイスのグループを 1 つ選択するか、デバイス ツリーからデバイスを 1 つ選択します。
2. 右クリックして、ポップアップ メニューから[Shadow]（シャドウイング）を選択します。[Task Editor]（タスク エディター）ダイアログ ボックスが表示されます。
3. [OK]をクリックします。シャドウイングの処理タスクが完了したら、ターミナルのリモート デスクトップが別のウィンドウに表示されます。


シャドウイングのために VNC Viewer を開くには、以下の操作を行います。

1. タスク パネルから完了している[Shadow Device]（デバイスのシャドウイング）タスクを選択します。
2. 右クリックして[Open VNC Viewer for Shadowing]（シャドウイングのために VNC Viewer を開く）を選択するか、または[Task]（タスク）メニューを表示して[Open VNC Viewer for Shadowing]を選択します。

デバイスのリモート デスクトップが別のウィンドウに表示されて、操作できる状態になります。

電源の管理

HP Device Management Console を使用すると、デバイスのリモートでの再起動、シャットダウン、および復帰が可能になります。このためには、タスク パネルの[Task Templates]（タスク テンプレート）タブで使用可能なテンプレートを使用するか、または、デバイスを右クリックすると表示されるポップアップ メニューで以下の説明に沿って選択します。

 **注記：** デバイスを復帰させるには、デバイスの BIOS でウェイク オン LAN サポートが有効になっている必要があります。

デバイスをシャットダウン、再起動、または復帰させるには、以下の操作を行います。

1. デバイス パネル内のデバイスを右クリックしてコンテキスト メニューから[Power Management]（電源の管理）を選択し、[Reboot]（再起動）、[Wake On LAN]（ウェイク オン LAN）または[Shutdown]（シャットダウン）のどれかを選択します。
2. [Task Editor]（タスク エディター）ダイアログ ボックスが表示されます。[OK]をクリックして、タスクを実行します。

デバイスがタスクを受信すると、デバイスの画面に警告のダイアログ ボックスが表示されて、デバイスがシャットダウンまたは再起動されることをユーザーに通知します。

標準的な Thin Client の管理

デバイスのホスト名の変更

デバイスのホスト名を変更するには、以下の操作を行います。

1. HP Device Management Console で目的のデバイスを右クリックし、[Rename]（名前の変更）を選択します。
2. ホスト名の値を編集し、[OK]をクリックすると、タスクが自動的に開始されます。
3. 表示された[Task Editor]（タスク エディター）で、必要に応じてタスク設定を調整します（フィルター ポリシー設定の書き込みなど）。
4. [OK]をクリックします。

接続のキャプチャおよび展開

接続をキャプチャするには、以下の操作を行います。

1. [_Pull Connection Configuration]テンプレートをダブルクリックして[Template Editor]（テンプレート エディター）を開きます。
2. チェック ボックスを使用して、キャプチャする接続設定を指定します。
3. [Save result as template]（結果をテンプレートとして保存）フィールドで、キャプチャした接続を保存するために作成される結果テンプレートの名前を入力します。

4. **[Save as]**（名前を付けて保存）をクリックして新しいテンプレートの名前を入力し、**[OK]**をクリックします。テンプレートがタスク パネルの**[Task Templates]**（タスク テンプレート）タブに追加されます。
5. テンプレートを目的のデバイスにドラッグ アンド ドロップします。
6. **[OK]**をクリックすると、タスクがデバイスに適用されます。

接続がキャプチャされ、**[Save result as template]**フィールドで指定した名前の新しいテンプレートに保存されます。

キャプチャした接続を展開するには、以下の操作を行います。

- ▲ **[_Pull Connection Configuration]**タスクの結果テンプレートを目的のデバイスにドラッグ アンド ドロップします。

設定のクローン作成および展開

設定のクローンを作成するには、以下の操作を行います。

1. **[_Clone Settings]**テンプレートをダブルクリックして、**[Template Editor]**（テンプレート エディター）を表示します。
2. チェック ボックスを使用して、クローンを作成する設定を指定します。
3. **[Save result as template]**（結果をテンプレートとして保存）フィールドで、クローンを作成した設定を保存するために作成される結果テンプレートの名前を入力します。
4. **[Save as]**（名前を付けて保存）をクリックして新しいテンプレートの名前を入力し、**[OK]**をクリックします。テンプレートがタスク パネルの**[Task Templates]**（タスク テンプレート）タブに追加されます。
5. テンプレートを目的のデバイスにドラッグ アンド ドロップします。
6. **[OK]**をクリックすると、タスクがデバイスに適用されます。

設定のクローンが作成され、**[Save result as template]**フィールドで指定した名前の新しいテンプレートに保存されます。


クローンを作成した設定を展開するには、以下の操作を行います。


- ▲ **[_Clone Settings]**タスクの結果テンプレートを目的のデバイスにドラッグ アンド ドロップします。


カスタム設定の適用


カスタム設定を適用するには、以下の操作を行います。

1. **[_Apply Settings]**テンプレートをダブルクリックして、**[Template Editor]**（テンプレート エディター）を表示します。
2. **[Edit]**（編集）ボタンをクリックします。
3. チェック ボックスを使用して、編集する設定を指定します。
4. 必要に応じて、個別の設定を編集します。

 **注記：** 指定できる設定はオペレーティング システムの種類およびバージョンによって異なる場合があります。

 **注記：** 時間の設定では、WES 2009 デバイスおよび XPe デバイスに指定できる値は WES 7 デバイスに指定できる値と統合されます。全部で 97 個の値があります。一部の値は WES 2009 デバイスまたは XPe デバイスではサポートされない場合があります。また、WES 2009 および XPe の一部の値は、HP Device Manager (HPDM) のテンプレートおよびタスクではサポートされません。

 **注記：** Firefox ブラウザーの設定は、HP ThinPro 4.1 以前のバージョンでのみ使用可能です。

 **注記：** プリンター設定は、HP ThinPro でのみ使用可能です。必ずクローンを作成してからプリンターを設定してください。

[Address] (アドレス) 列と [Port] (ポート) 列は以下の場合に編集できます。

[Type] (種類) の値が [Network] (ネットワーク) である場合は、[Address] と [Port] を編集できます。

[Type] の値が [LPT] または [COM] である場合は、[Port] を編集できます。

[Type] の値が [USB] である場合は、何も編集できません。

5. 設定の編集が完了したら、[Summary] (概要) ページに移動します。このテンプレートによって変更されるすべての設定の一覧が表示されます。
6. 変更内容が正しければ、[Finish] (完了) をクリックして [Template Editor] に戻ります。
7. [Save as] (名前を付けて保存) をクリックして新しいテンプレートの名前を入力し、[OK] をクリックします。テンプレートがタスク パネルの [Task Templates] (タスク テンプレート) タブに追加されます。
8. テンプレートを目的のデバイスにドラッグ アンド ドロップします。
9. [OK] をクリックすると、タスクがデバイスに適用されます。

ファイルおよびレジストリ設定の管理

[File and Registry] テンプレートは、デバイス上でファイルおよびレジストリ設定を管理するためのカスタマイズ可能なサブタスクの組み合わせで構成されています。

以下のサブタスクを使用できます。

- [Capture Files] (ファイルのキャプチャ) : [46 ページのファイルのキャプチャ](#) を参照してください。
- [Deploy Files] (ファイルの展開) : [47 ページのファイルの展開](#) を参照してください。
- [Delete Files] (ファイルの削除) : [47 ページのファイルの削除](#) を参照してください。
- [Registry] (レジストリ) : [48 ページのデバイスのレジストリ設定の管理](#) を参照してください。
- [Command] (コマンド) : [49 ページのリモートでのコマンド実行](#) を参照してください。
- [Pause] (一時停止) : [50 ページの \[File and Registry\] タスクの一時停止](#) を参照してください。
- [Program Record] (プログラム レコード) : [50 ページのプログラム レコードの追加または削除](#) を参照してください。
- [Script] (スクリプト) : [51 ページのスクリプトの実行](#) を参照してください。

_File and Registry テンプレートをカスタマイズするには、以下の操作を行います。

1. **[_File and Registry]**テンプレートをダブルクリックして、**[Template Editor]**（テンプレート エディター）を表示します。
2. サブタスクを**[Add]**（追加）、**[Edit]**（編集）、および**[Delete]**（削除）したり、必要に応じて、**[Up]**（上へ）および**[Down]**（下へ）を使用して並べ替えたりします。
3. **[Save as]**（名前を付けて保存）をクリックして、テンプレートを後で使用できるように名前を付けて保存します。

_File and Registry テンプレートを 2 つ以上マージし、複数のサブタスクを組み合わせて 1 つのテンプレートを作成できます。

_File and Registry テンプレートをマージするには、以下の操作を行います。

1. **_File and Registry** テンプレートを右クリックし、**[Merge]**（マージ）を選択します。
2. 別の**_File and Registry** テンプレートをクリックし、**[OK]**をクリックします。
3. マージしたテンプレート名の入力を求めるメッセージが表示されたら、名前を入力します。

ファイルのキャプチャ


ファイルをデバイスからキャプチャしてマスター リポジトリに保存するには、以下の操作を行います。

1. **_File and Registry** テンプレートをダブルクリックして、**[Template Editor]**（テンプレート エディター）を表示します。
2. **[Add]**（追加）をクリックし、**[Capture Files]**（ファイルのキャプチャ）サブタスクを選択して、**[OK]**をクリックします。
3. **[Capture Files Editor]**（ファイルのキャプチャ）で、転送するファイルまたはフォルダーのパスを指定します。**[Add]**をクリックすると、行を追加できます。

最下位レベルのパスまたはファイル名では、ワイルドカードの*および?がサポートされています。以下の例を参照してください。

a*	「a」という文字で始まり、任意の数の文字で終わるすべてのファイルを指定します
a?	「a」という文字で始まり、「a」以外の 1 つの文字で終わるすべてのファイルを指定します
*a	任意の数の文字で始まり、「a」という文字で終わるすべてのファイルを指定します
?a	「a」以外の 1 つの文字で始まり、「a」という文字で終わるすべてのファイルを指定します

4. キャプチャしたファイルをマスター リポジトリに保存するためのターゲット パスを指定します。

 **ヒント：** ターゲット パスのフィールドには、（単一のタスクで）複数のデバイスからキャプチャしたファイルを複数のフォルダーに送信するパラメーターを設定できます。

5. 必要に応じて、**[Overwrite if exists]**（存在する場合は上書き）オプションを選択します。
6. ファイルの指定が完了したら、**[OK]**をクリックします。
7. **[Save as]**（名前を付けて保存）をクリックして新しいテンプレートの名前を入力し、**[OK]**をクリックします。テンプレートがタスク パネルの**[Task Templates]**（タスク テンプレート）タブに追加されます。

8. テンプレートを目的のデバイスにドラッグ アンド ドロップします。
9. [OK]をクリックすると、タスクがデバイスに適用されます。

ファイルの展開

デバイスにファイルを展開するには、以下の操作を行います。

1. **_File and Registry** テンプレートをダブルクリックして、[Template Editor] (テンプレート エディター) を表示します。
2. [Add] (追加) をクリックし、[Deploy Files] (ファイルの展開) サブタスクを選択して、[OK]をクリックします。
3. [Add from local] (ローカルから追加) または[Choose upload] (アップロード済みの選択) をクリックして、転送するファイルを追加します。
4. ファイルの指定が完了したら、[OK]をクリックします。
5. [Save as] (名前を付けて保存) をクリックして新しいテンプレートの名前を入力し、[OK]をクリックします。テンプレートがタスク パネルの[Task Templates] (タスク テンプレート) タブに追加されます。
6. テンプレートを目的のデバイスにドラッグ アンド ドロップします。
7. [OK]をクリックすると、タスクがデバイスに適用されます。

ファイルの削除

デバイスからファイルを削除するには、以下の操作を行います。

1. **_File and Registry** テンプレートをダブルクリックして、[Template Editor] (テンプレート エディター) を表示します。
2. [Add] (追加) をクリックし、[Delete Files] (ファイルの削除) サブタスクを選択して、[OK]をクリックします。
3. 削除するファイルまたはフォルダーを追加します。各行に以下のオプションがあります。
 - [File or Folder Name] (ファイルまたはフォルダー名) : 削除するファイルまたはフォルダーの名前を入力します。ワイルドカードの*および?もサポートされています。
 - [Path On Device] (デバイスのパス) : ファイルまたはフォルダーが存在するデバイス上のパスを入力します。
 - [Delete Recursively] (再帰的に削除) : このオプションを[Yes] (はい) に設定すると、[Path On Device]のすべてのサブディレクトリで、[File or Folder Name]に入力したパターンと一致するすべてのファイルまたはフォルダーが削除されます。[No] (いいえ) に設定すると、サブディレクトリのファイルまたはフォルダーは削除されません。
4. ファイルの指定が完了したら、[OK]をクリックします。
5. [Save as] (名前を付けて保存) をクリックして新しいテンプレートの名前を入力し、[OK]をクリックします。テンプレートがタスク パネルの[Task Templates] (タスク テンプレート) タブに追加されます。
6. テンプレートを目的のデバイスにドラッグ アンド ドロップします。
7. [OK]をクリックすると、タスクがデバイスに適用されます。

デバイスのレジストリ設定の管理

以下の方法でデバイスのレジストリ設定を管理できます。


- [48 ページのレジストリ設定のクローン作成](#)
- [48 ページのレジストリ設定の追加、編集、および削除](#)

レジストリ設定のクローン作成

デバイスからレジストリ設定のクローンを作成するには、以下の操作を行います。

1. **[_Get Registry]**テンプレートをダブルクリックして、**[Template Editor]**（テンプレート エディター）を表示します。
2. **[Add]**（追加）をクリックし、設定のクローンを作成するレジストリ ノードの名前（たとえばデスクトップ設定の場合は「desktop」）を入力して、**[OK]**をクリックします。ノードの名前が**[Template Editor]**の**[Registry]**（レジストリ）タブに表示されます。
3. **[Save result as template]**（結果をテンプレートとして保存）フィールドで、クローンを作成したレジストリ設定を保存するために作成される結果テンプレートの名前を入力します。
4. **[Save as]**（名前を付けて保存）をクリックして新しいテンプレートの名前を入力し、**[OK]**をクリックします。テンプレートがタスク パネルの**[Task Templates]**（タスク テンプレート）タブに追加されます。
5. テンプレートを目的のデバイスにドラッグ アンド ドロップします。
6. **[OK]**をクリックすると、タスクがデバイスに適用されます。

レジストリ設定のクローンが作成され、**[Save result as template]**フィールドで指定した名前の新しいテンプレートに保存されます。

 **ヒント：** クローンを作成したレジストリ設定を表示するには、新しいテンプレートをダブルクリックし、**[Registry]**サブタスクをダブルクリックしてから、**[Registry Tree]**（レジストリ ツリー）でレジストリ ノードを展開します。

レジストリ設定の追加、編集、および削除

レジストリ設定を追加、編集、または削除するには、以下の操作を行います。

1. **[_Get Registry]**タスクから以前に作成した結果テンプレートを使用する場合は、そのテンプレートをダブルクリックして、**[Registry]**（レジストリ）サブタスクをダブルクリックします。


新しいテンプレートを作成する場合は、**[_File and Registry]**テンプレートをダブルクリックして**[Template Editor]**（テンプレート エディター）を表示し、**[Add]**（追加）をクリックします。**[Registry]**サブタスクを選択し、**[OK]**をクリックします。
2. 必要に応じて、以下のどれかの方法でレジストリ設定を編集します。
 - **[Registry Tree]**（レジストリ ツリー）を使用してレジストリ ノードに移動し、レジストリ キーとその値を追加、名前変更、または削除する。
 - **[Registry Settings]**（レジストリ 設定）パネルを使用して、選択したレジストリ キーの値を追加または削除する。

- **[Action to Perform]**（実行する操作）パネルを使用して、レジストリ キーを追加または削除する。**[Registry Settings]**パネルでキーの値を個別に変更した場合、このオプションはパネル内でグレー表示されます。
 - **[Import Registry File]**（レジストリ ファイルのインポート）をクリックして、レジストリ設定をインポートする。
3. レジストリ設定の編集を完了したら、**[OK]**をクリックします。
 4. **[Save as]**（名前を付けて保存）をクリックして新しいテンプレートの名前を入力し、**[OK]**をクリックします。テンプレートがタスク パネルの**[Task Templates]**（タスク テンプレート）タブに追加されます。
 5. テンプレートを目的のデバイスにドラッグ アンド ドロップします。
 6. **[OK]**をクリックすると、タスクがデバイスに適用されます。

リモートでのコマンド実行


[_File and Registry]テンプレートを使用して、デバイス上のコマンドをリモートで実行できます。この状況では、コマンドとはデバイスのオペレーティング システムで実行できるすべてのものです。これには以下のものが含まれます。

- アプリケーション
- DOS バッチ ファイル
- Windows スクリプト

 **重要：** 任意のコマンドを入力できます。ただし、最初にそれらのコマンドをデバイス上でテストすることをおすすめします。

デバイス上のコマンドをリモートで実行するには、以下の操作を行います。

1. **[_File and Registry]**テンプレートをダブルクリックして、**[Template Editor]**（テンプレート エディター）を表示します。
2. **[Add]**（追加）をクリックし、**[Command]**（コマンド）サブタスクを選択して、**[OK]**をクリックします。
3. エディターで、**[Command]**列にコマンドを入力します。

 **ヒント：** Windows の環境変数**[PATH]**はデバイスごとに異なる場合があるため、デバイス上でコマンドを確実に検出できるように、各コマンドのフルパスを入力することが重要です。たとえば、C: Program Files というディレクトリにある xxx.exe を実行するには、コマンドを C: Program Files xxx.exe として入力します。

4. **[Execute After Reboot]**（再起動後に実行）列で、コマンドを実行する前にデバイスを再起動する必要がある場合は**[Yes]**（はい）を選択します。
5. **[Wait]**（待機）列で、前のコマンドが完了するまでコマンドの実行を待つ必要がある場合は、**[Yes]**を選択します。
6. コマンドを追加する場合は、**[Add]**（追加）をクリックします。
7. レジストリ設定の編集を完了したら、**[OK]**をクリックします。
8. **[Save as]**（名前を付けて保存）をクリックして新しいテンプレートの名前を入力し、**[OK]**をクリックします。テンプレートがタスク パネルの**[Task Templates]**（タスク テンプレート）タブに追加されます。

9. テンプレートを目的のデバイスにドラッグ アンド ドロップします。
10. [OK]をクリックすると、タスクがデバイスに適用されます。

リモートでの Windows スクリプトの実行

Windows スクリプティング ホストは包括的なスクリプティング インフラストラクチャで、Microsoft Visual Basic Scripting Edition および Microsoft JScript というスクリプト エンジンを提供します。これらのエンジンを Windows アプリケーションに埋め込むと、Windows アプリケーションのスクリプティングが容易になります。

Windows スクリプトの記述方法について詳しくは、<http://www.msdn.microsoft.com/> にアクセスして、「Windows スクリプト」を検索します。

HP Device Manager (HPDM) を使用して Windows スクリプトをコマンドとして実行するには、以下の操作を行います。

- ▲ 実行するスクリプトの名前の前に「wscript」を追加します。



注記： wscript.exe は C: Windows system32 にあります。

[_File and Registry]タスクの一時停止

[_File and Registry]タスクを一時停止して、システム再起動などの特定のイベントが完了するまで待機できます。

[Pause]（一時停止）サブタスクを[_File and Registry]タスクに追加するには、以下の操作を行います。

1. [_File and Registry]テンプレートの[Template Editor]（テンプレート エディター）で[Add]（追加）をクリックし、[Pause]（一時停止）サブタスクを選択してから、[OK]をクリックします。
2. 一時停止の期間を指定して、[OK]をクリックします。

プログラム レコードの追加または削除

プログラム レコードを追加または削除するには、以下の操作を行います。

1. [_File and Registry]テンプレートをダブルクリックして、[Template Editor]（テンプレート エディター）を表示します。
2. [Add]（追加）をクリックし、[Program Record]（プログラム レコード）サブタスクを選択して、[OK]をクリックします。
3. [Program Record Editor]（プログラム レコード）で、[Add]をクリックします。
4. アクションの種類（追加または削除）を指定します。
5. 必要に応じて、発行元、バージョン、およびコメントを入力します。
6. プログラム レコードの編集を完了したら、[OK]をクリックします。
7. [Save as]（名前を付けて保存）をクリックして新しいテンプレートの名前を入力し、[OK]をクリックします。テンプレートがタスク パネルの[Task Templates]（タスク テンプレート）タブに追加されます。
8. テンプレートを目的のデバイスにドラッグ アンド ドロップします。
9. [OK]をクリックすると、タスクがデバイスに適用されます。

スクリプトの実行

スクリプトをデバイス上で実行するには、以下の操作を行います。

1. **[_File and Registry]**テンプレートをダブルクリックして、**[Template Editor]**（テンプレート エディター）を表示します。
2. **[Add]**（追加）をクリックし、**[Scrip]**（スクリプト）サブタスクを選択して、**[OK]**をクリックします。
3. エディターで、スクリプトの内容を入力します。



重要： HP Device Manager (HPDM) は、Windows ではバッチ スクリプトのみを、Linux ではシェル スクリプトのみをサポートしています。

4. 必要に応じて、スクリプトを起動するパスを指定します（Windows プラットフォームのみ）。
5. 必要に応じて、スクリプトを実行するユーザー アカウントを指定します（Windows プラットフォームのみ）。
6. スクリプトの編集を完了したら、**[OK]**をクリックします。
7. **[Save as]**（名前を付けて保存）をクリックして新しいテンプレートの名前を入力し、**[OK]**をクリックします。テンプレートがタスク パネルの**[Task Templates]**（タスク テンプレート）タブに追加されます。
8. テンプレートを目的のデバイスにドラッグ アンド ドロップします。
9. **[OK]**をクリックすると、タスクがデバイスに適用されます。

SCEP での証明書の登録

SCEP で証明書を登録するには、以下の操作を行います。

1. **[_Enroll Certificate with SCEP]**テンプレートをダブルクリックして、**[Template Editor]**（テンプレート エディター）を表示します。
2. 登録用の URL およびチャレンジ パスワードを入力します。
3. **[Save as]**（名前を付けて保存）をクリックして新しいテンプレートの名前を入力し、**[OK]**をクリックします。テンプレートがタスク パネルの**[Task Templates]**（タスク テンプレート）タブに追加されます。
4. テンプレートを目的のデバイスにドラッグ アンド ドロップします。
5. **[OK]**をクリックすると、タスクがデバイスに適用されます。

PCoIP Zero Client の管理

接続のキャプチャ

PCoIP Zero Client から接続をキャプチャするには、以下の操作を行います。

1. **[_Capture Connections]**テンプレートをダブルクリックして、**[Template Editor]**（テンプレート エディター）を表示します。
2. **[Save result as template]**（結果をテンプレートとして保存）フィールドで、キャプチャした接続を保存するために作成される結果テンプレートの名前を入力します。

3. **[Save as]**（名前を付けて保存）をクリックして新しいテンプレートの名前を入力し、**[OK]**をクリックします。テンプレートがタスク パネルの**[Task Templates]**（タスク テンプレート）タブに追加されます。
4. テンプレートを目的のデバイスにドラッグ アンド ドロップします。
5. **[OK]**をクリックすると、タスクがデバイスに適用されます。

接続のクローンが作成され、**[Save result as template]** フィールドで指定した名前の新しいテンプレートに保存されます。

接続の展開

PCoIP Zero Client に接続を展開するには、以下の操作を行います。

1. **[_Deploy Connections]**テンプレートまたは**[_Capture Connections]**タスクの結果テンプレートをダブルクリックして、**[Template Editor]**（テンプレート エディター）を表示します。
2. 必要に応じて、接続の種類を選択し、値を設定します。
3. **[Save as]**（名前を付けて保存）をクリックして新しいテンプレートの名前を入力し、**[OK]**をクリックします。テンプレートがタスク パネルの**[Task Templates]**（タスク テンプレート）タブに追加されます。
4. テンプレートを目的のデバイスにドラッグ アンド ドロップします。
5. **[OK]**をクリックすると、タスクがデバイスに適用されます。


ファームウェアのアップデート


PCoIP Zero Client でファームウェアをアップデートするには、以下の操作を行います。

1. HP Device Management Console のメニューで、**[Template]**（テンプレート）→**[Import]**（インポート）→**[PCoIP firmware]**（PCoIP のファームウェア）の順に選択します。
2. **[Browse]**（参照）をクリックし、ファームウェア ファイル（.all）を選択してから、**[Import]**をクリックします。
3. **[Generate]**（生成する）をクリックし、テンプレートが正常に作成されるまで待機します。テンプレートがタスク パネルの**[Task Templates]**（タスク テンプレート）タブに追加されます。
4. テンプレートを目的のデバイスにドラッグ アンド ドロップします。
5. **[OK]**をクリックすると、タスクがデバイスに適用されます。

6 イメージング操作

HP Device Manager (HPDM) では、1つのデバイスからイメージをキャプチャし、類似のデバイスに数に制限なくそのイメージを展開できます。イメージは、デバイスのフラッシュストレージのすべてのデータを含むバイナリファイルです。

 **重要：** HPDM では、イメージに含まれるオペレーティングシステムのライセンスを所有していないデバイスにはイメージが展開されません。

 **ヒント：** HP ThinPro または HP Smart Zero Core ではライセンスのチェックがありません。十分なディスク容量がある限り、これらのオペレーティングシステムは入れ替えて使用できます。

異なるオペレーティングシステムでのイメージングへの対応については、[53 ページのイメージングのサポートマトリックス](#)を参照してください。

HPDM で使用できる各種のイメージング方法について詳しくは、以下の項目を参照してください。

- [54 ページの PXE を使用しないイメージング](#)（推奨）
- [57 ページの PXE を使用したイメージング](#)

イメージングのサポートマトリックス


以下の表では、各イメージング方法でサポートされているオペレーティングシステムおよび HP Thin Client について説明します。

表 6-1 イメージングのサポートマトリックス

	ファイル単位の キャプチャ	ディスク単位の キャプチャ	ファイル単位の 展開	ディスク単位の 展開	PXE イメージ ング
WES 8					
t610	√		√		
WES 7					
t820、t620、t610、t510、t505、 t5740e、t5570e、6360t、mt41、 mt40、4320t	√		√	√	
WES 2009					
t610、t510、t505、t5740、t5570、 gt7720	√		√	√	√
WES 2009					
6360t、t5400、4320t	√		√	√	
Windows XPe					
t5740、t5730、t5630		√		√	√
HP ThinPro 4					
t620、t610、t510、t505、t5745、 t5565		√		√	√


表 6-1 イメージングのサポート マトリックス (続き)


	ファイル単位の キャプチャ	ディスク単位の キャプチャ	ファイル単位の 展開	ディスク単位の 展開	PXE イメージ ング
HP ThinPro 3 (x86)					
t5745、t5735、t5565、t5545、 t5145、gt7725		√		√	√
HP ThinPro 3 (ARM)					
t5325					
HP Smart Zero Core (x86)					
t620、t610、t510、t5565z		√		√	
HP Smart Zero Core (ARM)					
t410、t5335z		√		√	
Windows Embedded CE 6.0					
t510、t5550、t5540、t5530		√		√	√

 **重要：** PXE イメージングでは完全なイメージのバージョンチェックはできません（たとえば、Windows XPe バージョン 5.1.502 は BIOS バージョン 786A1 との互換性がありますが、これ以外の BIOS のバージョンとは互換性はありません）

重要： 異なる HP Thin Client モデルからキャプチャした WES 7 または WES 8 のイメージを展開すると、ドライバーが失われます。たとえば、t610 からキャプチャしたイメージは t5570e に展開しても機能しません。


重要： 一部のフォルダー名が変更されているため、PXE イメージングは HP ThinPro 3 イメージの初期状態の HP Device Management Agent では実行できません。PXE イメージングを試みるには、事前に HP Device Management Agent を最新バージョンに更新しておいてください

 **注記：** 現在、HP Device Manager (HPDM) で WES のイメージングに使用されている方法はファイル単位のイメージングです。バージョン 4.4.2 以前の HPDM で使用されていた最初の方法はディスク単位のイメージングでした

 **注記：** 6360t、t5400、または 4320t では、ブート順序変更ツールを使用できないため、PXE イメージングはサポートされていません。

PXE を使用しないイメージング


HP Device Manager (HPDM) でのイメージング方法としては、PXE を使用しないイメージングをおすすめします。この方法では、イメージング タスクの送信時に対象となるデバイスで HP Device Management Agent が実行されている必要があります。PXE を使用しないイメージングのメリットは、対象となるデバイスと同じサブネットに HPDM のゲートウェイを導入する必要がないことです。

 **ヒント：** WES では、デバイスがマスター リポジトリの共有フォルダーにアクセスでき、書き込み許可を与えられていることを確認してください。アクセス先の共有フォルダーがドメイン内にある場合、グループ ポリシーが書き込み許可に影響する場合があります。


PXE を使用しないでイメージをキャプチャする

PXE を使用しないでイメージをキャプチャするには、以下の操作を行います。


1. タスク パネルで[Task Templates]（タスク テンプレート）タブを選択して、[_Capture Image] テンプレートをダブルクリックします。
2. [Template Editor - Imaging]（テンプレート エディター—イメージング）ダイアログ ボックスで、キャプチャしたイメージ（マスター リポジトリに保存されます）の名前を[Image Name]（イメージ名）フィールドに入力し、キャプチャしたイメージについての情報を[Description]（説明）フィールドに入力します。
3. デバイスが無線ネットワークを使用している場合は、[Cached Imaging]（イメージのキャッシュ）を選択します。

 **注記：** [Cached Imaging] オプションを選択する場合は、キャプチャしたイメージをキャッシュするために十分な空きディスク領域がデバイスに必要です。

4. [Save as]（名前を付けて保存）ボタンをクリックしてこのテンプレートの名前を入力し、[OK] をクリックします。タスク パネルに新しいテンプレートが表示されます。
5. デバイス パネルのデバイスにこのテンプレートをドラッグ アンド ドロップします。[Task Editor]（タスク エディター）ダイアログ ボックスが表示されます。
6. [Save result as template]（結果をテンプレートとして保存）フィールドに、自動的に作成される結果テンプレートの名前を入力します。これによって、キャプチャしたイメージを他のデバイスに適用できるようになります。
7. [OK] をクリックすると、タスクがただちにデバイスに適用されます。タスクが送信されると、指定した名前の結果テンプレートが作成されます。テンプレートの最初の状態は[Transferring]（転送中）です。
8. デバイスの HP Device Management Agent がタスクを受信すると、そのデバイスは、デバイスが 30 秒後に再起動されるという警告メッセージを表示します。デバイスが再起動すると、キャプチャユーティリティによってマスター リポジトリにフラッシュストレージの内容がコピーされます。

 **注記：** WES イメージは .ibr ファイル、HP ThinPro または HP Smart Zero Core イメージは .dd.gz ファイルとして保存されます。

9. デバイスはキャプチャの完了後に再起動されます。

 **重要：** この処理を実行している間は、デバイスの電源をオフにしないでください。

その後、デバイスはもう一度再起動されます。

10. HP Device Management Console のタスク パネルには、タスクが処理中であることが引き続き表示されます。キャプチャされたイメージは圧縮処理中です。タスクが完了し、キャプチャしたイメージのチェックサムが確認されると、指定した名前の新しいテンプレートが、タスク パネルの[Task Templates] タブに表示されます。
11. これで、このテンプレートを使用して、キャプチャしたイメージを別のデバイスに適用できます。これを行うには、キャプチャしたイメージをデバイス パネル内のデバイスまたはデバイス ツリー内のフォルダーにドラッグ アンド ドロップします。

テンプレートに関連付けられたイメージに関する情報を表示するには、テンプレートの名前をダブルクリックして[Template Editor]（テンプレート エディター）ダイアログ ボックスを表示します。ここにはイメージの名前および OS の種類が表示されます。[View Details]（詳細の表示）ボタンをクリックすると、イメージの詳細情報が表示されます。

PXE を使用しないでイメージをキャプチャした場合に保持される設定

表 6-2 PXE を使用しないでイメージをキャプチャした場合に保持される設定

オペレーティング システム	保持される設定
WES 8 WES 7 WES 2009	ソースのデバイスとキャプチャされたイメージの両方で、ソースのデバイスのすべての設定（ホスト名、ネットワーク設定、ドメイン設定、書き込みフィルターの状態を除く）が保持されます
HP ThinPro HP Smart Zero Core	ソースのデバイスとキャプチャされたイメージの両方で、ソースのデバイスのすべての設定（ホスト名およびネットワーク設定を除く）が保持されます

ヒント： WES 7 および WES 2009 では、イメージをキャプチャする前にソースのデバイスがドメインに参加した場合、イメージのキャプチャ後にドメインメンバーシップが失われます。イメージをキャプチャするときには、事前にドメインからソースのデバイスを削除しておくことをおすすめします。また、ドメインのパスワードの複雑さを管理するグループ ポリシーがローカル ユーザー アカウントに影響し、より厳密な基準を満たすパスワードに変更するようにユーザーが求められるという既知の問題もあります。

PXE を使用しないでイメージを展開する

PXE を使用しないでイメージを展開するためのプリセット テンプレートはありませんが、イメージをキャプチャするか、既存のイメージ ファイルをインポートして作成できます。


PXE を使用しないでイメージを展開するには、以下の操作を行います。


1. PXE を使用しないでイメージをキャプチャし、展開用テンプレートを作成します（[55 ページの PXE を使用しないでイメージをキャプチャする](#)を参照してください）。

または

メニューから、[Template]（テンプレート）→[Import]（インポート）→[Image Files]（イメージ ファイル）→[to deploy without PXE]（PXE を使用しないで展開する）の順に選択し、ウィザードの説明に沿って操作すると、自動的に展開用テンプレートが作成されます。


2. 展開用テンプレートをダブルクリックして[Template Editor]（テンプレート エディター）を開きます。
3. [View Details]（詳細の表示）ボタンをクリックすると、イメージ パッケージについての詳細情報が表示されます。
4. デバイスが無線ネットワークを使用している場合は、[Cached Imaging]（イメージのキャッシュ）を選択します。

 **注記：** [Cached Imaging] オプションを選択する場合は、イメージ ファイルをキャッシュするために十分な空きディスク領域がデバイスに必要です。

 **注記：** キャッシュ モードでは、HP Device Manager は WES デバイスへの .ibr イメージの展開、または HP ThinPro デバイスへの .dd.gz イメージの展開のみをサポートします。

5. ソースのデバイスとはハードウェア プラットフォームが異なるデバイスにイメージを展開する場合は、[Allow Cross Platform Imaging]（プラットフォーム間のイメージングを許可）を選択します。このオプションは WES にのみ適用されます。また、イメージが対象のデバイスで正常に機能することを確認しておく必要があります。
6. [Save as]（名前を付けて保存）ボタンをクリックして、テンプレートを新しい名前で保存します。

7. テンプレートを、イメージを展開するデバイスにドラッグアンドドロップします。[Task Editor] (タスク エディター) ダイアログ ボックスが表示されます。ここでは[Template Editor]に表示されたものと同じオプションを編集できます。
8. [OK]をクリックすると、イメージがデバイスに展開されます。

 **注記：** t5740 または t5740e に WES7 SP1 をインストールするイメージ展開タスクの実行中に、BIOS が自動更新されます。t5740 および t5740e では BIOS の工場出荷時バージョンは 1.03 ですが、WES7 SP1 ではバージョン 1.04 が必要です。


PXE を使用しないでイメージを展開した場合に保持される設定

表 6-3 PXE を使用しないでイメージを展開した場合に保持される設定

オペレーティング システム	保持される設定
WES 8	<ul style="list-style-type: none">書き込みフィルターの状態
WES 7	<ul style="list-style-type: none">ホスト名
WES 2009	<ul style="list-style-type: none">ネットワークの設定ターミナル サービスのライセンスWindows アクティベーション用ライセンス (WES 8 のみ)
HP ThinPro	<ul style="list-style-type: none">ホスト名
HP Smart Zero Core	<ul style="list-style-type: none">ネットワークの設定

PXE を使用したイメージング

PXE を使用するイメージングでは、対象となるデバイスと同じサブネットに HPDM のゲートウェイ (PXE サーバーを含む) を導入する必要があります。PXE を使用するイメージングのメリットは、イメージの展開中にデバイスのオペレーティング システムが稼働している必要がないことです。つまり、オペレーティング システムが破損しているデバイスにイメージを展開できます。


 **ヒント：** PXE を使用するイメージングには追加の構成が必要な場合があります。PXE イメージングに関連する問題が発生した場合は、[58 ページの PXE イメージングのための環境設定](#)を参照してください。

PXE を使用してイメージをキャプチャする

PXE を使用してイメージをキャプチャするには、以下の操作を行います。

1. [Task Templates] (タスク テンプレート) タブを選択し、[_PXE Capture]テンプレートをダブルクリックします。
2. イメージの名前と説明を入力します。
3. [Save as] (名前を付けて保存) をクリックして、テンプレートを保存します。
[Task Templates] (タスク テンプレート) タブに新しい PXE キャプチャ用テンプレートが表示されます。
4. デバイスの上にテンプレートをドラッグしてから、結果テンプレートの名前を入力します。[OK] をクリックすると、この PXE キャプチャ タスクがデバイスに送信されます。

5. タスクが送信されると、指定した名前の結果テンプレートが作成されます。テンプレートの最初の状態は[Transferring]（転送中）です。
6. タスクが完了すると、結果テンプレートが有効になり、タスクの送信に使用できるようになります。

 **注記：** PXE イメージング用にキャプチャしたイメージは、オペレーティング システムの種類にかかわらず、常に.dd.gz 形式になります。

PXE を使用してイメージを展開する

PXE を使用してイメージを展開するためのプリセット テンプレートはありませんが、イメージをキャプチャするか、既存のイメージ ファイルをインポートして作成できます。


PXE を使用してイメージを展開するには、以下の操作を行います。


1. PXE を使用してイメージをキャプチャし、展開用テンプレートを作成します（[57 ページの PXE を使用してイメージをキャプチャする](#)を参照してください）。

または

メニューから、[Template]（テンプレート）→[Import]（インポート）→[Image Files]（イメージ ファイル）→[to deploy using PXE]（PXE を使用して展開する）の順に選択し、ウィザードの説明に沿って操作すると、自動的に展開用テンプレートが作成されます。

2. 展開用テンプレートをデバイスにドラッグします。

 **注記：** PXE を使用した展開では、.dd.gz、.dd、.img、または.hpimg イメージの展開ができます。

 **注記：** シャットダウンされているデバイスにイメージを展開する場合は、そのデバイスの BIOS でウェイクアップおよびネットワーク ブートの最優先設定がサポートされている必要があります。

PXE イメージングのための環境設定

以下では、PXE イメージングに必要ないくつかの設定について説明します。

- [PXE イメージング用の DHCP サーバーの設定](#)
- [PXE イメージング用のルーターの設定](#)
- [PXE イメージング用に従来の Neoware デバイスの BIOS を設定する](#)

PXE イメージング用の DHCP サーバーの設定

ここでは、PXE イメージングのための DHCP サーバーの設定方法について説明します。DHCP サーバーは、基本的なネットワーク情報を取得するために PXE ブート ROM によって使用されます。

DHCP サーバーが HP Device Management Server とは別のコンピューターにインストールされている場合

PXE イメージング中に問題が発生した場合、DHCP サーバーで特定の設定が PXE と競合していないかどうかの確認が必要になることがあります。ただし、ほとんどのネットワークでは、このような問題は発生しません。

DHCP サーバーを設定するには、以下の操作を行います。

1. DHCP サーバーが以前に PXE ブートストラップ用に設定されていないことを確認します。
2. DHCP オプション 43 および 60 が設定されていないことを確認します。

これで、DHCP サーバーを PXE とともに使用できるようになります。

DHCP サーバーが HP Device Management Server と同じコンピューターにインストールされている場合


DHCP サーバーが HP Device Management Server と同じコンピューターにインストールされている場合は、一部の設定を手動で行う必要があります。

この手順では、以下のように仮定します。


- すでに DHCP を使用してネットワークが設定されている。
- DHCP サーバーが以前に PXE ブートストラップ用に設定されていない。
- 同じネットワーク上で実行されている TFTP サーバーがほかにはない。

DHCP サーバーを設定するには、以下の操作を行います。

1. DHCP オプション 43 が設定されていないことを確認します。
2. 以下の操作を行って、DHCP オプション 60 を追加します。
 - a. Windows の[スタート]メニューで、[スタート]→[ファイル名を指定して実行]の順に選択します。

 **ヒント：** Windows Server 2012 では、デスクトップの左下隅を右クリックし、[Run]（実行）を選択します。
 - b. 「Cmd」と入力し、[OK]をクリックしてコマンドプロンプトを開きます。
 - c. 「netsh」と入力して、**Enter** キーを押します。
 - d. 「dhcp」と入力して、**Enter** キーを押します。
 - e. 「server <サーバー名>」と入力します（サーバーの UNC 名を使用します）。
または
「server <IP アドレス>」と入力します（サーバーの IP アドレスを使用します）。
コマンドウィンドウに「[dhcp server >]」プロンプトが表示されます。
 - f. 「add optiondef 60 <任意の名前> STRING 0」と入力して、**Enter** キーを押します。
 - g. 「set optionvalue 60 STRING “PXEClient “」と入力して、**Enter** キーを押します。
 - h. 設定が正しいことを確認するため、「show optionvalue all」と入力して **Enter** キーを押します。
3. 以下の操作を行って、DHCP オプション 201 を追加します。

- a. 「[dhcp server >]」プロンプトで、「add optiondef 201 <任意の名前> STRING 0」と入力して、**Enter** キーを押します。
- b. 「set optionvalue 201 STRING ‘<HPDM ゲートウェイの IP アドレス>’ ‘40003’」と入力して、**Enter** キーを押します。

 **注記：** <HPDM ゲートウェイの IP アドレス>は HP Device Management Gateway サービスを実行しているサーバーのアドレスです。このコマンドは、一重引用符や 1 個のスペースを含め、上記とまったく同じように入力する必要があります。以下に例を示します。

```
set optionvalue 201 STRING ‘192.168.1.100’ ‘40003’
```


- c. 設定が正しいことを確認するため、「show optionvalue all」と入力して **Enter** キーを押します。

これで、DHCP サーバーを PXE とともに使用できるようになります。

PXE イメージング用の Linux DHCP サーバーの設定

1. DHCP サーバー設定ファイル/etc/dhcpd.conf を編集します。ファイルの先頭に、以下の行を正確に次のとおりに追加します。

```
ddns-update-style ad-hoc;  
Authoritative;  
Option NDM code 201 =string;  
Option vendor-class-identifier “PXEClient” ;  
Option NDM “‘<HPDM_Gateway_IP_Address>’ ‘40003’” ;
```

 **注記：** <HPDM ゲートウェイの IP アドレス>は HP Device Management Gateway サービスを実行しているサーバーのアドレスです。このコマンドは、二重引用符、一重引用符、1 個のスペースを含め、上記とまったく同じように入力する必要があります。以下に例を示します。

```
Option NDM “‘192.168.1.100’ ‘40003’” ;
```


2. 新しい設定を使用するため、dhcpd を再起動します。

PXE イメージング用のルーターの設定

PXE イメージングを正しく機能させるには、DHCP を使用していて複数のサブネットがあるネットワークで、動的 IP アドレスおよび DHCP サーバーを必要とするデバイス間のルーターに IP ヘルパーが設定されている必要があります。このルーターには、HP Device Management Gateway を指す追加の IP ヘルパー アドレスを設定する必要があります。

以下の例では Cisco ルーターを使用します。

1. [グローバル設定]モードに切り替えます。
2. 「ip forward-protocol udp 67」と入力して **Enter** キーを押します。
3. 「ip forward-protocol udp 68」と入力して **Enter** キーを押します。
4. 「ip helper-address <DHCP サーバーの IP アドレス>」と入力して **Enter** キーを押します。
5. 「ip helper-address <HPDM ゲートウェイの IP アドレス>」と入力して **Enter** キーを押します。

 **注記：** 上記の手順で IP アドレスを入力するときは、<（小なり）記号や>（大なり）記号は省いてください。

PXE イメージング用に従来の Neoware デバイスの BIOS を設定する

従来の Neoware デバイスで PXE を使用してイメージのキャプチャまたは展開を行うには、送信元および送信先のデバイスで BIOS が正しく設定されている必要があります。

PXE 用に従来の Neoware デバイスの BIOS を設定するには、以下の操作を行います。

1. デバイスの電源を入れて、**Delete** キーを押したままにして**[CMOS Setup Utility]**（CMOS セットアップユーティリティ）画面を表示します。
2. **[Advanced BIOS Features]**（BIOS の詳細設定）を選択して、以下のように設定します。

First Boot Device [LAN]
Second Boot Device [HDD-0]
3. **Esc** キーを押して最初の画面に戻り、**[Integrated Peripherals]**（内蔵周辺機器）→**[VIA OnChip PCI Device]**（OnChip PCI デバイス経由）の順に選択します。
4. **[Onboard Lan Boot ROM]**（オンボード LAN からの ROM ブート）が**[Enabled]**（有効）に設定されていることを確認します。
5. **F10** キー、**Y** キーの順に押してから、**Enter** キーを押して設定を保存します。

7 リポジトリの管理

HP Device Manager (HPDM) は、1つのマスター リポジトリまたは1つまたは複数のチャイルド リポジトリを使用して、タスクの実行に必要なファイルを保存します。マスター リポジトリには、HPDMによって展開されるすべてのファイルが保存されています。一方、チャイルド リポジトリには、マスター リポジトリに含まれているすべてまたは一部のファイルを保存できます。各リポジトリは、標準 FTP、暗号化された FTP に相当する SFTP および FTPS、または共有フォルダーを使用して HPDM が接続するファイル サーバーです。

初期設定では、新しいタスクが開始されたときに、マスター リポジトリは自動的に関連ファイルをチャイルド リポジトリに同期します。

ウィザードからの初期化

初めて HP Device Management Console を起動するときにはウィザードが表示され、リポジトリ システムの初期化を求められます。

ウィザードは以下の2つのページで構成されています。

- [Protocol Settings] (プロトコルの設定)
- [Master Repository Configuration] (マスター リポジトリの設定)

使用するファイル プロトコルの選択

HP Device Manager (HPDM) が使用するファイル プロトコルを選択するには、以下の操作を行います。


1. HP Device Management Console のメニューから、[Tools] (ツール) → [Repository Management] (リポジトリの管理) の順に選択します。
2. [Repository Management] ダイアログ ボックスで、[Protocols] (プロトコル) をクリックします。
3. [Protocol Configuration] ダイアログ ボックスで、使用するプロトコルとポートを設定します。

マスター リポジトリおよびチャイルド リポジトリを含むすべてのリポジトリにプロトコル設定が適用されます。HP Device Manager はこのプロトコルのみを使用してリポジトリにアクセスします。


マスター リポジトリの設定

1. HP Device Management Console のメニューから、[Tools] (ツール) → [Repository Management] (リポジトリの管理) の順に選択します。
2. [Repository Management] ダイアログ ボックスで、マスター リポジトリを選択してから [Edit] (編集) をクリックします。

3. [Repository Editor] (リポジトリ エディター) ダイアログ ボックスで、[Repository Name] (リポジトリ名)、[Server Address] (サーバー アドレス)、[Username] (ユーザー名)、[Password] (パスワード)、および[Path] (パス) を設定します。


 **注記：** 上記で指定するパスは、インストール時にマスター リポジトリ コントローラー用に構成した場所と同じ場所である必要があります。たとえば、インストール時に `c:\ftproot\HPDM` を指定し、このフォルダーにアクセスするための FTP に `ftp://IP/HPDM`、共有フォルダーに `\\IP\HPDM` を指定している場合は、FTP と共有フォルダーの[Path]に「HPDM」を入力する必要があります。

4. 設定した接続をテストする場合は、[Test] (テスト) をクリックします。

 **注記：** テストは、変更が保存される前に行われます。


5. [OK] をクリックします。

マスター リポジトリのアドレスが変更されていた場合、HP Device Management Server は現在の接続を切断し、新しいアドレスでマスター リポジトリ コントローラーへの接続を試みます。

 **注記：** HPDM Server がマスター リポジトリ コントローラーへの接続を確立するまでには時間がかかります。内容の管理などリポジトリ関連の動作は、しばらく待機してから行ってください。

チャイルド リポジトリの設定

1. HP Device Management Console のメニューから、[Tools] (ツール) → [Repository Management] (リポジトリの管理) の順に選択します。
2. [Repository Management] ダイアログ ボックスで、[Add] (追加) をクリックします。
3. [Repository Editor] (リポジトリ エディター) ダイアログ ボックスで、[Repository Name] (リポジトリ名)、[Server Address] (サーバー アドレス)、[Username] (ユーザー名)、[Password] (パスワード)、および[Path] (パス) を設定します。
4. FTP サーバーや共有フォルダーとの接続をテストする場合は、[Test] (テスト) をクリックします。

 **注記：** テストは、変更が保存される前に行われます。

5. [OK] をクリックします。

チャイルド リポジトリの削除

1. HP Device Management Console のメニューから、[Tools] (ツール) → [Repository Management] (リポジトリの管理) の順に選択します。
2. [Repository Management] ダイアログ ボックスで、チャイルド リポジトリを選択します。
3. [Remove] (削除) をクリックし、[Yes] (はい) をクリックして確認します。

リポジトリのエクスポート


1. HP Device Management Console のメニューから、[Tools] (ツール) → [Repository Management] (リポジトリの管理) の順に選択します。
2. [Repository Management] ダイアログ ボックスで、[Export] (エクスポート) をクリックします。

3. リポジトリを保存する場所を指定します。
4. **[Export]** ボタンをクリックします。

リポジトリのインポート

1. HP Device Management Console のメニューから、**[Tools]**（ツール）→**[Repository Management]**（リポジトリの管理）の順に選択します。
2. **[Repository Management]** ダイアログ ボックスで、**[Import]**（インポート）をクリックします。
3. インポートするリポジトリのある場所を指定します。
4. **[Import]** ボタンをクリックします。

リポジトリの同期

 **ヒント：** リポジトリを手動で同期したり、自動同期のスケジュールを設定したりする必要はありません。マスター リポジトリ内の関連ファイルは、タスクが開始されたときに自動的にチャイルド リポジトリに同期されます。

すべての内容をすべてのチャイルド リポジトリに手動で同期するには、以下の操作を行います。

1. HP Device Management Console のメニューから、**[Tools]**（ツール）→**[Repository Management]**（リポジトリの管理）の順に選択します。
2. **[Repository Management]** ダイアログ ボックスで、**[Sync]**（同期）をクリックします。
3. **[Synchronization]**（同期）ダイアログ ボックスで、**[Sync]**をクリックします。
4. **[Yes]**（はい）をクリックして確定します。

自動同期が繰り返し行われるようにスケジュールを設定するには、以下の操作を行います。

1. HP Device Management Console のメニューから、**[Tools]**→**[Repository Management]**の順に選択します。
2. **[Repository Management]** ダイアログ ボックスで、**[Sync]**をクリックします。
3. **[Synchronization]** ダイアログ ボックスで、**[Enable schedule synchronization]**（スケジュール同期を有効にする）チェックボックスにチェックを入れます。
4. 必要に応じて、オプションおよびスケジュールを設定します。
5. **[Save]**（保存）をクリックします。

同期は、手動であるか自動であるかにかかわらず、バックグラウンドで行われます。完了すると、**[Repository Management]** ダイアログ ボックスの**[Last Time Synchronized]**（最後に同期した時間）列が更新されます。

内容の管理

マスター リポジトリの内容を表示するには、以下の操作を行います。

1. HP Device Management Console のメニューから、**[Tools]**（ツール）→**[Repository Management]**（リポジトリの管理）の順に選択します。
2. **[Repository Management]** ダイアログ ボックスで、**[Content]**（コンテンツ）をクリックします。

ペイロードの詳細情報の表示


ペイロードの詳細情報を表示するには、以下の操作を行います。

- ▲ [Content Management] (内容の管理) ダイアログ ボックスで、左側のパネルからカテゴリを 1 つ ([File Captured] (キャプチャしたファイル) を除く) 選択してから、右側のパネルの項目を 1 つダブルクリックします。ペイロードの詳細情報についてのダイアログ ボックスが表示されます。

マスター リポジトリの内容の削除

マスター リポジトリの内容を削除するには、以下の操作を行います。

- ▲ [Content Management] (内容の管理) ダイアログ ボックスで、右側のパネルから項目を 1 つ選択し、[Delete] (削除) ボタンをクリックします。確認のメッセージが表示されます。[Yes] (はい) をクリックすると、ペイロードが削除されます。

 **注記：** 内蔵コンテンツは削除できません。

[File Captured] (キャプチャしたファイル) カテゴリからの内容のダウンロード

マスター リポジトリの内容をダウンロードするには、以下の操作を行います。

1. [Content Management] (内容の管理) ダイアログ ボックスで、[Files Captured] カテゴリの項目を 1 つ選択し、[Download] (ダウンロード) ボタンをクリックします。
2. リポジトリを保存する場所を参照します。ローカル マシンに内容がダウンロードされます。

リポジトリのマッピング

HP Device Manager (HPDM) では、すべてのデバイスが最も近く最も便利なりポジトリに自動的にマップされます。管理者はこれによって、多数の HP Device Management Agent にタスクを送信し、デバイスを自動的にリポジトリに接続させて、タスクを実行するために必要な可能性のある情報またはアプリケーションを検出させることができます。このタスクに必要なペイロードは、対象のデバイスにタスクが送信される前に自動的に同期されます。

[Repository Mapping] (リポジトリ マッピング) ダイアログ ボックスにアクセスするには、以下の操作を行います。


1. HP Device Management Console のメニューから、[Tools] (ツール) → [Repository Management] (リポジトリの管理) の順に選択します。
2. [Mapping] (マッピング) をクリックします。


バッチ マッピング

マスターの HP Device Management Gateway またはサブネット アドレスごとにデバイスを一括してマッピングできます。これを行うには、対応するラジオ ボタンを選択します。[Show exceptions only] (例外のみを表示します) チェックボックスのチェックを外すと、すべてのマッピング結果を表示できます。

HP Device Management Gateway またはサブネット アドレスのマッピングを変更するには、マッピングを右クリックしてポップアップ メニューから以下のオプションを 1 つ選択します。

- **[Auto Map]**（自動マッピング）：自動マッピング（工場出荷時の設定）。HP Management Server は IP アドレスに基づいて各 HP Device Management Gateway またはサブネット アドレスにリポジトリを割り当てます。
- **[Use Master]**（マスターを使用）：マスター リポジトリを使用します。
- **[Use Specified]**（指定のものを使用）：ポップアップ リストから指定の HP Device Management Gateway またはサブネット アドレスのリポジトリを選択します。

 **注記：** 管理者はデバイスまたは HP Device Management Gateway またはサブネット アドレスのマッピング設定をいつでも変更できます。

 **注記：** HP Device Manager（HPDM）では、ネットワークに追加された新しいデバイスが自動的にマップされます。

デバイスごとのマッピング

例外デバイスを定義すると、バッチ マッピングで使用したものとは別のリポジトリをそのデバイスに割り当てることができます。これを行うには、フィルターからデバイスを追加して、これらのデバイスに特定のリポジトリを割り当てます。

フィルターについて詳しくは、[40 ページのデバイスのフィルター処理](#)を参照してください。

8 セキュリティ管理

HP Device Manager (HPDM) には、**ユーザーの管理**および**認証の管理**という 2 つの形式のセキュリティ管理があります。

ユーザーの管理

各ユーザー アカウントに、その必要の度合いに応じてカスタマイズしたアクセス権を付与できます。それらはユーザー グループ システムを介して割り当てられます。

[User Management] (ユーザーの管理) ダイアログ ボックスを表示するには、以下の操作を行います。


- ▲ HP Device Management Console のメニュー バーから **[Tools]** (ツール) → **[User Management]** (ユーザーの管理) の順に選択します。


ユーザーの追加

1. [User Management] ダイアログ ボックスで **[Add]** (追加) をクリックすると、新しいユーザーを作成できます。 **[Create New User]** (新しいユーザーの作成) ダイアログ ボックスが表示されます。
2. 新しいユーザーの **[Username]** (ユーザー名) を入力し、 **[Password]** (パスワード) を指定します。 **[OK]** をクリックすると新しいユーザーを作成できます。

次回 HP Device Management Console を起動したとき、このユーザー名を使用して HP Device Management Console にログインできます。

新しいユーザーをユーザー グループに追加する方法については、[67 ページのユーザーのグループへの割り当て](#)を参照してください。

 **注記：** ユーザーに HP Device Manager (HPDM) の使用を許可する前に、ユーザーをグループに追加する必要があります。

 **注記：** 複数の HP Device Management Console が同じユーザー名を使って同時に HP Device Management Server にログオンすることはできません。

ユーザーの削除


1. [User Management] (ユーザーの管理) ダイアログ ボックスで、 **[Users]** (ユーザー) タブ内の一覧からユーザーを選択します。
2. **[Delete]** (削除) をクリックし、 **[Yes]** (はい) をクリックして確認します。

ユーザーのグループへの割り当て

1. [User Management] (ユーザーの管理) ダイアログ ボックスで、 **[Users]** (ユーザー) タブ内の一覧に表示されているユーザーをダブルクリックします。
2. **[Member Of]** (所属するグループ) タブを選択します。
3. **[Add]** (追加) をクリックしてユーザーを新しいグループに追加するか、 **[Remove]** (削除) をクリックしてユーザーを選択したグループから削除します。

ユーザーのパスワードの変更

1. [User Management] (ユーザーの管理) ダイアログ ボックスで、[Users] (ユーザー) タブ内の一覧に表示されているユーザーを右クリックします。
2. ポップアップ メニューから[Change Password] (パスワードの変更) を選択します。
3. ユーザーの[New Password] (新しいパスワード) を入力し、[Confirm Password] (パスワードの確認) フィールドに再度入力します。
4. [OK]をクリックして完了します。

 **注記：** root として最初にログインするときに、パスワードを初期設定から変更することを強くおすすめします。

ユーザーへのセキュリティ フィルターの割り当て

1. [User Management] (ユーザーの管理) ダイアログ ボックスで、[Users] (ユーザー) タブ内の一覧に表示されているユーザーをダブルクリックします。
2. [Filter] (フィルター) タブを選択します。
3. [Add] (追加) をクリックしてフィルターをこのユーザーに追加するか、[Remove] (削除) をクリックしてセキュリティ フィルターをこのユーザーから削除します。

グループの追加

グループを使用して、HP Device Manager (HPDM) でのユーザーのアクセス権を制御できます。

1. [User Management] (ユーザーの管理) ダイアログ ボックスで、[Groups] (グループ) タブを選択します。
2. [Add] (追加) をクリックすると、新しいグループを作成できます。このグループに一連のアクセス権を割り当ててから、ユーザーを割り当てることができます。

グループへのアクセス権の割り当て

1. [User Management] (ユーザーの管理) ダイアログ ボックスで、[Groups] (グループ) タブ内の一覧に表示されているグループを右クリックします。
2. ポップアップ メニューから[Properties] (プロパティ) を選択します。
3. [Privileges] (特権) タブを選択します。
4. グループに割り当てるアクセス権を選択します。
5. [OK]をクリックして完了します。

ユーザーのグループへの割り当て

1. [User Management] (ユーザーの管理) ダイアログ ボックスで、[Groups] (グループ) タブ内の一覧に表示されているグループを右クリックします。
2. ポップアップ メニューから[Properties] (プロパティ) を選択します。
3. [Users] (ユーザー) タブを選択します。

4. **[Add]**（追加）ボタンと**[Delete]**（削除）ボタンを使用して、このグループのメンバーを変更します。
5. **[OK]**をクリックして完了します。

グループへのセキュリティ フィルターの割り当て

1. **[User Management]**（ユーザーの管理）ダイアログ ボックスで、**[Groups]**（グループ）タブ内の一覧に表示されているグループをダブルクリックします。
2. **[Filter]**（フィルター）タブを選択します。
3. **[Add]**（追加）をクリックしてフィルターをこのグループに追加するか、**[Remove]**（削除）をクリックしてセキュリティ フィルターをこのグループから削除します。

グループの削除

1. **[User Management]**（ユーザーの管理）ダイアログ ボックスで、**[Groups]**（グループ）タブ内の一覧からグループを選択します。
2. **[Delete]**（削除）ボタンをクリックし、**[Yes]**（はい）をクリックして確認します。

LDAP および Active Directory でのユーザー認証

Active Directory または他の LDAP サーバーのユーザーおよびグループを HP Device Manager (HPDM) へのログインに使用できます。これによって、既存のログイン アカウントを再利用できるとともに、HPDM の管理者特権を持つユーザーの管理が簡素化されます。

構成

LDAP サーバーへの接続を設定するには、以下の操作を行います。

1. HP Device Management Console のメニュー バーから**[Tools]**（ツール）→**[Configuration]**（設定）の順に選択します。
2. **[Configuration Management]**（設定の管理）ダイアログ ボックスの左側のツリー枠で、**[User Authentication]**（ユーザー認証）を選択します。
3. **[Host]**（ホスト）フィールドに LDAP サーバーのホスト名または IP アドレスを入力します。暗号化された接続を使用する場合は、LDAP サーバーをホスト名で指定する必要があります。
4. 必要な場合は、**[Port]**（ポート）を調整します。ポート 389 は、TLS または非暗号化 LDAP 接続に最もよく使用されているポートです。ポート 636 は、SSL LDAP 接続によく使用されているポートです。
5. **[Encryption]**（暗号化）のタイプを選択します。
6. TLS または SSL 暗号化を使用する場合は、**[Host Key]**（ホスト キー）を指定する必要があります。以下のどれか 1 つを実行します。
 - ▲ **[Get Key From Host]**（ホストからのキーの取得）をクリックします。LDAP サーバーへの接続が作成され、ホスト キーが保存されます。または
 - ▲ **[Import From File]**（ファイルからのインポート）をクリックします。次のどちらかの形式のホスト キー証明書ファイルを参照します。

- キー エクスポート ファイル: ホスト キーは LDAP サーバーからファイルにエクスポートされることがよくあります。Microsoft Active Directory/IIS プラットフォームでは、このエクスポート ファイルを `http://<お使いの LDAP サーバー>/certsrv/certcarc.asp` から取得できます。
 - Java Keystore : 以前の HP Device Manager (HPDM) インストールの `hpdmcert.key` ファイル、または他の Java Keystore ファイルをインポートできます。
7. **[Server Type]** (サーバー タイプ) セクションで、LDAP サーバーの種類を**[Type]** (種類) メニューから選択します。
- a. **[Active Directory]** : Active Directory の**[Domain]** (ドメイン) を指定します。単一のドメインのみがサポートされています。
 - b. **[Generic LDAP]** (汎用 LDAP) :
 - **[Base DN]** (ベース DN) を指定します。ベース DN (識別名) は、LDAP サーバーへの接続に必要になります。ベース DN について詳しくは、LDAP サーバーの説明書を参照してください。
ベース DN の例 :
 - `dc=testnet,dc=com`
 - `o=company,c=US`
 - **[RDN Attribute]** (RDN 属性) を指定します。RDN (相対識別名) 属性は、ユーザーのログイン名を指定する LDAP 属性です。これの一般的な値は、**sAMAccountName** (Active Directory)、**UID**、**CN** などです。
8. **[Search User]** (ユーザーの検索) を設定します。このユーザーの検索は、2 つの状況で使用されます。**[Import Users and Groups]** (ユーザーおよびグループのインポート) ダイアログ ボックスによって LDAP サーバーを参照する場合、およびインポートされたグループのメンバーを動的に決定する場合です。LDAP が匿名検索をサポートしていない場合、ユーザーの検索を指定する必要があります。匿名ユーザーを使用するには、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。
このユーザー名は識別名として指定してください。
- Active Directory に関する注記** : 識別名は、通常のログイン名の代わりに LDAP CN 属性を使用します。LDAP CN を決定するには、ドメイン コントローラーで**[Active Directory Users and Computers]** (Active Directory ユーザーとコンピューター) を開き、**[Search User]** をダブルクリックします。この**[Properties]** (プロパティ) ウィンドウの**[General]** (全般) タブには、**[Display Name]** (表示名) が表示されます。この**[Display Name]** が LDAP CN です。
- たとえば、ドメイン「testnet.com」のユーザー ディレクトリの表示名「HPDM search user」の場合、DN は次のようになります。
- CN=hpdm search user,CN=Users,DC=testnet,DC=com**
9. 最後に、**[Test]** (テスト) ボタンをクリックして設定をテストします。LDAP サーバーの設定が正常に完了すると、このテストに合格します。

ユーザーおよびグループのインポート

LDAP サーバーの設定が終わったら、次にユーザーとグループをインポートする必要があります。このインポート プロセスでは、ログインが許可されている LDAP ユーザーとログイン後の特権が HP Device Manager (HPDM) に伝えられます。

インポート ツールを開くには、以下の操作を行います。

1. HP Device Management Console のメニュー バーから **[Tools]** (ツール) → **[User Management]** (ユーザーの管理) の順に選択します。

2. **[Import from LDAP]** (LDAP からインポート) ボタンをクリックします。

[Import Users and Groups] (ユーザーおよびグループのインポート) ダイアログ ボックスでは、**[Browse]** (参照) および **[Search]** (検索) によってユーザーまたはグループを探すことができます。LDAP オブジェクトのプロパティは **[Show Attributes]** (表示属性) ボタンを使用して評価できます。ユーザーおよびグループを追加してからインポートできます。

ユーザーまたはグループを参照するには、以下の操作を行います。


1. **[Import Users and Groups]** ダイアログ ボックスが **[Browse]** モードで開きます。ダイアログ ボックスの左側に、LDAP オブジェクトのツリーが表示されます。
2. ディレクトリの左にある **[+]** ボタンをクリックすると、ディレクトリを展開できます。
3. LDAP ツリーのある場所に多数の結果が含まれることがあります。その場合、青色の **[Show 20 more]** (さらに 20 個を表示) エントリが表示されます。**[Show 20 more]** をクリックすると、さらに多くの結果が表示されます。

ユーザーまたはグループを検索するには、以下の操作を行います。

1. **[Import Users and Groups]** ダイアログ ボックスの左上で **[Search]** タブをクリックします。
2. 検索は **[Base DN]** (ベース DN) を起点として実行されます。すべての検索はこの起点から再帰的に実行されます。
3. **[Query]** (クエリ) では、検索対象を指定できます。ここには、属性、検索値、およびその 2 つの間の比較演算子の 3 つの部分が含まれます。
 - a. クエリの左側の **属性** には、検索に使用する一般的な属性がいくつか用意されています。該当する検索属性がない場合は、属性をこのフィールドに入力します。
 - b. クエリの右の **検索値** では、検索対象を指定します。**検索値** の一部としてアスタリスク (*) を使用できます。このため、完全な検索値が不明な場合でも検索できます。例: 値 **[*.smith@testnet.com]** に比較演算子 **[等しい]** を指定して属性 **UID** を検索した場合、**[.smith@testnet.com]** で終わる **UID** を持つ全ユーザーが一致します。
 - c. クエリの中央の **比較演算子** には、属性の値を検索対象と比較するいくつかの方法が用意されています。
 - 比較演算子 **[等しい]**、**[=]** を選択すると、検索値と等しい LDAP オブジェクトが検出されます。
 - 比較演算子 **[より大きいか等しい]**、**[>=]** を選択すると、検索値より数値的に大きい属性値を持つ LDAP オブジェクトが検出されます。
 - 比較演算子 **[より小さいか等しい]**、**[<=]** を選択すると、同様に、検索値より数値的に小さい属性値を持つ LDAP オブジェクトが検出されます。
 - 比較演算子 **[類似する]**、**[~=]** を選択すると、検索値と類似する属性値の検索が可能です。
 - 最後に、比較演算子 **[等しくない]**、**[!=]** を選択すると、検索値と等しくない属性値の検索が可能です。
4. 最後に、**[Search]** ボタンを押します。左側の **[Search]** ツリーに結果が表示されます。検索結果の参照について詳しくは、このセクションの「ユーザーまたはグループを参照するには」の手順を参照してください。

インポートするユーザーまたはグループの追加

1. **[Browse]**または**[Search]**のどちらかを使用して、ユーザーまたはグループを見つけます。
2. 以下のどちらかの方法でユーザーまたはグループを追加します。
 - ユーザーまたはグループをダブルクリックします。
または
 - ユーザーまたはグループをクリックし、ダイアログ ボックスの左下にある**[Add]**（追加）ボタンをクリックします。
3. ユーザー/グループが右側に表示されます。

 **注記：** ユーザーとグループは右下の**[Import]**（インポート）ボタンをクリックするまでインポートされません。ユーザーおよびグループのインポートを完了する場合は、**[Import]**ボタンを必ずクリックしてください。

インポートするユーザーまたはグループの削除

1. **[Import Users and Groups]**ダイアログ ボックスの右側でユーザーまたはグループを選択します。
2. **[Remove]**（削除）ボタンをクリックします。

ユーザーまたはグループの確認

1. ユーザーまたはグループをクリックします。
2. **[Show Attributes]**（表示属性）ボタンをクリックします。
3. 必要に応じて、**[Add]**ボタンをクリックすることで、このオブジェクトをインポートするユーザー/グループの一覧に追加できます。

ユーザーおよびグループのインポート

1. **[Browse]**または**[Search]**のどちらかを使用して、ユーザーまたはグループを見つけます。
2. ユーザーまたはグループを追加します。
3. 右下隅の**[Import]**（インポート）ボタンをクリックします。これで、インポートされたユーザーおよびグループを**[User Management]**ダイアログ ボックスに表示できるようになりました。
4. グループをインポートした場合は、グループの特権を割り当てる必要があります。[68 ページのグループへのアクセス権の割り当て](#)を参照してください。

認証の管理

HP Device Management Server ではネットワーク上にある HP Device Manager のすべての HP Device Management Gateway および HP Device Management Agent を検出および管理できるため、HP Device Management Server を適切に使用しないと、セキュリティの問題が発生することがあります。これを回避するため、HP Device Manager (HPDM) は HP Device Management Gateway および HP Device Management Agent が安全な HP Device Management Server を識別するための認証機能を備えています。


認証を提供するために、**[Key Management]**（キーの管理）および**[Gateway Access Control]**（ゲートウェイのアクセス制御）という 2 つのツールが用意されています。これらにアクセスするには、HP Device Management Console のメニュー バーで、**[Tools]**（ツール）→**[Authentication Management]**（認証の管理）の順に選択します。

キーの管理

認証キーは、HP Device Management Console に入力される平文のパスワードです。このキーはキーの更新処理中にデバイスに渡されます。デバイスでは、タスクの実行時に、HP Device Management Server から渡されたキーが確認されます。

現在の認証キーを更新するには、以下の操作を行います。

1. HP Device Management Console のメニュー バーで、[Tools] (ツール) → [Authentication Management] (認証の管理) → [Key Management] (キーの管理) の順に選択して、[Authentication] (認証) ダイアログ ボックスを表示します。
2. [Password] (パスワード) を入力して、[OK] をクリックします。[Key Management] ウィンドウが表示されます。
3. [Update Current Key] (現在のキーの更新) ボタンをクリックして、[Update Key] (キーの更新) ダイアログ ボックスを表示します。
4. 新しい[Password] (つまり認証キー) を入力し、[Expire Interval] (期限切れの間隔) を日数で指定します。
5. [OK] ボタンをクリックします。

 **注記：** [Expire Interval] は、パスワード (キー) が有効であり続ける時間です。HP Device Management Agent が指定された時間 (期限切れの間隔) 内に HP Device Management Gateway と通信してキー情報を取得できないと、そのキーは失効し (つまり使用できなくなり)、HP Device Management Agent は初期設定のキーに戻ります。

ユーザー パスワードには次の文字を含めることをおすすめします。

- 8 つ以上の文字
- 大文字と小文字の両方
- 英字だけでなく、数字および句読点

認証キーをエクスポートするには、以下の操作を行います。

1. [Key Management] ウィンドウの[Export All Key(s)] (すべてのキーのエクスポート) ボタンをクリックして、[Export] (エクスポート) ダイアログ ボックスを表示します。
2. 現在の認証キーを*.ks ファイルとして保存するフォルダーを参照し、[Export] ボタンをクリックします。
3. KeyStore パスワードの作成と確認を求めるメッセージが表示されます。
4. [Create KeyStore Password] (KeyStore パスワードの作成) ダイアログ ボックスで、KeyStore [Password] を入力し、[Re-enter Password] (パスワードの再入力) フィールドでパスワードを確認します。
5. [OK] ボタンをクリックします。

認証キーをインポートするには、以下の操作を行います。

1. [Key Management] ウィンドウで[Import Key(s)] (キーのインポート) ボタンをクリックして、[Import] (インポート) ダイアログ ボックスを表示します。
2. エクスポートされた*.ks ファイルを参照し、[Import] ボタンをクリックします。
3. KeyStore パスワードの入力を求めるメッセージが表示されます。
4. KeyStore [Password] を入力して、[OK] ボタンをクリックします。

キーの更新ログの表示

[Key Update Log]（キーの更新ログ）を表示するには、[Key Management]ウィンドウで[View Update Log]（更新ログの表示）ボタンをクリックします。


[Key Update Log List]（キーの更新ログ一覧）で、ログのすべての時刻およびイベントを確認できます。[Clear All Logs]（すべてのログをクリア）ボタンをクリックすると、すべてのログを削除できます。

HP Device Management Gateway のアクセス制御

HP Device Management Server では、ユーザーが HP Device Management Console で指定した HP Device Management Gateway の確認の状態が保持されます。HP Device Management Server によって HP Device Management Gateway が検出されたとき、その HP Device Management Gateway は [Unknown]（不明）の状態に設定されます。HP Device Management Server は、HP Device Management Gateway が確認されない限り、その HP Device Management Gateway との接続を確立せず、禁止されている HP Device Management Gateway から送信されたメッセージを受信しません。

HP Device Management Gateway アクセスを手動で制御するには、以下の操作を行います。

1. HP Device Management Console のメニュー バーで、[Tools]（ツール）→[Authentication Management]（認証の管理）→[HPDM Gateway Access Control]（HPDM ゲートウェイのアクセス制御）の順に選択して、[Authentication]（認証）ダイアログ ボックスを表示します。
2. パスワードを入力して[OK]をクリックします。[HPDM Gateway Access Control]ウィンドウが表示されます。
3. [HPDM Gateway Access Control List]（HPDM ゲートウェイのアクセス制御一覧）から HP Device Management Gateway を選択し、[Acknowledge]（確認応答）または[Ban]（禁止）ボタンをクリックして、選択した HP Device Management Gateway を認識または禁止します。

 **注記：** [Manually control HPDM Gateway access]（HPDM ゲートウェイへのアクセスを手動で制御）のチェックを外すと、[Unknown]（不明）状態の HP Device Management Gateway は受信が確認されたとみなされます。このオプションにチェックを入れると、[Unknown]状態の HP Device Management Gateway は禁止されているとみなされるため、HP Device Management Gateway の状態を手動で設定する必要があります。

9 レポートの管理


レポート テンプレートの追加

レポート テンプレートを追加するには、以下の操作を行います。


1. HP Device Management Console のメニュー バーで、[Tools] (ツール) → [Report Management] (レポートの管理) の順に選択して、[Report Management] ウィンドウを表示します。
2. [Report Types] (レポートの種類) 一覧から 1 つのレポートの種類を選択し、[Add] (追加) ボタンをクリックします。[Set New Report Template Name] (新しいレポート テンプレート名の設定) ダイアログ ボックスが表示され、レポート テンプレート名の入力を求められます。
3. [OK] をクリックして [Edit Report Template] (レポート テンプレートの編集) ウィンドウを開きます。[Edit Criteria] (条件の編集) フィールドで、[...] ボタンをクリックして、[Choose Criteria Key] (条件キーの選択) ウィンドウを開きます。[Candidate Criteria Key List] (条件キーの候補一覧) で条件キーを選択します。

選択したら、[OK] をクリックして [Edit Report Template] ウィンドウに戻ります。

4. [Edit Criteria] フィールドの 2 つのドロップダウン リストで、条件を選択または入力します。
5. [Add] をクリックして条件を [Criteria List] (条件の一覧) に追加するか、既存の条件を選択してから [Edit] (編集) をクリックして制限付きの条件を更新します。
6. 各条件の演算子と値を定義します。

 **注記：** [Report Template] (レポート テンプレート) には複数の条件を含めることができ、各条件には [Satisfy All Criteria] (すべての条件を満たす) または [Satisfy Any Criteria] (どれかの条件を満たす) という 2 種類の関係のどちらかを設定できます。したがって、そのどちらかを選択してレポートを作成できます。

7. [Generate Reports] (レポートの作成) をクリックして現在の条件によるレポートを作成するか、[Save] (保存) をクリックしてこれらの条件を指定したテンプレートに保存します。


 **注記：** 変更した条件は、レポートの作成後にテンプレートに保存されません。変更した条件をテンプレートに保存するには、[Save] ボタンをクリックする必要があります。

レポート プラグイン ファイルのインポート

レポート プラグイン ファイルをインポートするには、以下の操作を行います。

1. [Report Management] (レポートの管理) ウィンドウで [Import] (インポート) をクリックし、プラグインファイル (*.jar) を選択します。
2. [Import Plug-in File] (プラグイン ファイルのインポート) をクリックしてファイルをインポートし、[Report Management] ウィンドウに戻ります。新しいレポートの種類が [Report Types] (レポートの種類) 一覧に表示されます。

レポートの種類を選択し、[Delete] (削除) ボタンをクリックすると、そのレポートの種類を一覧から削除できます。接続の削除を確認するよう求めるメッセージが表示されます。

 **注記：** インポートしたレポートの種類は、そのレポートの種類に属するテンプレートが存在しない場合にのみ削除できます。

レポート テンプレートを使用したレポートの作成

レポート テンプレートを使用してレポートを作成するには、以下の操作を行います。

1. **[Report Management]**（レポートの管理）ウィンドウで、**[Report Types]**（レポートの種類）一覧からレポートの種類を選択すると、選択した種類に属するすべてのレポート テンプレートが **[Report Templates]**（レポート テンプレート）一覧に表示されます。
2. 一覧からテンプレートを選択して **[Edit]**（編集）をクリックするか、テンプレートをダブルクリックして、テンプレートの内容を表示します。
3. **[Generate Report]**（レポートの作成）をクリックして、レポートをプレビューします。

レポートの生成

HP Device Manager（HPDM）では、デバイスとそれに送信したタスクについての情報を印刷できます。利用できるレポートは6種類あります。**ゲートウェイ情報**、**デバイス情報**、**デバイス タスク レポート**、**タスク レポート**、**タスク状態レポート**、および**タスク状態ログ レポート**です。

HP Device Management Gateway レポート

このレポートでは、選択した HP Device Management Gateway の基本資産情報が一覧表示されます。

HP Device Management Gateway レポートを作成するには、以下の操作を行います。

1. レポートを作成する HP Device Management Gateway システムを選択します。
2. 選択した項目を右クリックし、**[Print Device Information ...]**（デバイス情報の印刷...）を選択します。

デバイス情報レポート

このレポートでは、現在選択しているデバイスの基本資産情報と、最後に認識されたオンライン状態が一覧表示されます。

デバイス情報レポートを作成するには、以下の操作を行います。

1. レポートを作成するデバイス システムを選択します。
2. HP Device Management Console のメニューから **[File]**（ファイル）→ **[Print Device Information]**（デバイス情報の印刷）の順に選択します。

デバイス タスク レポート

このレポートは、1つのデバイスが選択されている場合のみ利用できます。デバイスにこれまで送信された各タスクとそのステータス、および関連するタスク ログが一覧表示されます。削除されたタスクは含まれません。

すべての管理者が作成したタスクを表示するか、または自分が作成したタスクだけを表示するか問われます。また、レポートを特定の期間に絞り込むこともできます。

デバイス タスク レポートを作成するには、以下の操作を行います。

1. レポートを作成するデバイス システムを選択します。
2. HP Device Management Console のメニューから[File]（ファイル）→[Print Device Task Report]（デバイス タスク レポートの印刷）の順に選択します。
3. [Device Task Report]（デバイス タスク レポート）ダイアログで適切なオプションを選択し、[Next >]（次へ>）をクリックします。

タスク レポート

このレポートでは、削除されていないすべてのタスクの説明とステータスが一覧表示されます。

タスク レポートを作成するには、以下の操作を行います。

- ▲ [File]（ファイル）メニューから[Print Task Report ...]（タスク レポートの印刷...）を選択します。

タスク状態レポート

このレポートでは、タスクの状態に関する情報が一覧表示されます。

タスク状態レポートを作成するには、以下の操作を行います。

- ▲ [Device Task View]（デバイスのタスクの表示）ダイアログでタスクを選択し、右クリックして[Print Preview]（印刷プレビュー）→[Status ...]（状態...）の順に選択します。

タスク ログ レポート


このレポートでは、タスクの状態ログに関する情報が一覧表示されます。

タスク状態ログ レポートを作成するには、以下の操作を行います。

- ▲ [Device Task View]（デバイスのタスクの表示）ダイアログでタスクを選択し、右クリックして[Print Preview]（印刷プレビュー）→[Log ...]（ログ...）の順に選択します。


10 Status Walker（状態ウォーカー）

HP Device Manager（HPDM）は、デバイスのパフォーマンスを監視し、記録する2つの統合ツールを備えています。**[Status Walker]**（状態ウォーカー）および**[Status Snapshot]**（状態スナップショット）です。

 **注記：** Status Walker は推奨されず、HP によってサポートされなくなりました。それでも、ユーザーが使用できるツールとして提供されています。

Status Walker（状態ウォーカー）

[Status Walker]（状態ウォーカー）ツールは、使用可能なすべての IP の一覧を作成し、それらの IP へのウォーキングを実行します。IP の状態情報を取得して表示します。この状態レポートはリアルタイムで作成されます。情報は HP Device Management Server 上に配置されたデータベースに保存されます。

 **注記：** **[Status Walker]**（状態ウォーカー）オプションは Windows ベースの HP Device Management Gateway のみで使用できます。

Status Walker（状態ウォーカー）の作成

1. HP Device Management Console のメニューバーから**[Tools]**（ツール）メニューを表示し、**[Status Walker]**を選択します。**[Status Walker]**ダイアログが表示されます。
2. **[Add]**（追加）をクリックして新しいウォーキング スケジュールを作成するか、**[Edit]**（編集）をクリックして既存のウォーキング スケジュールを変更します。**[Schedule Editor]**（スケジュールエディター）ダイアログ ボックスが表示されます。
3. 使用するスコープの名前を**[Walk the Scope]**（スコープのウォーキング）ドロップダウンメニューで選択するか、**[Edit]**を選択して新しいスコープを定義します。
[Edit]を選択すると、スコープの追加、編集、または削除ができる**[Scope Management]**（スコープの管理）ダイアログ ボックスが表示されます。
4. **[Add]**をクリックして、新しいスコープの名前を入力します。
[OK]をクリックして**[Scope Editor]**（スコープ エディター）ダイアログ ボックスを表示します。
[Current Item]（現在の項目）のフィールドで IP アドレスの範囲を指定し、**[Add]**をクリックしてその範囲を左側の一覧に追加します。スコープの定義が完了したら、**[OK]**をクリックします。
[Scope Management]ダイアログ ボックスで**[Close]**（閉じる）をクリックして、**[Schedule Editor]**に戻ります。定義したスコープが**[Walk the scope]**フィールドの一覧に表示され、選択できるようになります。
5. 使用する**[Gateway]**（ゲートウェイ）を選択します。
6. **[Schedule]**（スケジュール）のオプションを使用して、タスクの時刻と頻度を指定します。
7. **[OK]**をクリックします。


スケジュール設定したウォーキング タスクの結果が、**[Status Walker]**ダイアログ ボックスの下部にある**[Walking Tasks]**（ウォーキング タスク）枠に表示されます。

[Finished] (完了) のウォーキング タスクを選択して [View] (表示) ボタンをクリックすると、検出されたデバイスの状態が表示されます。

Status Walker (状態ウォーカー) の設定

必要に応じて、[Status Walker] (状態ウォーカー) を次のように設定できます。

1. HP Device Management Console のメニュー バーで、[Tools] (ツール) → [Configuration] (設定) の順に選択して、[Configuration Management] (設定の管理) ウィンドウを開きます。
2. 左側のツリー枠で、[Status Walker Configuration] (状態ウォーカー設定) 項目を選択します。

 **注記:** オプション フィールド内をクリックすると、各オプションの簡単な説明を表示できます。

3. [Walking Group Size] (ウォーキング グループのサイズ) の値を入力します。
4. [Walking Timeout] (ウォーキングのタイムアウト) の値を定義します。
5. [Apply] (適用) をクリックして設定を保存します。
6. [OK] をクリックします。

Status Snapshot (状態スナップショット)

Status Snapshot (状態スナップショット) ツールは、ネットワークのスナップショットを取得します。つまり、デバイスの状態のレポートを作成し、このツールを開いたときに表示されるように HP Device Management Server 上に保存します。このツールはリアルタイムでは機能しません。[Status Snapshot] の設定により、管理者はウォーキングのスケジュールと頻度を設定できます。


1. HP Device Management Console のメニュー バーから [Tools] (ツール) メニューを表示し、[Status Snapshot] を選択します。[Status Snapshot] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. [Add] (追加) をクリックして新しい Status Snapshot のスケジュールを作成するか、[Edit] (編集) をクリックして既存の Status Snapshot のスケジュールを変更します。[Schedule Editor] (スケジュール エディター) ダイアログ ボックスが表示されます。
3. Status Snapshot タスクの [Frequency] (頻度) と [Start Time] (開始時刻) を指定して、タスクのスケジュールを設定します。
4. [OK] をクリックします。
5. [Close] (閉じる) をクリックします。

スケジュール設定した Status Snapshot タスクの結果が、[Status Snapshot] ダイアログ ボックスの下部にある [Status Snapshot Tasks] (状態スナップショット タスク) 枠に表示されます。

[Finished] (完了) Status Snapshot タスクを選択して [View] (表示) ボタンをクリックすると、検出されたデバイスの情報が表示されます。

11 HP FTP Software Component Browser (HP FTP ソフトウェア コンポーネント ブラウザー)

[HP FTP Software Component Browser] (HP FTP ソフトウェア コンポーネント ブラウザー) を使用すると、HP のパブリック FTP サイトにあるソフトウェア コンポーネントを利用するプロセスを自動化できます。

 **重要:** この機能を使用するには、インターネットへのアクセスが必要です。HP Device Management Console またはマスター リポジトリ コントローラーを実行しているシステムがインターネットに直接アクセスできない場合は、まずプロキシ設定を構成する必要があります。詳しくは、[81 ページの HP FTP プロキシ設定の構成](#)を参照してください。


[HP FTP Software Component Browser] では、コンポーネントをダウンロードすることで、タスク テンプレートを生成できます。以下の種類のコンポーネントを利用できます。

- オペレーティング システムのイメージ: [_Deploy Image] テンプレートを生成します
- アプリケーション: [_File and Registry] テンプレートを生成します

タスク テンプレートの生成


[HP FTP Software Component Browser] を使用してタスク テンプレートを生成するには、以下の操作を行います。

1. HP Device Management Console を起動し、メニューから、[Template] (テンプレート) → [Import] (インポート) → [HP FTP Software Component Browser] の順に選択します。
2. このダイアログで、HP FTP サーバーからイメージおよびアプリケーション コンポーネントの情報を取得します。[Search] (検索) 機能を使用するとコンポーネントを絞り込むことができます。項目を 1 つ選択し、[Generate Templates] (テンプレートの生成) ボタンをクリックします。


 **注記:** HP Device Management Console またはマスター リポジトリ コントローラーから HP FTP サイトに直接アクセスできない場合は、[Proxy Settings] (プロキシ設定) リンクをクリックしてプロキシ設定を指定するか、[メイン メニュー] → [Tools] (ツール) → [Configurations] (設定) の順に選択します。

設定すると、データベースにプロキシ設定が保存されます。すべてのコンソールとマスター リポジトリ コントローラーが HP FTP サーバーへの接続時に同じプロキシ設定を使用します。

3. [Package Description Editor] (パッケージの説明エディター) ダイアログに、アプリケーションまたはイメージ コンポーネントについての初期設定の情報が表示されます。初期設定の情報を使用するか情報を変更してから、[Generate] (生成する) ボタンをクリックします。

 **注記:** [Thin Client Models] (Thin Client モデル) テキスト フィールドをクリックすると、Thin Client モデルを選択できるダイアログが表示されます。この値はアプリケーションおよびイメージの展開に影響します。

4. テンプレートを生成する OS を選択して、[OK]をクリックします。指定した OS にテンプレートが生成されます。

 **注記：** 複数の OS を選択した場合、各 OS のタブパネルに 1 つずつテンプレートが生成されません。


5. タスク パネルの[Task Templates]（タスク テンプレート）タブにテンプレートが表示されます。テンプレートの状態は[Transferring]（転送中）です。HP FTP サーバーからのコンポーネントはバックグラウンドで転送され、マスター リポジトリに保存されます。マスター リポジトリではファイルをテンプレートのペイロードとして保存します。転送が完了するまでテンプレートは使用できません。
6. 転送が正常に完了すると、テンプレートが有効になります。これで、生成されたテンプレートを指定のデバイスに送信できます。

HP FTP プロキシ設定の構成

HP Device Management Console またはマスター リポジトリ コントローラーを実行しているシステムがインターネットに直接アクセスできない場合は、[HP FTP Software Component Browser]を使用するためにプロキシ設定を構成する必要があります。

HP FTP プロキシ設定を構成するには、以下の操作を行います。

1. HPDM Console のメニューから、[Tools]（ツール）→[Configuration]（設定）の順に選択します。
2. [Configuration Management]（設定の管理）ウィンドウで、[HP FTP Proxy]（HP FTP プロキシ）ページを選択します。
3. 設定可能な値は以下のとおりです。
 - [Use automatic configuration script]（自動設定スクリプトを使用する）：このオプションを使用すると、プロキシ設定自動構成ファイルへのパスを指定できます。
 - [Use manual configuration]（手動設定を使用する）：このオプションを使用すると、プロキシ設定を手動で指定できます。
4. プロキシ設定をテストする場合は、[Test]（テスト）をクリックします。
5. [OK]をクリックします。

 **注記：** HP Device Manager (HPDM) は、HTTP/1.1（接続方式）および SOCK5 のみをサポートします。

12 HPDM Server Backup and Restore Tool (HPDM Server バックアップおよび復元 ツール)

[HPDM Server Backup and Restore Tool] (HPDM Server バックアップおよび復元ツール) を使用すると、以下の項目を含む HP Device Management Server のファイルとデータベースをバックアップおよび復元できます。


- データベースのスキーマおよびデータ
- [HPDM Installation Root]¥Server¥task フォルダ
- [HPDM Installation Root]¥Server¥template フォルダ
- [HPDM Installation Root]¥Server¥template_plugins フォルダ

[HPDM Server Backup and Restore Tool]を使用する場合は、以下の点に注意してください。

- このツールにはデータベースの所有者権限のあるユーザーアカウントの認証情報が必要です。
- HP Device Management Server のバージョンが 4.5 以降である必要があります。

[HPDM Server Backup and Restore Tool]を開始するには、以下の操作を行います。

- ▲ [スタート]→[すべてのプログラム]→[Hewlett-Packard]→[HPDM]→[HPDM Server Backup and Restore Tool]の順に選択します。

 **ヒント：** Windows Server 2012 では、スタート画面の[HPDM Server Backup and Restore Tool]タイルをクリックします。

以下の表では、[HPDM Server Backup and Restore Tool]で使用できるフィールドについて説明します。

表 12-1 [HPDM Server Backup and Restore Tool]のフィールド

フィールド	説明
[Database Type] (データベースの種類)	データベースの種類として PostgreSQL と MS SQL Server のどちらかが表示されます (編集はできません)
[Host] (ホスト)	HPDM サーバーのホスト名または IP アドレスが表示されます (編集はできません)
[Port] (ポート)	データベースのリスニング ポートが表示されます (編集はできません)
[Database] (データベース)	データベースの名前が表示されます (編集はできません)
[Authentication] (認証)	以下のようにデータベースの種類に応じて認証の種類を選択できます <ul style="list-style-type: none">● PostgreSQL : [Database Authentication] (データベース認証)● MS SQL Server : [Database Authentication]または[Windows Authentication] (Windows 認証)
[Username] (ユーザー名)	データベースの所有者権限のあるアカウントのユーザー名を入力できます


表 12-1 [HPDM Server Backup and Restore Tool]のフィールド (続き)

フィールド	説明
[Password] (パスワード)	データベースの所有者権限のあるアカウントのパスワードを入力できます
[Backup Folder] (バックアップフォルダー)	既存のフォルダーをバックアップの保存先として指定できます
注記: バックアップまたは復元時には、右側の[Messages] (メッセージ) パネルに進捗状況と結果が表示されます。	


HP Device Management Server のバックアップ

HP Device Management Server のバックアップを作成するには、以下の操作を行います。


1. [HPDM Server Backup and Restore Tool] (HPDM Server バックアップおよび復元ツール) で、認証の種類を選択し、データベースの所有者権限のあるユーザーアカウントの認証情報を入力します。
2. 既存のフォルダーをバックアップの保存先として指定します。

 **ヒント:** バックアップのたびに、すべてのバックアップ内容が収められた新しいサブフォルダーが作成されます。このため、同じ親フォルダーを使用してすべてのバックアップを保存できます。

3. [Back up] (バックアップ) ボタンをクリックします。

 **注記:** 存在しないフォルダーや、既存のバックアップ (DMBackup20121107145359 など) に対応するサブフォルダーが[Backup Folder]の参照先に指定されていると、[Back up]ボタンが無効になります。

4. HP Device Management Server の停止を求められます。これを行うにはシステム トレイの HP Device Management Server アイコンを右クリックし、[Stop Device Management Server] (HPDM サーバーの停止) を選択します。HP Device Management Server が停止したら、[Yes] (はい) をクリックして続行します。

 **注意:** HP Device Management Server が実際に停止されなくとも、このメッセージが再び表示されることはありません。HP Device Management Server が停止していない場合、処理が継続して正常な完了を示すメッセージが表示されたとしても、このツールによるバックアップが正常に行われていない可能性があります。


5. バックアップが完了したら、HP Device Management Server を再起動します。これを行うには、システム トレイの HP Device Management Server アイコンを右クリックし、[Start Device Management Server] (HPDM サーバーの開始) を選択します。

HP Device Management Server の復元


HP Device Management Server を復元するには、以下の操作を行います。

1. [HPDM Server Backup and Restore Tool] (HPDM Server バックアップおよび復元ツール) で、認証の種類を選択し、データベースの所有者権限のあるユーザーアカウントの認証情報を入力します。
2. 既存のバックアップ用フォルダー (DMBackup20121107145359 など) を指定します。


3. **[復元]**ボタンをクリックします。


 **注記：** 既存のバックアップが[Backup Folder]の参照先に指定されていない場合、**[復元]**ボタンが無効になります。

4. HP Device Management Server の停止を求められます。これを行うにはシステムトレイの HP Device Management Server アイコンを右クリックし、**[Stop Device Management Server]** (HPDM サーバーの停止) を選択します。HP Device Management Server が停止したら、**[Yes]** (はい) をクリックして続行します。

 **注意：** HP Device Management Server が実際に停止されなくとも、このメッセージが再び表示されることはありません。HP Device Management Server が停止していない場合、処理が続行して正常な完了を示すメッセージが表示されたとしても、このツールによる復元が正常に行われていない可能性があります。

5. 復元が完了したら、HP Device Management Server を再起動します。これを行うには、システムトレイの HP Device Management Server アイコンを右クリックし、**[Start Device Management Server]** (HPDM サーバーの開始) を選択します。

 **ヒント：** 復元が失敗して処理中に停止した場合、HP Device Management Server は再起動しません。この場合、同じバックアップまたは異なるバックアップからもう一度復元してください。

 **注記：** バックアップしたデータベースは、同じ種類のデータベースにのみ復元できます。たとえば、SQL Server データベースをバックアップした場合、そのバックアップは SQL Server にのみ復元でき、他の種類のデータベースには復元できません。

13 HPDM Port Check Tool（HPDM のポート チェック ツール）

[HPDM Port Check Tool]（HPDM のポート チェック ツール）を使用すると、ネットワークとサービスの接続をチェックしたり、HP Device Manager（HPDM）のさまざまなコンポーネント間でファイアウォールにより許可されているポートをチェックしたりできます。このツールは以下のパスにあります。

```
<HPDM_Installation_Path>\Console\bin\HPDMPortCheck\
```


このツール（フォルダー全体）を接続イニシエーター（Thin Client）にコピーして実行し、そのツールを使用して対象のコンポーネントに接続します。コマンドライン構文は以下のとおりです。

```
HPDMPortCheck <target> [flags]
```

<target>のシステムがチェックされます。IP アドレスまたはホスト名を指定します。

[flags]については、以下の表で説明します。

フラグ	説明
-a	HP Device Management Agent のポート（40001）をチェックします
-g	HP Device Management Gateway のポート（40003）をチェックします
-s	HP Device Management Server のポート（1099、40002、40005）をチェックします
-m	マスター リポジトリ コントローラーのポート（40012）をチェックします
-n	HPDM VNC SSL プロキシのポート（40004）をチェックします

 **注記：** フラグを指定しない場合は、すべてのポートがチェックされます。

以下の例を参照してください。

HPDM Agent から HPDM Gateway に到達可能であるかどうかを確認するには、以下のコマンドを使用します。

```
HPDMPortCheck.exe <Gateway IP address or hostname> -g
```

IP アドレスが 192.168.1.100 のシステム上で HPDM Agent のポートを確認するには、以下のコマンドを使用します。

```
HPDMPortCheck 192.168.1.100 -a
```

ホスト名が「CorpServer」のシステム上で HPDM Gateway、HPDM Server、およびマスター リポジトリ コントローラーのポートを確認するには、以下のコマンドを使用します。

```
HPDMPortCheck CorpServer -gsm
```

特定のポートについて詳しくは、[93 ページの「ポートリファレンス」](#)を参照してください。

14 HP Device Management Agent ポーリング およびエラー ログ

この章では、HP Device Manager (HPDM) の HP Device Management Agent ポーリングおよびエラーログ機能について説明します。

HP Device Management Agent ポーリング

HP Device Management Gateway は、定期的に HP Device Management Agent と通信して、HP Device Management Server に対してデバイスの状態（オン/オフ）を更新するように設定できます。初期設定の間隔は 0 です。つまり、ネットのトラフィックを削減するためにこのプロセスを行わないということです。設定の GUI では、テキストの上にマウス カーソルをかざすと、2 つのパラメーターの詳細な説明が表示されます。

次のどちらかの方法を使用して、HP Device Management Agent ポーリングの設定を変更できます。

- HP Device Management Gateway の設定ダイアログを使用します。このダイアログには、HP Device Management Gateway のトレイ アイコンを右クリックするとアクセスできます。
- HP Device Management Console から HP Device Management Gateway の設定タスクを送信します。[HPDM Gateways] (HPDM ゲートウェイ) タブで HP Device Management Gateway を選択して、[Configure] (設定) をクリックするか、HP Device Management Gateway を右クリックして [Configure HPDM Gateway] (HPDM ゲートウェイの設定) を選択します。

エラー ログ

HP Device Manager (HPDM) には、個別のコンポーネントごとにエラー ログが実装されています。エラーはレベルに応じて記録されます。コンポーネントのログ レベルを設定すると、そのレベル以上のエラーが記録されます。

HP Device Management Agent ログ

表 14-1 HP Device Management Agent ログ

レベル	説明
[INFORMATION] (情報)	実行情報のログ。エラーは含まれません
[WARNING] (警告)	低レベルのエラー
[ERROR] (エラー)	重大なエラー

HP Device Management Agent のログ レベルを変更するには、デバイス上の [Configure HPDM Agent] (HPDM エージェントの設定) ダイアログでログ レベルを設定するか、対象のデバイスに HP Device Management Agent の設定タスクを送信します。

HP Device Management Gateway ログ

表 14-2 HP Device Management Gateway ログ

レベル	説明
[TRACE] (トレース)	HP Device Management Agent の数など、一部のトレース ログ
[DEBUG] (デバッグ)	内部デバッグ ログ
[INFO] (情報)	レポートの内容の一部を記録します
[WARN] (警告)	低レベルのエラー。たとえば、おそらく HP Device Management Server の準備ができていないために、HP Device Management Gateway が現時点で HP Device Management Console/HP Device Management Server との接続に失敗したが、後に再試行する、というものです
[ERROR] (エラー)	重大なエラー
[FATAL] (致命的)	高レベルのエラー。通常、このエラーによって HP Device Management Gateway は正常に動作できなくなります

HP Device Management Gateway のログ レベルを変更するには、次のどちらかの方法を使用します。

- HP Device Management Gateway の設定ダイアログを使用します。このダイアログには、HP Device Management Gateway のトレイ アイコンを右クリックするとアクセスできます。
- HP Device Management Console から HP Device Management Gateway の設定タスクを送信します。[HPDM Gateways] (HPDM ゲートウェイ) タブで HP Device Management Gateway を選択して、[Configure] (設定) をクリックするか、HP Device Management Gateway を右クリックして [Configure HPDM Gateway] (HPDM ゲートウェイの設定) を選択します。

HP Device Management Server および HP Device Management Console ログ

表 14-3 HP Device Management Server および HP Device Management Console ログ

レベル	説明
[DEBUG] (デバッグ)	低レベルのデバッグ情報
[INFO] (情報)	実行情報のログ。エラーは含まれません
[WARN] (警告)	警告をとまなうログ。何らかの予想外の事態が発生したことを示します
[FATAL] (致命的)	致命的なエラー


HPDM Server のログ レベルを変更するには、以下の操作を行います。

- ▲ HP Device Manager (HPDM) のインストール フォルダにある `/Server/conf/server.conf` ファイルで、`hpdm.log.level` の値を変更します。

HPDM Server のログ ファイルは `/Server/logs/` にあります。

HPDM Console のログ レベルを変更するには、以下の操作を行います。

- ▲ %programdata%/Hewlett-Packard/HP Device Managerにある/Console/conf/server.conf ファイルで、hpdn.log.level の値を変更します。

 **ヒント:** %programdata% フォルダーにアクセスするには、Windows のユーザー アカウント 制御 (UAC) ポリシーで許可される必要があります。このフォルダーは、オペレーティング システムの種類によって、C: ProgramData または C: Documents、および Settings All Users Application Data のことを指します。

HPDM Console のログ ファイルは/Console/logs/にあります。

マスター リポジトリ コントローラー ログ

レベル	説明
[INFORMATION] (情報)	実行情報のログ。エラーは含まれません
[WARNING] (警告)	低レベルのエラー
[ERROR] (エラー)	重大なエラー

マスター リポジトリ コントローラーのログ レベルを変更するには、以下の操作を行います。

- ▲ HP Device Manager (HPDM) のインストール フォルダーにある/MasterRepositoryController/Controller.conf ファイルで、LogLevel の値を変更します。

マスター リポジトリ コントローラーのログ ファイルは/MasterRepositoryController/log/にあります。

A テンプレート リファレンス

テンプレートは以下のカテゴリに分類されます。

- [\[File and Registry\]](#) (ファイルおよびレジストリ)
- [\[Agent\]](#) (エージェント)
- [\[Connections\]](#) (接続)
- [\[Imaging\]](#) (イメージ)
- [\[Operations\]](#) (操作)
- [\[Settings\]](#) (設定)
- [\[Template Sequence\]](#) (テンプレート シーケンス)

[File and Registry] (ファイルおよびレジストリ)

表 A-1 [File and Registry]テンプレート

テンプレート	説明
_File and Registry	このテンプレートでは、以下のサブテンプレートを使用してシーケンスを作成できます <ul style="list-style-type: none">• レジストリ キーの設定• デバイスからのファイルのキャプチャ• デバイスへのファイルの展開• デバイスでのコマンドの実行• デバイスでのファイルの削除• シーケンスの一時停止• デバイス上のプログラム レコードの追加または削除• デバイスでのスクリプトの実行
_Get Registry	このテンプレートでは、デバイスのレジストリから 1 つまたは複数のキーをアップロードできます

[Agent] (エージェント)

表 A-2 [HPDM Agent]テンプレート

テンプレート	説明
_Configure Agent	このテンプレートを使用すると、対象のデバイスで HP Device Management Agent を設定できます <p>注記: [Backup Gateway] (バックアップ ゲートウェイ) フィールドに「cur-gateway, back-gateway」と入力して現在の HP Device Management Gateway を設定することはできなくなりました。</p>

表 A-2 [HPDM Agent]テンプレート (続き)

テンプレート	説明
_Configure Task Deferment	このテンプレートを使用すると、対象のデバイスでタスクの延期を設定できます
_Update Agent	このテンプレートでは、対象のデバイス上の HP Device Management Agent を、リポジトリに保存されているバージョンに更新します。対象のデバイスにタスクが送信される前に、マップされたリポジトリにペイロードが自動的に同期されます

[Connections] (接続)

表 A-3 [Connections]テンプレート

テンプレート	説明
_Pull Connection Configuration	このテンプレートでは、指定された接続設定をデバイスから抽出し、これらの接続を他のデバイスにプッシュするために新しいテンプレートを作成します
_Capture Connections	このテンプレートでは、PCoIP Zero Client から接続をキャプチャします
_Deploy Connections	このテンプレートでは、PCoIP Zero Client に接続を展開します

[Imaging] (イメージ)

表 A-4 [Imaging]テンプレート

テンプレート	説明
_Capture Image	このテンプレートでは、対象のデバイスからイメージをキャプチャし、マスター リポジトリにアップロードします。また、他のデバイスにイメージをインストールするためにイメージ展開用テンプレートを新規作成します。このテンプレートは 1 度に 1 つのデバイスにのみ送信できます
_PXE Capture	このテンプレートでは、PXE サービスを使用してデバイスからイメージをキャプチャし、マスター リポジトリにアップロードします。また、他のデバイスにイメージをインストールするために PXE 展開用テンプレートを新規作成します。このテンプレートは 1 度に 1 つのデバイスにのみ送信できます 注記： このテンプレートは、HP Smart Zero Core を実行している Thin Client には使用できません
_Update Firmware	このテンプレートでは、PCoIP Zero Client のファームウェアをアップデートします。このテンプレートを生成するには、ファームウェアのファイルをインポートする必要があります

[Operations] (操作)

表 A-5 [Operations]テンプレート

テンプレート	説明
_Factory Reset	このテンプレートでは、対象のデバイスを元の設定にリセットします。この結果は、デバイスのオペレーティング システムによって異なります。 [Current Profile] (現在のプロファイル) へのリセットは、HP ThinPro オペレーティング システムに固有のオプションです

表 A-5 [Operations]テンプレート (続き)

テンプレート	説明
_Get Asset Information	このテンプレートでは、対象のデバイスから完全な資産レポートを抽出します
_Reboot Device	このテンプレートでは、対象のデバイスを再起動します。実際にシャットダウンが実行される前に、デバイスの画面には 15 秒間、警告メッセージが表示されます
_Reverse Shadow Device	このテンプレートでは、対象のデバイス上の HP Device Management Agent を、HP Device Management Console にバンドルされている VNC Viewer に SSL トンネルによって接続させます。このテンプレートは HPCE Thin Client には使用できません
_Send Message	このテンプレートでは、対象のデバイスにカスタマイズしたメッセージを送信します。このテンプレートは HP ThinPro には使用できません
_Shadow Device	このテンプレートでは、HP Device Management Console にバンドルされている VNC Viewer を、対象のデバイス上の VNC サービスに SSL トンネルによって接続させます
_Shutdown Device	このテンプレートでは、対象のデバイスをシャットダウンします。実際にシャットダウンが実行される前に、デバイスの画面には 15 秒間、警告メッセージが表示されます
_Start Resource Monitor	<p>このテンプレートでは、対象のデバイスの[Resource Monitor]（リソース モニター）を起動します。このテンプレートは一度に 1 つのデバイスにのみ送信でき、HP ThinPro の Thin Client では使用できません</p> <p>このテンプレートがデバイスに正常に送信されると、[Resource Monitor]ダイアログが表示されます。[Process]（プロセス）、[Performance]（パフォーマンス）、[Network]（ネットワーク）、および[Disk]（ディスク）についての情報を監視できます</p>
_Wake Up Device	このテンプレートでは、対象のデバイスに関連付けられている HP Device Management Gateway がウェイク オン LAN メッセージをデバイスに送信するようにします。サブネットに少なくとも 1 つのオンラインの HP Device Management Agent がある場合、ウェイク デバイスは、HP Device Management Gateway と同じサブネット内にあるデバイスに対してだけでなく、HP Device Management Gateway と同じサブネット内にはないデバイスに対しても有効になります。サブネットに少なくとも 1 つのオンラインの HP Device Management Agent がある場合、NAT の背後のデバイスを起動できます。タイムアウトの間、HP Device Management Gateway は未完了の部分で失敗としてレポートします

[Settings]（設定）

表 A-6 [Settings]テンプレート

テンプレート	説明
_Apply Settings	このテンプレートでは、カスタム設定セットを作成して 1 つまたは複数のデバイスに展開できます
_Clone Settings	このテンプレートでは、選択したカスタム設定を 1 つのデバイスからコピーして、それらを他のデバイスに展開できます
_Deploy Profile	このテンプレートは、プロファイルを設定して HP Smart Zero Core を実行している Thin Client に展開するために使用されます
_Enroll Certificate With SCEP	このテンプレートでは、標準的な Thin Client で SCEP を使用して証明書を登録できます
_Hostname and IP	このテンプレートでは、1 台または複数のデバイスのホスト名および IP アドレスを変更できます。以下の 2 つのオプションがあります

表 A-6 [Settings]テンプレート (続き)

テンプレート	説明
	<ul style="list-style-type: none"> • [Modify specified devices] (指定したデバイスの変更): 1 つまたは複数の対象のデバイスにドラッグした場合にのみ機能します • [Set with pattern] (パターンによる設定): ホスト名および IP アドレスを同じパターンで変更します
_Set Domain	[_Set Domain]テンプレートを使用すると、デバイスをドメインまたはワークグループに参加させることができます
_Set Password	<p>このテンプレートでは、1 台または複数のデバイスで 1 人以上のユーザーのパスワードを設定できます。パスワードを非表示にするには[Hide Password] (パスワードを表示しない) チェック ボックスにチェックを入れ、パスワードを表示するにはこのチェック ボックスのチェックを外します</p> <p>注記: このテンプレートは、HP Smart Zero Core を実行している Thin Client には使用できません</p>
_Take TPM Ownership	このテンプレートでは、TPM が有効になり、選択したデバイスの TPM 所有権を取得するための TPM 所有者パスワードおよび BIOS セットアップ パスワードを設定できます
_Write Filter Settings	このテンプレートでは、デバイスの書き込みフィルター設定を変更できます

[Template Sequence] (テンプレート シーケンス)

表 A-7 [Template Sequence]テンプレート

テンプレート	説明
_Template Sequence	テンプレート シーケンスは、順序と条件を指定して一連のテンプレートを組み合わせ、1 つのタスクとして実行するために使用します

B ポート リファレンス

以下のセクションでは、HP Device Manager（HPDM）で使用されるポートの一覧を示します。

- [HP Device Management Console のポート](#)
- [HP Device Management Server のポート](#)
- [HP Device Management Gateway のポート](#)
- [HP Device Management Agent のポート](#)
- [リポジトリのポート](#)

HP Device Management Console のポート

表 B-1 HP Device Management Console のポート（受信）

受信側ポート	Sender	Receiver	プロトコル	目的
5500	SSL VNC プロキシ (HPDM コンソールにバンドルされている)	VNC Viewer (HPDM コンソールにバンドルされている)	TCP (ルーブリック)	リッスン モードの VNC Viewer (リバース VNC)
5900	VNC Viewer (HPDM コンソールにバンドルされている)	SSL VNC プロキシ (HPDM コンソールにバンドルされている)	TCP (ルーブリック)	リッスン モードの VNC Viewer (リバース VNC)
40004	SSL VNC プロキシ (HPDM エージェントにバンドルされている)	VNC プロキシ (HPDM コンソールにバンドルされている)	TCP	リッスン モードの SSL VNC プロキシ (リバース VNC)

表 B-2 HP Device Management Console のポート（送信）

受信側ポート	Sender	Receiver	プロトコル	目的
20 & 21	HPDM コンソール	FTP サーバー (他社のソフトウェア)	TCP	FTP 用の初期設定ポート (リポジトリに使用)。ポート 20 はデータ転送用、ポート 21 はコマンド受信用です。FTP ポートは HPDM コンソールで設定できます。FTP サーバーにこの初期設定ポートを使用しない場合は、ファイアウォールを適切に設定してください
22	HPDM コンソール	SFTP サーバー (他社のソフトウェア)	TCP	SFTP 用の初期設定ポート (リポジトリに使用)。SFTP ポートは HPDM コンソールで設定できます。SFTP にこの初期設定ポートを使用しない場合は、ファイアウォールを適切に設定してください
137	HPDM コンソール	NetBIOS 名前サービス	UDP	NetBIOS 名前解決を使用できるようにします

表 B-2 HP Device Management Console のポート（送信）（続き）

受信側ポート	Sender	Receiver	プロトコル	目的
138	HPDM コンソール	NetBIOS データグラム サービス	UDP	NetBIOS データグラムによる送受信を使用できるようにします
139	HPDM コンソール	NetBIOS セッション サービス	TCP	NetBIOS セッション サービスの接続を使用できるようにします
445	HPDM コンソール	Microsoft ディレクトリ サービス	TCP	ファイルおよびプリンターの共有用。名前付きパイプによる Server Message Block の送受信を使用できるようにします
989 & 990	HPDM コンソール	FTP サーバー（他社のソフトウェア）	TCP	FTPS 用の初期設定ポート（リポジトリに使用）。ポート 989 はデータ転送用、ポート 990 はコマンド受信用です。FTPS ポートは HPDM コンソールで設定できません。FTPS サーバーにこの初期設定ポートを使用しない場合は、ファイアウォールを適切に設定してください
1099	HPDM コンソール	HPDM サーバー	TCP	HPDM コンソールが RMI レジストリに照会できるようにします
5500	SSL VNC プロキシ（HPDM コンソールにバンドルされている）	VNC View（HPDM コンソールにバンドルされている）	TCP（ルーブバック）	リッスン モードの VNC Viewer（リバース VNC）
5900	VNC Viewer（HPDM コンソールにバンドルされている）	VNC プロキシ（HPDM コンソールにバンドルされている）	TCP（ルーブバック）	VNC シャドウイング
40002	HPDM コンソール	HPDM サーバー	TCP	HP Device Management Console が RMI によって HP Device Management Server 上のリモートオブジェクトを呼び出せるようにします
40004	SSL VNC プロキシ（HPDM コンソールにバンドルされている）	VNC プロキシ（HPDM エージェントにバンドルされている）	TCP	SSL VNC 接続用ポート

HP Device Management Server のポート

表 B-3 HP Device Management Server のポート（受信）

受信側ポート	Sender	Receiver	プロトコル	目的
1099	HPDM コンソール	HPDM サーバー	TCP	HPDM コンソールが RMI レジストリに照会できるようにします
40002	HPDM コンソール	HPDM サーバー	TCP	HP Device Management Console が RMI によって HP Device Management Server 上のリモートオブジェクトを呼び出せるようにします
40005	HPDM ゲートウェイ	HPDM サーバー	TCP	HP Device Management Gateway が HP Device Management Server にレポートを送信できるようにします

表 B-3 HP Device Management Server のポート（受信）（続き）

受信側ポート	Sender	Receiver	プロトコル	目的
40006	HPDM サーバー	PostgreSQL（HPDM サーバーにバンドルされている）	TCP（ルーブバック）	初期設定のデータベース PostgreSQL リッスン ポート（PostgreSQL を使用する場合にのみ必要）
40009	HPDM エージェント	HPDM サーバー	TCP	HP Device Management Agent が HP Device Management Server にリソース情報（CPU、RAM、ディスク I/O、ネットワーク I/O、プロセスなど）を送信できるようにします。HP Device Management Server は HP Device Management Agent に処理停止コマンドを送信します

表 B-4 HP Device Management Server のポート（送信）

受信側ポート	Sender	Receiver	プロトコル	目的
40000	HPDM サーバー	HPDM ゲートウェイ	UDP	HP Device Management Server が HP Device Management Gateway をポーリングできるようにします
40003	HPDM サーバー	HPDM サーバー	TCP	HP Device Management Server が HP Device Management Gateway にタスクを送信できるようにします
40006	HPDM サーバー	PostgreSQL（HPDM サーバーにバンドルされている）	TCP（ルーブバック）	初期設定のデータベース PostgreSQL リッスン ポート（PostgreSQL を使用する場合にのみ必要）
40012	HPDM サーバー	マスター リポジトリ コントローラー	TCP	マスター リポジトリを管理するために HP Device Management Server がマスター リポジトリ コントローラーと通信できるようにします

HP Device Management Gateway のポート

表 B-5 HP Device Management Gateway のポート（受信）

受信側ポート	Sender	Receiver	プロトコル	目的
67	PXE クライアント（Thin Client 側）	HPDM PXE Server（HPDM ゲートウェイにバンドルされている）	UDP	PXE ブートストラップ
69	PXE クライアント（Thin Client 側）	HPDM PXE Server（HPDM ゲートウェイにバンドルされている）	UDP	TFTP（Trivial File Transfer Protocol）
4011	PXE クライアント（Thin Client 側）	プロキシ DHCP サービス（他社のソフトウェア）	UDP	プロキシ DHCP サービス（ポート 67 が使用できない場合の代替）
40000	HPDM サーバー HPDM エージェント	HPDM ゲートウェイ	UDP	HP Device Management Server および HP Device Management Agent が HP

表 B-5 HP Device Management Gateway のポート（受信）（続き）

受信側ポート	Sender	Receiver	プロトコル	目的
				Device Management Gateway をポーリングできるようにします
40003	HPDM サーバー HPDM エージェント	HPDM ゲートウェイ	TCP	HP Device Management Server が HP Device Management Gateway にタスクを送信できるようにします HP Device Management Agent が HP Device Management Gateway にレポートを送信できるようにします
40008	HPDM ゲートウェイ	HPDM ゲートウェイ コントローラー	TCP	HP Device Management Gateway が HP Device Management Gateway Controller に同じサブネット内で他のゲートウェイが稼動していることを通知できるようにします

表 B-6 HP Device Management Gateway のポート（送信）

受信側ポート	Sender	Receiver	プロトコル	目的
20 & 21	HPDM ゲートウェイ	FTP サーバー（他社のソフトウェア）	TCP	FTP 用の初期設定ポート（リポジトリに使用）。ポート 20 はデータ転送用、ポート 21 はコマンド受信用です。FTP ポートは HPDM コンソールで設定できます。FTP サーバーにこの初期設定ポートを使用しない場合は、ファイアウォールを適切に設定してください
22	HPDM ゲートウェイ	SFTP サーバー（他社のソフトウェア）	TCP	SFTP 用の初期設定ポート（リポジトリに使用）。SFTP ポートは HPDM コンソールで設定できます。SFTP にこの初期設定ポートを使用しない場合は、ファイアウォールを適切に設定してください
68	HPDM PXE サーバー （HPDM ゲートウェイにバンドルされている）	HPDM イメージング Mini Linux ツール（クライアント側）	UDP	PXE ブートストラップ
137	HPDM ゲートウェイ	NetBIOS 名前サービス	UDP	NetBIOS 名前解決を使用できるようにします
138	HPDM ゲートウェイ	NetBIOS データグラムサービス	UDP	NetBIOS データグラムによる送受信を使用できるようにします
139	HPDM ゲートウェイ	NetBIOS セッションサービス	TCP	NetBIOS セッションサービスの接続を使用できるようにします
445	HPDM ゲートウェイ	Microsoft ディレクトリサービス	TCP	ファイルおよびプリンターの共有用。名前付きパイプによる Server Message Block の送受信を使用できるようにします
989 & 990	HPDM ゲートウェイ	FTP サーバー（他社のソフトウェア）	TCP	FTPS 用の初期設定ポート（リポジトリに使用）。ポート 989 はデータ転送用、ポート 990 はコマンド受信用です。FTPS ポートは HPDM コンソールで設定できま

表 B-6 HP Device Management Gateway のポート（送信）（続き）

受信側ポート	Sender	Receiver	プロトコル	目的
				す。FTPS サーバーにこの初期設定ポートを使用しない場合は、ファイアウォールを適切に設定してください
40001	HPDM ゲートウェイ	HPDM エージェント	TCP	HP Device Management Gateway が HP Device Management Agent にタスクを送信できるようにします
40001	HPDM ゲートウェイ	HPDM エージェント	UDP	HP Device Management Agent が HP Device Management Gateway からブロードキャストの応答を受信できるようにします
40005	HPDM ゲートウェイ	HPDM サーバー	TCP	HP Device Management Gateway が HP Device Management Server にレポートを送信できるようにします
40008	HPDM ゲートウェイ	HPDM ゲートウェイ コントローラー	TCP（ルーブバック）	HP Device Management Gateway が HP Device Management Gateway Controller に同じサブネット内で他のゲートウェイが移動していることを通知できるようにします
50000	HPDM ゲートウェイ	PCoIP Zero Client	TCP	HP Device Management Gateway が PCoIP Zero Client にタスクを送信できるようにします

HP Device Management Agent のポート

表 B-7 HP Device Management Agent のポート（受信）

受信側ポート	Sender	Receiver	プロトコル	目的
68	DHCP サーバー	HPDM エージェント	UDP	DHCP オプションに対する応答を受信します
68	HPDM PXE サーバー (HPDM ゲートウェイにバンドルされている)	HPDM イメージング Mini Linux ツール (クライアント側)	UDP	PXE ブートストラップ
5500	Windows プラット フォーム: VNC サーバー (クライアント側)	Windows プラット フォーム: SSL VNC プロキシ (HPDM エージェントにバンドルされている)	TCP (ルーブバック)	リッスン モードの SSL VNC プロキシ (リバース VNC)
5900	SSL VNC プロキシ (HPDM コンソールにバンドルされている)	VNC サーバー (クライアント側)	TCP (ルーブバック)	VNC シャドウイング
40001	HPDM ゲートウェイ	HPDM エージェント	TCP	HP Device Management Gateway が HP Device Management Agent にタスクを送信できるようにします
40001	HPDM ゲートウェイ	HPDM エージェント	UDP	HP Device Management Agent が HP Device Management Gateway からブ

表 B-7 HP Device Management Agent のポート（受信）（続き）

受信側ポート	Sender	Receiver	プロトコル	目的
				ロードキャストの応答を受信できるようにします
40004	SSL VNC プロキシ (HPDM コンソールにバンドルされている)	SSL VNC プロキシ (HPDM エージェントにバンドルされている)	TCP	HP Device Management Agent 側のリスン モードの VNC SSL プロキシ

表 B-8 HP Device Management Agent のポート（送信）

受信側ポート	Sender	Receiver	プロトコル	目的
20 & 21	HPDM エージェント	FTP サーバー（他社のソフトウェア）	TCP	FTP 用の初期設定ポート（リポジトリに使用）。ポート 20 はデータ転送用、ポート 21 はコマンド受信用です。FTP ポートは HPDM コンソールで設定できます。FTP サーバーにこの初期設定ポートを使用しない場合は、ファイアウォールを適切に設定してください
22	HPDM エージェント	SFTP サーバー（他社のソフトウェア）	TCP	SFTP 用の初期設定ポート（リポジトリに使用）。SFTP ポートは HPDM コンソールで設定できます。SFTP にこの初期設定ポートを使用しない場合は、ファイアウォールを適切に設定してください
67	PXE クライアント（クライアント側）	HPDM PXE サーバー (HPDM ゲートウェイにバンドルされている)	UDP	PXE ブートストラップ
67	HPDM エージェント	DHCP サーバー	UDP	HP Device Management Agent が DHCP オプションの要求を送信できるようにします
69	PXE クライアント（クライアント側）	HPDM PXE サーバー (HPDM ゲートウェイにバンドルされている)	UDP	TFTP（Trivial File Transfer Protocol）
137	HPDM エージェント	NetBIOS 名前サービス	UDP	NetBIOS 名前解決を使用できるようにします
138	HPDM エージェント	NetBIOS データグラムサービス	UDP	NetBIOS データグラムによる送受信を使用できるようにします
139	HPDM エージェント	NetBIOS セッションサービス	TCP	NetBIOS セッションサービスの接続を使用できるようにします
445	HPDM エージェント	Microsoft ディレクトリサービス	TCP	ファイルおよびプリンターの共有用。名前付きパイプによる Server Message Block の送受信を使用できるようにします
5500	Windows プラットフォーム: VNC サーバー (クライアント側)	Windows プラットフォーム: SSL VNC プロキシ (HPDM エージェントにバンドルされている)	TCP (ルーブバック)	リスン モードの SSL VNC Viewer（リバース VNC）

表 B-8 HP Device Management Agent のポート（送信）（続き）

受信側ポート	Sender	Receiver	プロトコル	目的
5900	SSL VNC Viewer (HPDM コンソールにバンドルされている)	VNC プロキシ(クライアント側)	TCP (ルーブバック)	VNC シャドウィング
989 & 990	HPDM コンソール	FTP サーバー (他社のソフトウェア)	TCP	FTPS 用の初期設定ポート (リポジトリに使用)。ポート 989 はデータ転送用、ポート 990 はコマンド受信用です。FTPS ポートは HPDM コンソールで設定できます。FTPS サーバーにこの初期設定ポートを使用しない場合は、ファイアウォールを適切に設定してください
4011	PXE クライアント (クライアント側)	プロキシ DHCP サービス (他社のソフトウェア)	UDP	プロキシ DHCP サービス (ポート 67 が使用できない場合の代替)
40000	HPDM エージェント	HPDM ゲートウェイ	UDP	HP Device Management Agent が HP Device Management Gateway をポーリングできるようにします
40003	HPDM エージェント	HPDM ゲートウェイ	TCP	HP Device Management Agent が HP Device Management Gateway にレポートを送信できるようにします
40004	Windows : SSL VNC プロキシ (HPDM エージェントにバンドルされている)、HP ThinPro : X11VNC (プラットフォームにバンドルされている)	SSL VNC プロキシ (HPDM コンソールにバンドルされている)	TCP	リッスン モードの SSL VNC プロキシ (リバース VNC)
40009	HPDM エージェント	HPDM サーバー	TCP	HP Device Management Agent が HP Device Management Server にリソース情報 (CPU、RAM、ディスク I/O、ネットワーク I/O、プロセスなど) を送信できるようにします。HP Device Management Server は HP Device Management Agent に処理停止コマンドを送信します

リポジトリのポート

表 B-9 リポジトリのポート（受信）

受信側ポート	Sender	Receiver	プロトコル	目的
20 & 21	HPDM コンソール HPDM ゲートウェイ HPDM エージェント マスター リポジトリ コントローラー	FTP サーバー (他社のソフトウェア)	TCP	FTP 用の初期設定ポート (リポジトリに使用)。ポート 20 はデータ転送用、ポート 21 はコマンド受信用です。FTP ポートは HPDM コンソールで設定できます。FTP サーバーにこの初期設定ポートを使用しない場合は、ファイアウォールを適切に設定してください

表 B-9 リポジトリのポート（受信）（続き）

受信側ポート	Sender	Receiver	プロトコル	目的
22	HPDM コンソール HPDM ゲートウェイ HPDM エージェント マスター リポジトリ コントローラー	SFTP サーバー（他社のソフトウェア）	TCP	SFTP 用の初期設定ポート（リポジトリに使用）。SFTP ポートは HPDM コンソールで設定できます。SFTP にこの初期設定ポートを使用しない場合は、ファイアウォールを適切に設定してください
137	HPDM コンソール HPDM ゲートウェイ HPDM エージェント マスター リポジトリ コントローラー	NetBIOS 名前サービス	UDP	ファイルおよびプリンターの共有用。NetBIOS 名前解決を使用できるようにします
138	HPDM コンソール HPDM ゲートウェイ HPDM エージェント マスター リポジトリ コントローラー	NetBIOS データグラム サービス	UDP	ファイルおよびプリンターの共有用。NetBIOS データグラムによる送受信を使用できるようにします
139	HPDM コンソール HPDM ゲートウェイ HPDM エージェント マスター リポジトリ コントローラー	NetBIOS セッション サービス	TCP	ファイルおよびプリンターの共有用。NetBIOS セッション サービスの接続を使用できるようにします
445	HPDM コンソール HPDM ゲートウェイ HPDM エージェント マスター リポジトリ コントローラー	Microsoft ディレクトリ サービス	TCP	ファイルおよびプリンターの共有用。名前付きパイプによる Server Message Block の送受信を使用できるようにします
989 & 990	HPDM コンソール HPDM ゲートウェイ HPDM エージェント マスター リポジトリ コントローラー	FTP サーバー（他社のソフトウェア）	TCP	FTPS 用の初期設定ポート（リポジトリに使用）。ポート 989 はデータ転送用、ポート 990 はコマンド受信用です。FTPS ポートは HPDM コンソールで設定できます。FTPS サーバーにこの初期設定ポートを使用しない場合は、ファイアウォールを適切に設定してください
40012	HPDM サーバー	マスター リポジトリ コントローラー	TCP	マスター リポジトリを管理するために HP Device Management Server がマスター リポジトリ コントローラーと通信できるようにします（このポートはマスター リポジトリ専用です）

表 B-10 リポジトリのポート（送信）

受信側ポート	Sender	Receiver	プロトコル	目的
20 & 21	マスター リポジトリ コントローラー	FTP サーバー（他社のソフトウェア）	TCP	FTP 用の初期設定ポート（リポジトリに使用）。ポート 20 はデータ転送用、ポート 21 はコマンド受信用です。FTP ポートは HPDM コンソールで設定できます。FTP サーバーにこの初期設定ポートを使用しない場合は、ファイアウォールを適切に設定してください
22	マスター リポジトリ コントローラー	SFTP サーバー（他社のソフトウェア）	TCP	SFTP 用の初期設定ポート（リポジトリに使用）。SFTP ポートは HPDM コンソールで設定できます。SFTP にこの初期設定ポートを使用しない場合は、ファイアウォールを適切に設定してください
137	マスター リポジトリ コントローラー	NetBIOS 名前サービス	UDP	ファイルおよびプリンターの共有用。NetBIOS 名前解決を使用できるようにします
138	マスター リポジトリ コントローラー	NetBIOS データグラム サービス	UDP	ファイルおよびプリンターの共有用。NetBIOS データグラムによる送受信を使用できるようにします
139	マスター リポジトリ コントローラー	NetBIOS セッション サービス	TCP	ファイルおよびプリンターの共有用。NetBIOS セッション サービスの接続を使用できるようにします
445	マスター リポジトリ コントローラー	Microsoft ディレクトリ サービス	TCP	ファイルおよびプリンターの共有用。名前付きパイプによる Server Message Block の送受信を使用できるようにします
989 & 990	マスター リポジトリ コントローラー	FTP サーバー（他社のソフトウェア）	TCP	FTPS 用の初期設定ポート（リポジトリに使用）。ポート 989 はデータ転送用、ポート 990 はコマンド受信用です。FTPS ポートは HPDM コンソールで設定できます。FTPS サーバーにこの初期設定ポートを使用しない場合は、ファイアウォールを適切に設定してください

索引

- A**
 - Active Directory 69
- D**
 - DHCP 39
 - サーバー、PXE イメージング用の設定 58
 - タグ 202 18
 - タグ 203 38, 39
- F**
 - [File and Registry]テンプレート 45
 - 一時停止 50
 - コマンド 49
 - スクリプト 51
 - ファイルのキャプチャ 46
 - ファイルの削除 47
 - ファイルの展開 47
 - プログラム レコード 50
 - レジストリ 48
- H**
 - HP Device Management Agent
 - 説明 3
 - HP Device Management Console
 - [HPDM Gateway] (HPDM ゲートウェイ) タブ 14
 - オペレーティング システムのタブ 13
 - 概要 12
 - システム要件 7
 - 説明 3
 - ログイン 12
 - HP Device Management Gateway
 - アクセス制御 74
 - システム要件 7
 - 説明 3
 - HP Device Management Server 36
 - システム要件 6
 - 説明 3
- HP Device Manager の更新プログラム
 - ソフトウェア 5
 - ドキュメント 5
- HPDM Agent
 - Agent 91
- HPDM Server Backup and Restore Tool (HPDM Server バックアップおよび復元ツール) 82
- HPDM のインストール 10
- HPDM の概要 2
- HP FTP Software Component Browser 80
- I**
 - IP スcope、設定 21
- L**
 - LDAP サーバー 69
- P**
 - PXE、定義 5
 - PXE イメージング
 - DHCP サーバーの設定 58
 - キャプチャする 57
 - 従来の Neoware デバイス 61
 - 展開する 58
 - ルーターを設定する 60
- S**
 - Status Snapshot 79
 - Status Walker 78
- V**
 - VNC Viewer を開く 35
- い**
 - イメージング、PXE を使用. PXE イメージングを参照
 - イメージング、PXE を使用しない
 - キャプチャする 55
 - 展開する 56
 - イメージング操作 53
- イメージングのサポート マトリックス 53
- か**
 - 概要 1
 - 書き込みフィルター、定義 5
- き**
 - キーの管理 73
- く**
 - グループに割り当てるアクセス権 68
- け**
 - 結果のテンプレート、開く 35
- し**
 - システム要件
 - HP Device Management Console 7
 - HP Device Management Gateway 7
 - HP Device Management Server 6
 - ネットワーク 9
 - ポート 10
 - マスター リポジトリ コントローラー 9
 - シャドウイング 35
- せ**
 - セキュリティ
 - HP Device Management Gateway のアクセス制御 74
 - 管理 67
 - キーの管理 73
 - 認証の管理 72
 - フィルター 41
 - ユーザー認証 69
 - 接続
 - キャプチャ 43
 - 展開 43

た

- タスク 24
 - アイコン 30
 - 一時停止 33
 - 延期 32
 - 管理 29
 - 再送信 34
 - 削除 34
 - 実行 29
 - 状態アイコン 30
 - すべてのユーザー、表示 35
 - 成功率の表示 34
 - 続行 33
 - 定義 5
 - パラメーター 31
 - パラメーターの設定 32
 - プロパティの表示 32
 - ログの表示 34
- タスク テンプレート
 - 一覧 89
 - インポート/エクスポート 25
 - お気に入りへの追加 25
 - 管理 24
 - 作成/編集 25
 - 定義 5

ち

- チャイルド リポジトリ
 - 削除 63
 - 設定 63
 - 説明 4

て

- デバイス
 - 管理 37
 - グループ化 38
 - 削除 38
 - シャドウイング 42
 - 情報の印刷 42
 - 設定、クローン作成 44
 - 設定、適用 44
 - タスク、定義 31
 - 定義 5
 - ネットワーク、接続状態の確認 41
 - 表示 37
 - プロパティ、表示 15

- ルール、定義 35
- レポート 76
- デバイスのグループ化 38
- デバイスの検出 18
 - IP 一覧によるウォーキング 21
 - IP 範囲によるウォーキング 21
- 手動登録 22
- デバイスのシャドウイング 42
- デバイス フィルター
 - 作成 40
 - 編集 40
- 電源の管理 43
- テンプレート シーケンス
 - 基本 28
 - 詳細 29
 - 定義 5

に

- 認証キー
 - インポート 73
 - エクスポート 73
 - 更新 73
 - 表示 74
- 認証の管理 72

ね

- ネットワークに関する要件 9

は

- パッケージ、定義 5

ふ

- フィルター
 - セキュリティ 41
 - デバイス、編集 40

ほ

- ポート、一覧 93
- ポートの要件 10

ま

- マスター リポジトリ
 - 設定 62
 - 説明 4
- マスター リポジトリ コントローラー
 - システム要件 9

ゆ

- ユーザー
 - インポート 70
 - グループへの割り当て 67, 68
 - 削除 67
 - 追加 67
 - 認証 69
 - パスワードの変更 68
- ユーザーの管理 67

よ

- 用語および定義 5

り

- リポジトリ 62
 - インポート 64
 - エクスポート 63
 - 管理 62
 - 説明 4
 - 同期 64
 - 内容の管理 64

る

- ルーター、PXE イメージング用に設定する 60
- ルール、定義 5

れ

- レポート
 - 管理 75
 - 作成に使用 76
 - テンプレートの追加 75
 - プラグイン ファイルのインポート 75

ろ

- ログイン、HP Device Management Console 12